2010年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名　クラス　講義区分	
コース中国語ⅢＡ　01<春>	
神　道　美映子	１単位

【講義概要】
基本的な中国語の知識を習得している学生を対象とする。四技能のレベルをバランスよく高め、通訳・翻訳の基本を学ぶ。

【学習目標】
中国語検定試験２級合格程度の語学力を習得することを目指す。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　第１課　就要～了；因为～，所以…；据说～；也就是说～；好像～
第３回　第２課　如果～；是～的；被；肯定
第４回　第３課　一～就…；哪儿～；要命；尽管；让
第５回　第４課　得～；怎么；光～；要不然；恐怕
第６回　第５課　之所以～，是因为…；打算～；不但～，而且…；尽可能；不是～就是…
第７回　第６課　别～；由；或者；简直；好在
第８回　中間試験
第９回　第７課　极了；即使～，也…；对～来说；要是～；刚～就…
第10回　第８課　却；几乎；有点儿；岂不是～吗？；无论～，都…
第11回　第９課　看上去～；～是～，…；干脆
第12回　第10課　不是～吗？；不是～，而是…；除了～以外；既～又…；不如～
第13回　第11課　连～都/也…；难怪；差点儿～；并；虽然～，但是…
第14回　第12課　既然～，就…；终于；越～越…；～看～看…；与其～，不如…
第15回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　70％　出席　30％
中間試験と期末試験により評価するが、出席状況および授業態度等を加味する。

【教科書】
黄漢青・杉野元子 大学生のための現代中国12話・Ⅱ 白帝社
準備学習の指示：授業前に本文・要点に目を通し、わからない語句があれば辞書で調べておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
コース中国語ⅢＡ　02<春>	
神　道　美映子	１単位

【講義概要】
中国語を１年間勉強した学生に対して、発音と文法の再確認をし、表現力の向上を目指すものである。１年次で習得した約700語を復習しながら、さらに語彙量を増やし、コミュニケーション能力及び読解力をつけるように授業を進める。

【学習目標】
中国語検定試験３級合格程度の語学力を習得することを目指す。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　復習
第３回　“可以”“要”／主述述語文
第４回　“因为”“可是”“吧”“呢”
第５回　連動文／“是～的”“怎么”
第６回　“了”“就”
第７回　結果補語(１)／“有点儿”“要是”
第８回　存現文／“又～又～”“一边～一边～”
第９回　“着”“再”／部分否定
第10回　方向補語／“让”／疑問詞の不定用法
第11回　可能補語／強調表現
第12回　“为了”“会”“～了～了”
第13回　結果補語(２)／“被”
第14回　“快～了”“把”
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　70％　出席　30％
定期試験により評価するが、出席状況、小テスト、授業態度などを加味する。

【教科書】
竹島毅　他　<新版>中国語さらなる一歩 白水社
準備学習の指示：授業前に必ず本文およびポイントに目を通し、わからない語句があれば意味を調べておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
コース中国語ⅢＢ　01＜春＞	
徐　　羽厚	1単位

【講義概要】
日常生活の中の場面を想定して、話す、聞く、書く、読むという4つの側面から繰り返すの練習を通じて、総合的な中国語力を伸びさせたい。

【学習目標】
中国の文化と生活についての中級教科書を使用することによって、中国語の基本文法を完全にマスターし、単語の量も更なる増やせます。講義の内容を通じて、中国についての知識より多く吸収し、中国語の読む力と話す能力を向上させ、専門である中国ビジネスの勉強により広い基礎を築きたい。

【講義計画】
第1回　実力測定と一年後期の内容の回顧
第2回　蘇州と杭州
第3回　長寿面
第4回　七夕
第5回　春節晩会
第6回　国技の卓球
第7回　大学進学試験
第8回　北京のタクシー運転手
第9回　海外留学帰国者
第10回　職を変える
第11回　一人っ子
第12回　追っかけ
第13回　砂嵐
第14回　期末テスト

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　15%　出席　15%
期末テストの成績を主にして、授業中不定期的な小テストと出席率などを総合的な評価

【教科書】
山下輝彦　　　蘇英霞 中国を語る～文化と生 金星堂
準備学習の指示
本書は中国の現在の様々な局面を紹介しながら、中級レベルの中国語習得してもらうことを目的に作成しました。この授業目標を達成するために、普段の授業を受け止めのほかに、語学学習の1つ方法暗記が大事です。暗記するくらいにCDを繰り返し聞けば、中国語の表現と同時に、中国語の美しい発音とリズムが身に付けます。

科目名　クラス　講義区分	
コース中国語ⅢＢ　02＜春＞	
徐　　羽厚	1単位

【講義概要】
日常生活の中の場面を想定して、話す、聞く、書く、読むという4つの側面から繰り返すの練習を通じて、総合的な中国語力を伸びさせたい。

【学習目標】
一年生の時に学んだ知識に基づいて、更なる中国語の語学力を向上させ、特に特定な場面に応じて、より適切な表現を選択する会話力をしっかりと身につける事が目標とする。

【講義計画】
第1回　復習:発音、挨拶、自己紹介などの内容
第2回　家庭について
第3回　家はどこですか
第4回　おいくつですか
第5回　今何時ですか
第6回　何時に起きますか
第7回　これはいくらですか
第8回　趣味は何ですか
第9回　大学生のアルバイト
第10回　誕生パーティへようこそ
第11回　電話を掛ける
第12回　道を尋ねる
第13回　レストランにて
第14回　期末テスト

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　15%　出席　15%
期末テストの成績を主にして、授業中不定期的な小テストと出席率など、総合的な評価

【教科書】
関中研=共著 中国語キャンパス．会話編　　（改訂版）朝日出版社
準備学習の指示
本「会話」編は、自己紹介や買い物など、1つの話題を巡って、いくつかの場面と文体上のバリエーシュンを設定し、会話を交わす形を取っている。授業目標を達成するために、一年生の時に習った中国語の基礎，即ち発音、基本語彙と基礎文法の復習とマスターすることが大切です。それから、授業する時に、積極的に会話を参加する覚悟を持つことが目標を達成するための重要なポイントです。

科目名　クラス　講義区分	
国際会計論［2］＜春＞	
柴　　理梨亜	2単位

【講義概要】
会計の役割や基礎の復習を交えながら、国際会計基準の進展や日本基準との関係、情報開示などについて、学生の意見交換も含め、会計情報のあり方について学習します。

【学習目標】
国際財務報告基準の役割や必要性を理解することに加えて、実際に企業が発行している英文財務諸表を利用しながら多くの英語の会計専門用語を身につけ、日本語の財務諸表とともに英文財務諸表の内容を理解することが学習目標である。
受講するに当たって、簿記と会計の基礎知識と会計に対する興味が必要条件。

【講義計画】
第１回　国際化時代のモノサシとしての会計
第２回　日本の会計ビッグバン
第３回　IASCの歩みと組織改革
第４回　世界共通のモノサシを求めて
第５回　IASBと新体制
第６回　国際会計基準と国際財務報告基準
第７回　エンロン事件とSOX法
第８回　EUの会計戦略
第９回　会計基準の国際的収斂
第10回　IASBとFASB
第11回　IASBとASBJ
第12回　国際会計基準の将来像
第13回　英文財務諸表を読む
第14回　英文財務諸表を読む
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　30%　出席　30%
出席、平常点とテストの結果を総合的に評価する。
授業中に積極的に発言することと、欠席しないことが内容を十分理解して、合格するために不可欠。

【教科書】
橋本　尚 2009年　国際会計基準の衝撃 日本経済新聞
教科書だけでは不十分なので、プリントも追加する。

【参考文献】
徳賀芳弘（著）「国際会計論相違と調和」中央経済社

飯田信夫（著）国際会計教育協会（編）「国際財務報告基準(IFRS)入門日本基準との違いをみる」財経詳報社

科目名　クラス　講義区分	
国際関係論　＜秋集＞	
松　村　昌　廣	4単位

【講義概要】
注意！！
この講義は「原論」のコースです。したがって、極めて哲学的、理論的、理屈詰めの内容となります。社会科学の基礎的な素養がないと、ついてこれない可能性が強いです。動機付けの強い学生向きです。「国際」という名前に迷わされないように留意してください。
より具体的な情勢分析を希望する学生は、ビデオなどを多用する「国際政治事情研究」の方を履修することをすすめます。
【学習目標】
国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、冷戦体制崩壊から激動する国際政治のダイナミズムを理論的に把握します。
【講義計画】
第１回　1　導入
　　　　1）国際関係論と国際関係における日本
第２回　1－2）国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システム的理解
第３回　1－3）社会科学における認識・方法論的論争と国際関係論
　　　　(1)現実主義　VS　理想主義
第４回　1－3）－(2)伝統主義　VS　科学主義
第５回　1－3）－(3)誇大理論主義　VS　個別理論主義
第６回　1－3）－(4)まとめ
第７回　2　総論　1）基本的捉え方　(1)現実主義
第８回　2－1）－(2)多元主義
第９回　2－1）－(3)グローバリズム
第10回　2－1）－(4)まとめ
第11回　2－2）分析のレベル　(1)政策決定システム
第12回　2－2）－(2)国家システム
第13回　2－2）－(3)国際システム
第14回　2－2）－(3)まとめ
第15回　前半の総括
第16回　3　各論　1）軍事的側面　(1)安全保障
第17回　3－1）－(2)紛争
第18回　3－1）－(3)まとめ
第19回　3－2）経済的側面（貿易・金融・投資・技術・開発）(1)市場機能中心主義
第20回　3－2）－(2)国家機能中心主義
第21回　3－2）－(3)資本形成中心主義
第22回　3－2）－(3)まとめ
第23回　3－3）秩序づけのための組織化側面　(1)国際法
第24回　3－3）－(2)国際機構
第25回　3－3）－(3)国際レジーム
第26回　3－3）－(4)まとめ
第27回　4－1）冷戦後の国際構造
第28回　4－2）日本の国際行動とその将来
第29回　全体の総括とレポート試験問題の解説
第30回　レポート試験の解答
【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%
1）出席・受講状態　　50%
2）前期試験　　　　　20%
3）後期試験　　　　　30%
4）冬休みレポート　　20%（希望者のみ）
＊冬休みレポート
参考文献３冊を読み、各著者の(1)国際政治観(2)国際政治学観の主要な内容について、三者を対比しながら簡潔に要約し、(3)現在の国際情勢では、どの著者の見方が妥当か論じなさい。
＊評価の目安
80～100%　・・・A　70～79%　・・・B　60～69%　・・・C
【教科書】
ポール・R・ビオティ、マーク・V・ウェッセルズ 国際関係論 －現実主義・多元主義・グローバリズム 彩流社
【参考文献】
E・H・カー『危機の20年』（岩波文庫）
モーゲンソー『国際政治』（福村出版）
シューマン『国際政治』（東大出版社）
【備考】
【準備学習の指示】テキストを予習復習に使うこと。また、参考文献にあげた書籍を読むこと。

科目名　クラス　講義区分	
国際機構論　<春集>	
軽　部　恵　子	４単位

【講義概要】
この講義では国際機構の成り立ちと仕組みについて、国連を中心に勉強します。武力紛争、大量破壊兵器、貧困、環境など世界共通の問題を解決するのに、国連を中心とした国際協力は欠かせません。国連について知りたい人、国際問題に強くなりたい人など、意欲的な学生を待っています。

国際機構論では、大学生なら誰もが持つべき世界史の基礎知識を確認しながら講義を進めます。したがって、秋学期に国際法を履修する予定の人は、春学期の国際機構論を先に履修するよう、強くすすめます。

国際機構論の前半と国際法の導入部分は似ていますが、両者は全く別の科目です。

国際問題に関する重大ニュースは、講義の予定外でも随時取り上げます。また、各種のドキュメンタリー・フィルムや外国政府、国連等のホームページも教材として積極的に使用します。

特別テーマの選定には、学生の希望も考慮します。また、国際機関で働く人や外交官をゲスト講師に招くことがあります。

【学習目標】
（１）　17世紀以降の世界史の流れを理解する。
（２）　国連の成り立ちと各組織の役割を把握する。
（３）　国際紛争解決の仕組みを理解し、その功罪を考える。

【講義計画】
第１回　国際機構とは何か
第２回　国際機構の歴史（１）　宗教改革と三十年戦争
第３回　国際機構の歴史（２）　フランス革命と市民革命
第４回　国際機構の歴史（３）　ナポレオン戦争とウィーン体制
第５回　国際機構の歴史（４）　ハーグ平和会議と軍拡競争
第６回　国際機構の歴史（５）　赤十字国際委員会の設立
第７回　第１次世界大戦（１）　サラエボ事件
第８回　第１次世界大戦（２）　近代兵器の登場
第９回　第１次世界大戦（３）　パリ講和会議
第10回　国際連盟（１）　国際連盟の目的
第11回　国際連盟（２）　国際連盟の問題点①
第12回　国際連盟（３）　国際連盟の問題点②
第13回　第２次世界大戦（１）　ファシズムの台頭
第14回　第２次世界大戦（２）　国際連盟の崩壊
第15回　第２次世界大戦（３）　国際連合の設立
第16回　国連の仕組み（１）　国連憲章①
第17回　国連の仕組み（２）　国連憲章②
第18回　国連の仕組み（３）　総会
第19回　国連の仕組み（４）　事務総長
第20回　国連の仕組み（５）　安保理①
第21回　国連の仕組み（６）　安保理②
第22回　国連の仕組み（７）　安保理③
第23回　国連の仕組み（８）　安保理④
第24回　国連の仕組み（９）　安保理⑤
第25回　国連の仕組み(10)　国際司法裁判所
第26回　特別テーマ（１）
第27回　特別テーマ（２）
第28回　特別テーマ（３）
第29回　まとめ
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100％　レポート　０％　出席　０％
2010年７月の学期末試験のみで評価します。教室内で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問、要望等を書くためで、「出席点」にはなりません。また、授業中に行う小テストは成績評価にいっさい関係ありません。

【教科書】
成美堂出版編集部編『一冊でわかるイラストでわかる図解世界史』成美堂出版
教科書は毎回講義で使用します。

【参考文献】
※「国際法」（秋学期）のページも見て下さい。
国際連合広報局『国際連合の基礎知識』関西学院大学総合政策学部　2009年
国連広報局編『創立50周年記念　国連年鑑特別号：国連　半世紀の軌跡』中央大学出版部　1997年
横田洋三編『国連による平和と安全の維持：解説と資料』国際書院　第１巻　2000年　　第２巻　2007年
明石康他編著『日本と国連の50年：オーラルヒストリー』ミネルヴァ書房　2008年
臼井久和、馬橋憲男編『新しい国連』有信堂高文社　2004年
勝野正恒、二村克彦編『国際公務員をめざす若者へ：先輩からのメッセージ』国際書院　2005年
川鍋道子『国際機関資料検索ガイド』東信堂　2003年
川端清隆『イラク危機はなぜ防げなかったのか：国連外交の六百日』岩波書店　2007年
庄司真理子、宮脇昇編著『グローバル公共政策入門』第２版　晃洋書房　2010年
最上敏樹『国連とアメリカ』岩波書店　2005年
国際地学協会『国旗と地図』国際地学協会　2004年
『世界の歴史』編修委員会編『もういちど読む山川世界史』山川出版社　2009年
水村光男監修　『この「戦い」が世界史を変えた』　青春出版社　2003年
まがいまさこ、堀洋子『もう一度学びたい世界の歴史』西東社　2005年
芝生瑞和編『図説フランス革命』河出書房新社　1989年
塚本哲也『メッテルニヒ：危機と混迷を乗り切った保守政治家』文藝春秋　2009年
『Theハプスブルク王家：華麗なる王朝の700年史』新人物往来社　2009年

【備考】
①履修登録する前に、教員作成の「講義運営のルール」を必ず読んで下さい。
②教員作成の印刷物を随時配布しますので、教務課掲示板を常に確認してください。
③「準備学習の指示」教室で毎回配布される講義レジュメの指示に従って、教科書や参考文献の関連部分を予習・復習してください。

科目名　クラス　講義区分	
国際金融論　＜通期＞	
一ノ瀬　　篤	４単位

【講義概要】
資金の取引（賃借、株式・債券投資など）の場合はもちろん、財貨・サービスの取引においても国際的な金融現象が生じる。このような、国と国との間に生じる様々な金融取引と、これに関連する通貨制度・為替相場制度をわかり易く説明する。

【学習目標】
為替相場、国際収支、通貨制度などについて、基礎的知識と用語を習得することを目標とする。金融政策、インフレ、海外投資などが重要関連項目なので、これらについても学習することとなる。
出来る限り、１回ごとの完結性を目指す。

【講義計画】
第１回　円高・円安：為替相場
第２回　為替相場と経済
第３回　金本位制度①：特質
第４回　金本位制度②：歴史
第５回　IMF制度①：特質
第６回　IMF制度②：歴史
第７回　管理通貨制度
第８回　変動相場制度
第９回　国際収支①：経常収支
第10回　国際収支②：資本収支
第11回　国際収支の仕分け問題
第12回　国際収支と為替相場
第13回　前半の回顧①：通貨制度と為替相場制度
第14回　前半の回顧②：国際収支重要ポイント
第15回　中間試験
第16回　為替相場理論①：国際収支説
第17回　為替相場理論②：購買力平価説
第18回　為替相場理論③：現代理論
第19回　貿易取引の実際
第20回　対顧客相場と銀行間相場
第21回　利子率平価の話
第22回　円の国際化
第23回　為替相場と金融政策①：原理
第24回　為替相場と金融政策②：実際
第25回　日本の海外投資
第26回　先物為替取引
第27回　デリバティヴ取引
第28回　後半の回顧①：為替相場理論
第29回　後半の回顧②：為替取引の実際
第30回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　10%　出席　10%

【教科書】
一ノ瀬作成の講義レジメを用いる

【参考文献】
秦忠夫・本田敬吉『国際金融のしくみ』（有斐閣）最新版

科目名　クラス　講義区分	
国際経営論［２］　＜秋＞	
藤　原　照　明	２単位

【講義概要】
世界の経済は益々グローバル化する現況下、グローバルビジネスや国際経営は実際にどのようなものでどのような行動が現場では取られているのか等、ビジネス現場の様子や日本企業多国籍化の要因と現状に付き理論だけでなく講師の国際経営とビジネスの現場経験や日々変化する国際情勢を交えてその実態を学ぶ。

【学習目標】
教科書は特に指定せず講師作成の資料（パワーポイント）を中心に進め、日々の新聞およびホームページを参考に企業の取る国際戦略を把握・分析することにより、国際経営実態の理解を目指す。

【講義計画】
第１回　受講に当ってのオリエンテーション／注意事項
　　　　＜国際経営序論＞
　　　　国際ビジネスと国際経営の歴史
第２回　日本の経済成長とその基盤
第３回　国際ビジネスの推移と規模
第４回　＜国際ビジネス環境について〉
　　　　ブレイトンウッズ体制が世界の貿易に与えた影響
第５回　EPA／FTAの現状
第６回　リスクマネジメント（カントリーリスク）
第７回　国際経営における異文化理解の重要性
第８回　経済発展と資源確保
第９回　＜国際経営戦略＞
　　　　海外直接投資の要因とパターン
第10回　直接投資と国際分業（立地優位）
第11回　グローバル経営戦略
第12回　国際マーケティング
第13回　組織と人事
第14回　BRIC’sの状況と問題点
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　10%　出席　10%
基本的には試験を重視するが、受講態度も合わせ重視する事がある。

【参考文献】
伊藤元重著『グローバル経済の本質』ダイヤモンド社
久保広正著『貿易入門』日本経済新聞社
根本孝他編『国際経営を学ぶ人のために』世界思想社
吉原英樹編『国際経営論への招待』有斐閣ブックス

科目名　クラス　講義区分	
国際経済論　＜秋集＞	
モグベル　ザファル	４単位

【講義概要】

現在は「グローバル化の時代」と言われていますが、グローバルな環境では「ヒト・モノ・カネ・技術・情報」が国境にほとんどさまたげられることなく双方向に移動しています。この講義では、グローバルな双方向の動きの中核をなす「モノの移動」(つまり、貿易)に焦点を置きます。あつかうテーマとしては、貿易の歴史、日本の貿易の現状分析、貿易実務、貿易理論の基礎などです。

この講義に登場する貿易の現状分析と理論体系は過去250年にわたり次のような問題を提起しつづけてきました。そもそも、貿易はどのような条件のもとに起こるのか、貿易の方向はどのようにして決まるのか。貿易のもたらす利益はどのようにして分配されるのか。自由な貿易はなぜ望ましいのか。そして、関税の導入などの貿易政策の実施は国内および国際社会にどのような影響をもたらすのか。これらの課題を、現状分析と理論の観点から分りやすく解説します。

【学習目標】

国際経済論の理論体系の基礎について、特に下記の分野について学び理解することを目指す。

１．国際収支
２．貿易理論
３．貿易政策

【講義計画】

第１回　国際経済入門：貿易と文明の歩み
第２回　国際収支統計の基礎知識
第３回　国際収支と対外資産負債残高
第４回　国際収支の調整とアブゾーブション・アプローチ
第５回　国際収支の調整と弾力性アプローチ
第６回　日本の国際収支の歴史
第７回　日本の国際収支の最近の動向
第８回　国際収支のまとめ
第９回　貿易理論の概要と貿易の「錬金術」
第10回　重商主義と絶対優位
第11回　特化と分業の限界
第12回　自由貿易のメリット・デメリット
第13回　保護主義のメリット・デメリット
第14回　機会費用と生産可能性フロンティア
第15回　オッファー・カーブと交易条件
第16回　比較生産費説とリカードの貿易理論　－１
第17回　比較生産費説とリカードの貿易理論　－２
第18回　ヘクシャー・オリーン理論
第19回　要素賦存と集約度
第20回　要素価格均等化定理
第21回　ヘクシャー・オリーン理論とリオンチェフ逆説
第22回　貿易理論のまとめ
第23回　日本の関税制度：特恵関税と高関税品目
第24回　関税効果の分析　－１
第25回　関税効果の分析　－２
第26回　経済統合と地域主義
第27回　多角的貿易体制と自由貿易協定
第28回　貿易政策のまとめ
第29回　総まとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】

試験　80％　レポート　０％　出席　20％
出席点は授業中に行う数回の小テストの結果によって決まる。

【教科書】

澤田　康幸 国際経済学 新世社

【備考】

準備学習の指示：
１．ミクロ・マクロ経済学の基礎を復習しておくこと。
２．テキストの該当部分の予習・復習を行うこと。
３．配布資料を正しく管理すること（資料の再配布はしません)。

科目名　クラス　講義区分	
国際交流特別講義－海外留学事情　01＜春＞ 国際交流特別講義－海外留学事情　02＜秋＞	
野　原　康　弘	２単位

【講義概要】

桃山学院大学には世界中に50以上の協定校があります。その協定校への長期留学はもちろんですが、短期語学研修や日本語教育実習も海外の協定校で行われています。さらに国際ボランティア活動など多様なプログラムを実施しています。

この講義では、留学や研修、日本語教育実習やボランティア活動などに参加を計画している学生のために、海外の事情に詳しい先生方に順番に講義していただきます。

講義の内容と学習目標からもわかるように、主として１年生と２年生に適した科目です。

講義終了後に国際センターのプログラムのいずれかに参加することが望ましい。

【学習目標】

海外の大学事情やその国の文化を理解すること。
留学・研修・国際ボランティアなどの内容を十分に把握すること。
国際センターのプログラムに積極的に参加すること。

【講義計画】

第１回　桃山学院大学での留学・研修の可能性について
（ゲスト講師の都合により、各国事情の順番を変更する場合があります。
正式な順番は、第１回のこの講義の中でお伝えします。）
第２回　英語圏への留学・研修
第３回　英語学習の方法と体験
第４回　韓国留学・研修
第５回　イタリア留学・研修
第６回　ドイツ語圏留学・研修
第７回　スペイン留学・研修
第８回　ロシア留学・研修
第９回　フランス留学・研修
第10回　インドネシア留学・研修
第11回　中国、台湾留学・研修
第12回　国際ボランティア活動
第13回　海外での日本語教育実習
第14回　まとめ
第15回　期末試験

【成績評価の方法】

試験　100％
４回以上の欠席は単位認定対象外になります。

【参考文献】

講義中に適宜指示します。

【備考】

［準備学習の指示］
一つの講義終了時に、次回の講義のための課題を出しますので真剣に取り組んでください。
・インテグレーション科目
・04～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分		
国際交流特別講義－現代ヴェトナム事情		
片　山　須美子 蓮　田　隆　志	01＜春＞ 02＜秋＞	２単位

【講義概要】
現代ベトナムについての基礎的知識を獲得するとともに、ベトナム語入門的内容も取り扱う。扱うトピックは歴史・自然・文化・政治などできるだけ多面的になるように配慮する。

【学習目標】
アオザイや美食など、すっかり日本での知名度が上がったベトナムだが、まだまだ知られていない側面が多い。本講義を通じて、バランスのとれた「等身大の他者」としてベトナムを見られるようになって欲しい。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　ベトナムについての基礎知識
第３回　植民地支配と抵抗運動
第４回　ベトナム戦争(１)
第５回　ベトナム戦争(２)
第６回　長い「ベトナム戦争」とドイモイ
第７回　ふたつのデルタ
第８回　環境と生業
第９回　少数民族
第10回　ベトナム共産党
第11回　国家機関
第12回　軍隊
第13回　中央と地方
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100％　レポート　０％　出席　０％

【参考文献】
今井昭夫・岩井美佐紀（編著）『現代ベトナムを知るための60章』明石書店

【備考】
【準備学習の指示】なじみのない地域なので、地図帳などで地理的な位置を確認しておくこと。
・04～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
国際社会特講－グローバル化がつくる社会問題　＜秋＞	
篠　原　千　佳	２単位

【講義概要】
この国際社会特別講義をグローバル化がつくる社会問題と題し、今日のグローバル化社会に見られるいくつかの現象・問題を取り上げ社会学的に考察する。現代社会の現象と問題を国内のみならず、国外の現状や海外からの視点も学びながら検証したい。トピックとしては、日本社会と文化への視点、学校から職業への移行、格差社会、犯罪、性別役割分業、民族的マイノリティー・移民・在日外国人、健康に関する問題など。

【学習目標】
最近のグローバル化する社会で起こっている現象や問題を法・制度の変化や影響を考えながら社会学的に理解・分析する能力を育てることを目標とする。この学期の最終目標は、価値観の多様化する現代社会現象・問題を多角的な視点で理解・分析できるようになることである。

【講義計画】
第１回　講義紹介
第２回　グローバル化社会
第３回　日本社会と文化への視点－社会学理論と調査方法
第４回　ライフ・コース１－学校から職業への移行
第５回　ライフ・コース２－性別役割分業
第６回　格差社会－グローバル化と少子高齢化日本の格差
第７回　これまでのまとめと復習
第８回　犯罪１－犯罪の現実と社会意識の差
第９回　犯罪２－セクハラ、DV
第10回　多様な日本人１－日本のマイノリティー
第11回　多様な日本人２－移民・在日外国人
第12回　健康とスポーツ１－食、メタボ、ダイエット
第13回　健康とスポーツ２－スポーツ
第14回　試験準備
第15回　期末試験

【成績評価の方法】
備考　基本的な理解を試験と自由選択テーマの論述で確認するほかに、授業への参加・貢献の総合的な判断で評価する。毎回講義時間内外の課題に取り組み、積極的に授業参加・貢献することに加えて、協調性を持って他の受講生とも課題に取り組むことが求められる。

【教科書】
第一回目の講義で指示する。

【参考文献】
第一回目の講義で指示する。

【備考】
準備学習
毎回必ず予習・復習し授業に臨むこと。基本的には、指示された文献を熟読し、質問に答えられるように準備をしておくこと。授業内外での提出課題は個人、ペア、グループ・ワークなど多様であり、自立心と積極性に加えて協調性が求められる。
・02～09生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
国際社会福祉論［2］＜秋＞	
根　本　嘉　昭	2単位

【講義概要】
「小指の痛みは全身の痛み」というフレーズがあります。地球上の誰か１人でも不幸な人がいる限り、地球全体として幸せにならないということです。この授業ではその「痛み」の実態に迫り、社会福祉の視点から、その問題の捉え方、その解決にむけての努力のあり方や課題などについて考察していきます。

【学習目標】
○vulnerabilityの実態について理解する。
○vulnerabilityの問題に取り組んでいる機関・団体について理解する。
○地球市民の一員として何ができるのか、今後の課題について考察を深める。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　vulnerabilityの実態（１）
第３回　vulnerabilityの実態（２）
第４回　災害とは何か（１）
第５回　災害とは何か（２）
第６回　緊急救援
第７回　開発協力
第８回　難民・避難民問題
第９回　国際連合とその関連機関
第10回　国際赤十字
第11回　各国政府・NGO
第12回　国際福祉・協力の視点（１）
第13回　国際福祉・協力の視点（２）
第14回　私たちにできること
第15回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
レポート　100％
レポートを基本としますが、授業への参加の状況なども加味します。

【教科書】
テキストは使用しません。必要に応じてプリント等配布します。

【参考文献】
世界子供白書　各年版
その他、授業時、必要に応じて紹介します。

【備考】
【準備学習の指示】
授業中に紹介した文献・資料等を予習・復習に活用してください。

科目名　クラス　講義区分	
国際政治史　＜通期＞	
村　山　高　康	4単位

【講義概要】
国際政治史を、冷戦史中心に講義する。いわゆる「冷戦」は、第２次大戦後米ソ２大陣営に世界が対立したときから、1991年のソ連崩壊までの過程をいう。本講義では、その遠因からはじめ、「冷戦」そのものの具体的展開過程を概観し、さらに「冷戦」の崩壊過程を分析する。講義の始めには、国際政治学の理論的枠組みをもとに、国際政治史そのものの学問的発展過程を解説し、「冷戦時代」のみならず広く現代国際政治への理解を深めるための基本的知識涵養に努める。

【学習目標】
冷戦時代の世界はどのような「体制」であったかを様々な角度から学び、それが人類の歴史において、いかなる意味を持つものであったかを理解すること。また冷戦はなぜ発生したかの原因を学び、それがなぜ崩壊したかを分析することで「冷戦後」の現在の世界状況を認識することを目指す。

【講義計画】
第１回　国際政治とは何か
第２回　国際政治における現代史の意味
第３回　世界史の中の日本近現代史
第４回　第１次世界大戦の発生とその意味
第５回　第２次大戦と戦後冷戦
第６回　鉄のカーテン
第７回　マーシャルプラン
第８回　ベルリン封鎖
第９回　朝鮮戦争
第10回　アメリカのマッカーシズム
第11回　スターリン死後—雪解け
第12回　スプートニク・ショック
第13回　ベルリンの壁
第14回　キューバ事件
第15回　ヴェトナム戦争
第16回　核兵器—恐怖の均衡
第17回　アメリカの反戦・公民権運動
第18回　プラハの春と東欧諸国
第19回　米中国交回復
第20回　デタントー東西対立の緩和
第21回　第３世界の変化
第22回　アメリカと中南米諸国
第23回　デタントの終わり－新冷戦の勃発
第24回　ソ連のアフガン侵攻
第25回　インテリジェンスと冷戦
第26回　スターウオーズ
第27回　ベルリンの壁崩壊
第28回　冷戦後の世界
第29回　まとめ

【成績評価の方法】
試験：100％

【参考文献】
テキストは使用しない。なお国際政治関係の映像ドキュメントのソフトが多数放映されているので、それらを参照することが学習に効果的である。また講義の中でも随時使用する。

科目名　クラス　講義区分	
国際政治事情研究　＜春集＞	
松　村　昌　廣	４単位

【講義概要】
政治学、社会学、経済学など、社会科学の基礎をよく理解した３・４年生を念頭に講義を行う。また、当然、高校の世界史、日本史、地理、政治経済、現代社会などの関連科目をしっかり学習してきたことを前提に講義を行う。１年生もこの講義をとれるが、受講希望学生には各自その準備ができているか、高い意欲があるか確認することを求める。

この講義では発展途上世界を比較分析に必要な基本的な発想、着眼点、分析手法を会得するため、はじめに初歩的な理論的考察を行い、その後、いくつかの重要なケース・スタディーに取り組む。

しかし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能であるから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性に鑑み、この「授業計画」にあるように、大きく分けて３つのテーマを取り扱うこととする。この講義により、発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを実例を示しながら学生に理解させたい。

【学習目標】
ビデオや資料を多用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進める。ただし、ここでいう「初級レベル」というのは簡単という意味ではない。当然、高校レベルの知識、大学生としての社会科学の思考や基本的知識を習得していることを前提にしている。こうした準備ができていない学生には単位の取得は困難であろう。

【講義計画】
第１回　国際関係論と地域研究
第２回　システム論的アプローチ
第３回　比較研究アプローチの危機・・・「理論の島々」
第４回　民族紛争(１)アイデンティティー、宗教、民族
第５回　民族紛争(２)ユーゴスラビア紛争
第６回　民族紛争(３)コソボ紛争
第７回　民族紛争(４)その他の民族紛争
第８回　民族紛争(５)フランスにおける移民問題・・・アラブ系移民を中心に
第９回　民族紛争(６)総括
第10回　国際テロ・アフガン問題(１)国際政治と宗教（イスラム教)
第11回　国際テロ・アフガン問題(２)国際政治と宗教（ユダヤ教)・・・イスラエルを焦点に
第12回　国際テロ・アフガン問題(３)中東戦争
第13回　国際テロ・アフガン問題(４)アフガン反テロ作戦
第14回　国際テロ・アフガン問題(５)イラク戦争
第15回　北朝鮮(１)朝鮮半島の戦略的位置付けと地理的要因
第16回　北朝鮮(２)朝鮮半島の歴史・・・戦争と平和の観点から
第17回　北朝鮮(３)北朝鮮の政治と社会
第18回　北朝鮮(４)北朝鮮の国際行動・・・不法活動を中心に
第19回　北朝鮮(５)北朝鮮と日本の関係・・・経済・金融関係を中心に
第20回　北朝鮮(６)日本の安全保障に与える影響
第21回　中国(１)中国大陸の地理と戦略環境
第22回　中国(２)中国の歴史・・・戦争と平和の観点から
第23回　中国(３)中国の近現代史・・・国内的混乱と国際関係
第24回　中国(４)中国の現状・・・社会的不均衡拡大と政治的安定性の問題
第25回　中国(５)日本の安全保障に与える影響
第26回　中国(６)まとめ
第27回　日本の経済体制と歴史的経験(１)満洲国と1940年体制
第28回　日本の経済体制と歴史的経験(２)戦時動員体制と戦後復興
第29回　日本の経済体制と歴史的経験(３)高度経済成長の成功と矛盾
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　50％　出席　50％
Ａを目指す学生・・・講師の指示に従い研究レポートを作成
Ｂ・Ｃを目指す学生・・・通常の学年末試験を受ける
毎回出欠をとる。試験問題は最低でも８割の出席率がない者には容易に答えることがでない総合的な内容である。学習意欲の低い者には単位を取得することは困難であろう。

【教科書】
松村昌廣『動揺する米国覇権』現代図書 現代図書

【備考】
【準備学習の指示】テキストを予習復習に使用すること。

科目名　クラス　講義区分	
国際法　＜秋集＞	
軽　部　恵　子	４単位

【講義概要】
国際法がわかると、新聞やテレビの国際ニュースがわかります。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。この講義では国際法の基礎を学びます。

国際法の勉強には世界史の基礎知識が必要不可欠です。春学期の国際機構論では、国際法・国際機構論の視点から世界史上の主なできごとを取り上げつつ、講義を進めます。国際法を履修する予定の人は、春学期の国際機構論を先に履修するか、あるいは高校程度の世界史を予め自分で勉強して下さい。

国際法の導入部分と国際機構論の前半は似ていますが、両者は全く別の科目です。

国際問題に関する重大ニュースは、講義の予定外でも随時取り上げます。また、各種のドキュメンタリー・フィルムやホームページも教材として積極的に使用します。

特別テーマの選定には、学生の希望も考慮します。また、外交官など国際法に関連した仕事をしている人をゲスト講師に招くことがあります。

【学習目標】
（１）　国際法の重要分野の基礎を理解する。
（２）　国際法の視点から国際ニュースを考察する習慣を身につける。
（３）　生活にかかわる身近な国際法を認識する。

【講義計画】
第１回　国際法とは何か
第２回　戦争と平和の法(１)　宗教改革と三十年戦争
第３回　戦争と平和の法(２)　フランス革命とナポレオン戦争
第４回　戦争と平和の法(３)　ハーグ平和会議とハーグ法
第５回　戦争と平和の法(４)　赤十字国際委員会とジュネーヴ法
第６回　国際法の重要原則(１)　合意は拘束する
第７回　国際法の重要原則(２)　国際法と国内法の関係①
第８回　国際法の重要原則(３)　国際法と国内法の関係②
第９回　国家(１)　国際法上の国家
第10回　国家(２)　国家管轄権①　属地主義と国籍主義
第11回　国家(３)　国家管轄権②　犯罪人引渡
第12回　国家(４)　領域①　領域の得喪
第13回　国家(５)　領域②　領土紛争
第14回　国家(６)　領域③　無害通航権
第15回　国家(７)　領域④　通過通航権
第16回　国家(８)　領域⑤　領空と宇宙空間
第17回　国家(９)　国家責任
第18回　国家(10)　外交的保護
第19回　国家(11)　国籍
第20回　条約(１)　条約案の交渉
第21回　条約(２)　署名と批准
第22回　条約(３)　効力発生
第23回　条約(４)　無効と終了
第24回　条約(５)　留保
第25回　条約(６)　条約の承継
第26回　特別テーマ(１)
第27回　特別テーマ(２)
第28回　特別テーマ(３)
第29回　まとめ
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100％　レポート　０％　出席　０％
2011年２月の学期末試験のみで評価します。教室内で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問、要望等を書くためで、「出席点」にはなりません。また、授業中に行う小テストは成績評価にいっさい関係ありません。

【教科書】
奥脇直也編集代表 国際条約集2010 有斐閣
教科書は毎回講義で使用します。教科書販売期間終了後、出版社で在庫切れになることがあります。条約集は毎年改訂されており、受講生が指定された版や出版社以外の条約集を使用することへの配慮はありません。

【参考文献】
※「国際機構論」（春学期）のページも見て下さい。
国際法学会編『国際関係法辞典』第２版　三省堂　2005年
横田洋三編『国際法入門』第２版　有斐閣　2005年
大沼保昭編『資料で読み解く国際法』第２版　全２巻　東信堂　2002年
池上彰『そうだったのか！現代史』集英社　2000年
池上彰『そうだったのか！現代史パート２』集英社　2003年
加藤陽子『戦争の日本近現代史：東大式レッスン！　征韓論から太平洋戦争まで』講談社　2002年
加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社　2009年
門奈直樹『現代の戦争報道』岩波書店　2004年
神田文人、小林英夫編『決定版20世紀年表』小学館　2001年
成美堂出版編集部編『一冊でわかるイラストでわかる宗教史』成美堂出版　2008年
ニック・ヤップ『世界を変えた100日：写真がとらえた歴史の瞬間』日経ナショナル・ジオグラフィック社　2008年
武光誠『これだけは知っておきたい三大宗教』ナツメ社　2007年
月本昭男監修『図説　地図とあらすじで読む聖地エルサレム』青春出版社　2005年
船本弘毅監修『図説　地図とあらすじで読む聖書』青春出版社　2004年
皆川達夫監修、宮崎晴代『バロック音楽の名曲』ナツメ社　2008年

【備考】
①履修登録する前に、教員作成の「講義運営のルール」を必ず読んで下さい。
②教員作成の印刷物を随時配布しますので、教務課掲示板を常に確認してください。
③「準備学習の指示」教室で毎回配布される講義レジュメの指示に従って、条約集や参考文献の関連部分を予習・復習してください。

科目名　クラス　講義区分	
国民経済計算論　<秋集>	
桂　　昭　政	４単位

【講義概要】
本講義ではGDP(国内総生産)、産業連関表等の国民経済計算の基礎知識について学習するとともに、わが国の国民経済計算データを利用して日本経済の動向の把握をも行っていきたいと考えている。なお、可能な限りデータのグラフ作成等のパソコン実習を行う予定である。

【学習目標】
国民経済計算論の勉強を通じてマクロ経済学、日本経済の動向の理解がより一層促進するようにしていきたいと考えている。

【講義計画】
第１回　１．この授業に関するガイダンス
なお、データ処理実習等の関係で順序が変動する場合がありうる。
第２回　２．経済循環と国民経済計算－日本経済の全体像の把握
第３回　３．経済循環図式と経済学者－マルクスの再生産表式
第４回　４経済循環図式と経済学者-ケインズの所得循環図
第５回　５．経済循環図式と経済学者-レオンチェフの産業連関表
第６回　６．現代の経済循環図式-国連のSNA
第７回　７産業連関表の見方（１）販路構成と費用構成、産業連関表の４つのブロック
第８回　８産業連関表の見方（２）産業連関表の特徴である第１ブロックについて
第９回　９産業連関表の見方（３）産業連関表の第２ブロックと国民所得統計の関係
第10回　10.産業連関表の見方（４）産業連関表の第３ブロックと国民所得統計の関係
第11回　11.SNAの生産局面―SNAデータから見た日本経済
第12回　12.SNAの生産局面の把握－SNAの生産勘定の解説
第13回　13.SNAの生産勘定とGDP（国内総生産）
第14回　14.SNAの生産勘定とGDE（国内総支出）
第15回　15.SNAの所得の分配局面－SNAデータから見た日本経済
第16回　16.SNAの所得分配局面の把握－SNAの所得勘定の解説
第17回　17.SNAの所得勘定と国民総所得（国民総生産）
第18回　18.SNAの所得勘定と国民所得
第19回　19.SNAの所得勘定と所得の再分配（１）
第20回　20.SNAの所得勘定と所得の再分配（２）
第21回　21.SNAの所得勘定と可処分所得、消費支出
第22回　22.SNAの所得勘定と貯蓄率
第23回　23.SNAの資本蓄積の局面－SNAデータから見た日本経済
第24回　24.SNAの資本蓄積局面の把握－SNAの蓄積勘定の解説
第25回　25.SNAの蓄積勘定とＩ－Ｓバランス
第26回　26.SNAの蓄積勘定と日本経済の資金の循環
第27回　27.SNAのストック勘定とキャピタルゲイン、キャピタルロス
第28回　28.SNAのストック勘定と日本経済の資産構成の特徴
第29回　29学期末試験

【成績評価の方法】
試験　90％　出席　10％
出席評価は10%と低いが小テストの実施→翌授業の小テストの講評を通じて授業内容の理解が深まるとともにそれが期末テストに影響するから10%ということで授業への出席をあなどってはならない。

【教科書】
追って指示する。

【参考文献】
開講時に言及する

【備考】
【準備学習の指示】
経済の知識、理論を自分のものにするには、絶えず知識、理論を現実の経済問題にあてはめて考えることが必要であり、常日頃から経済問題、経済の動きに関心を持つこと。そのために新聞等の経済記事を読むように努めること。

科目名　クラス　講義区分	
コスト・マネジメント　＜秋＞	
坂　手　恭　介	２単位

【講義概要】
まず、コストマネジメント手法の全体像を把握し、個別手法の理解に進む。マネジメント手法は経営環境、企業組織、市場特性、財務体質などの影響を強く受けるので、これらに対する理解力が求められる。同時に、会計全般の基礎力も必要になるが、トピックごとに簡単な入門的解説を加えて講義を進める。
　※受講者は「原価計算システム」の単位を取得しているか、同等の基礎力を有していることが求められる。

【学習目標】
産業社会でのコスト管理問題に対する基礎的理解力を得ることを目標とする。

【講義計画】
第１回　コストマネジメントの基礎知識
第２回　コストマネジメントと原価計算
第３回　標準原価管理①
第４回　標準原価管理②
第５回　標準原価管理③
第６回　CVP分析とコストマネジメント
第７回　CVP分析と利益計画
第８回　設備投資の経済性計算①
第９回　設備投資の経済性計算②
第10回　ライフサイクル・コスティング
第11回　品質原価計算
第12回　ABC・ABM
第13回　予算管理①
第14回　予算管理②
第15回　総合演習（期末テスト）

【成績評価の方法】
試験　60％　出席　40％

【備考】
【準備学習の指示】
前回の講義内容を復習し、整理しておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
子ども家庭福祉論A　＜春＞	
福　田　公　教	２単位

【講義概要】
　子ども家庭福祉論Ａでは、子ども家庭福祉が取り組むべき問題の理解を深めるために、子ども家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要を取り上げる。とりわけ、現代社会の子育てを取り巻く課題、一人親家庭、子ども虐待及びDV等の課題をみていく。そのうえで、子ども家庭福祉の歴史的展開や子どもの権利のあり方を概観する。また、ソーシャルワーク援助において必要となる子ども家庭福祉に関わる制度や関連法制度もみていく。

【学習目標】
・子ども家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解できる。
・子ども家庭福祉制度の発展過程について理解できる。
・子どもの権利について理解できる。
・相談援助活動において必要な子ども家庭福祉制度や子ども家庭福祉に係る他の制度について理解できる。

【講義計画】
第１回　子ども家庭の生活実態と社会情勢（データでみる子ども家庭を取り巻く状況）
第２回　福祉需要の実際（一人親家庭、子ども虐待・DV、子育て支援・青少年育成の状況）
第３回　子ども家庭福祉制度の発展過程（子ども家庭福祉制度の歴史的展開と福祉改革）
第４回　子どもの定義と権利（子どもの定義と子どもの権利保障の現状と課題）
第５回　子ども家庭福祉法制Ⅰ（児童福祉法の概要）
第６回　子ども家庭福祉法制Ⅱ（児童虐待防止法・DV防止法の概要）
第７回　子ども家庭福祉法制Ⅲ（母子及び寡婦福祉法・母子保健法・売春防止法の概要）
第８回　子ども家庭福祉法制Ⅳ（児童に関わる手当法の概要）
第９回　子ども家庭福祉法制Ⅴ（次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法の概要）
第10回　子ども家庭福祉法制Ⅵ（子ども家庭福祉制度における組織及び団体の役割）
第11回　子ども家庭福祉法制Ⅶ（子ども家庭福祉制度における組織及び団体の実際）
第12回　子ども家庭福祉を支える人（子ども家庭福祉制度における専門職の役割と実際）
第13回　子ども家庭福祉に関する地域活動（地域活動・多職種連携とネットワークの実際）
第14回　子ども家庭福祉の相談支援（児童相談所の役割と実際）
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　70％　レポート　10％　出席　20％

【教科書】
山縣文治編 よくわかる子ども家庭福祉 ミネルヴァ書房

【備考】
【準備学習の指示】
テキストの通読やキーワード等について、予習復習が必要となる。
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
子ども家庭福祉論B　＜秋＞	
福　田　公　教	２単位

【講義概要】

子ども家庭福祉論Ｂでは、子ども家庭福祉が問題を解決するための社会資源の理解を深めるために、現在の子ども家庭福祉の方向性を明らかにした上で、子ども家庭福祉行政の仕組み、子ども家庭福祉に関わる機関や児童福祉施設を取り上げる。とりわけ、児童相談所を中心とする相談支援体制と児童養護施設を中心とする社会的養護の現状を見ていく。さらに、子ども家庭福祉に関わる機関や施設での援助者や援助技術を概観する。その過程で、子どもと家庭および地域を対象としたサービスの実際等もみていく。

【学習目標】

・子ども家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解できる。
・子ども家庭福祉制度の発展過程について理解できる。
・子どもの権利について理解できる。
・相談援助活動において必要な子ども家庭福祉制度や子ども家庭福祉に係る他の制度について理解できる。

【講義計画】

第１回　社会福祉改革からみる子ども家庭福祉
第２回　児童福祉六法と関連法規
第３回　国・地方の子ども家庭福祉行政
第４回　財源と財政の動向、利用者の費用負担の仕組み
第５回　児童相談所を中心とする相談機関
第６回　児童福祉施設の体系と運営
第７回　社会的養護と家庭的養護について
第８回　児童福祉施設の展望
第９回　子ども家庭福祉サービスの実際①（里親）
第10回　子ども家庭福祉サービスの実際②（保育）
第11回　子ども家庭福祉サービスの実際③（ひとり親家庭）
第12回　子ども家庭福祉サービスの実際④（子どもの虐待）
第13回　子ども家庭福祉サービスの実際⑤（障害児福祉）
第14回　子ども家庭福祉サービスの実際⑥（少年非行）
第15回　まとめ

【成績評価の方法】

試験　70％　レポート　10％　出席　20％

【教科書】

山縣文治編 よくわかる子ども家庭福祉 ミネルヴァ書房

【備考】

【準備学習の指示】
テキストの通読やキーワード等について、予習復習が必要となる。
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
コミュニカティブ英文法　＜春集＞	
三　宅　　亨	４単位

【講義概要】

言葉を用いて聞き手や読み手に自分の伝えたい内容（意味）を表現するには、まず語彙を身につけることが必要である。しかし、いくら語彙が増えても、その使い方を知らなければ日常会話の初歩的な決まり文句程度の片言の域を超えることはできない。いくつもの語を適切につなぎ、正確に意味の伝わる文を作り出す能力（文法力）がなければ自分の言いたいことの半分も言い表せない。文は単に語が無秩序に並んだものではなく、一定のルールに従って組み立てられたものである。その構造を理解し、使いこなせるようにしなければ、文を読んだり、書いたり、聴いて理解したり、話すことはできない。

この講義では、英語によるコミュニケーションを図る際に求められる統語論を中心に、高校卒業までに身につけた基礎的な英文法知識を現実に使われている英語と比べて整理しなおし、実際に英語が使えるようにするという実用面と同時に伝統文法から最新の言語理論への橋渡しを試みる。

この科目は英語習得の基礎になるので１年次に履修することが望ましい。

【学習目標】

１．英語の構造を理解すること。
２．英語の文法規則を単なる知識ではなく、規則を使って英文を作れる（話す・書く）ようになる。

【講義計画】

第１回　講義の概要（第一回目の授業は必ず出席すること）
　　　　英語の基礎学力測定
第２回　文(１)
第３回　文(２)
第４回　文(３)
第５回　動詞と文型(１)
第６回　動詞と文型(２)
第７回　英語の発音：文強勢
第８回　時制と相(１)
第９回　時制と相(２)
第10回　時制と相(３)
第11回　時制と相(４)
第12回　態(１)
第13回　態(２)
第14回　話法
第15回　復習
第16回　助動詞(１)
第17回　助動詞(２)
第18回　助動詞(３)
第19回　助動詞(４)
第20回　法と条件文(１)
第21回　法と条件文(２)
第22回　法と条件文(３)
第23回　否定
第24回　形容詞(１)
第25回　形容詞(２)
第26回　副詞(１)
第27回　副詞(２)
第28回　情報構造
第29回　文の構成要素の移動
第30回　復習

【成績評価の方法】

試験　90％　出席　10％
　試験は、学年末の定期試験以外に随時小テストを行う。
　出席・遅刻には厳しく対処する。正当な理由なくして６回以上欠席した学生には、それ以降の受講を認めない。

【教科書】

　毎回プリント(handouts)を配布する。

【参考文献】

　教室で、その都度指示する。

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
コミュニケーション概論　＜春集＞	
金　本　伊津子	４単位

【講義概要】

“We cannot not communicate!” 私たちは言葉を発していないときも、言葉ならざる言葉で間断なくコミュニケーションを行って他者（物）との関係性を構築する。私達のコミュニケーション行為をとおせば、満月の影は「ウサギの餅つき」となり、黒色と白色のコンビネーションは「死・喪」となり、「嫌いだ」という言葉も「好き」になる。

近年、人類はコミュニケーションの技術をすさまじく発達させ、国境や文化を越えて情報を発信・受信できる状況を作った。しかしながら、同時多発テロ事件、イラク戦争などの結果を振り返ると、人類のコミュニケーション能力は、さほど上達していないことがわかる。

この科目においては、人間のコミュニケーション行為を様々な角度から解剖しながら、コミュニケーションの基本的な概念を理解する。

【学習目標】

(１)人間のコミュニケーション行為を分析する過程をとおして、自分のコミュニケーション行為を振り返り、個々のコミュニケーション能力を高めるための基礎固めをすることを目標とする。
(２)プレゼンテーションなどのコミュニケーションの技法を身につける。

【講義計画】

第１回　コースの概要
第２回　言語の獲得と発達過程(１)：言語使用の生物学的基盤
第３回　言語の獲得と発達過程(２)：言語能力の生得性
第４回　男と女のコミュニケーション(１)：男女はなぜ惹かれあうのか？男女はなぜすれ違うのか？
第５回　男と女のコミュニケーション(２)：女と男はどこがどのように違い、その違いにはどんな意味があるのか？脳の男女差を生かすには？
第６回　男と女のコミュニケーション(３)：性の揺らぎとコミュニケーションの未来
第７回　動物のコミュニケーション(１)：動物行動学から学ぶこと
第８回　動物のコミュニケーション(２)：人間のコミュニケーションの特徴
第９回　言語コミュニケーション(１)：シャーロック・ホームズの暗号解読
第10回　言語コミュニケーション(２)：言語と思考様式
第11回　非言語コミュニケーション(１)：ノンバーバル・コミュニケーションの生得性
第12回　非言語コミュニケーション(２)：ノンバーバル・コミュニケーションの文化差
第13回　非言語コミュニケーション(３)：ノンバーバル・コミュニケーションの応用
第14回　復習テストにむけての総復習
第15回　復習テスト
第16回　広告のコミュニケーション：広告のイメージと記号論的分析
第17回　うわさのコミュニケーション(１)：うわさ話の威力
第18回　うわさのコミュニケーション(２)：都市伝説
第19回　説得のコミュニケーション(１)：どのようにして説得されてしまうのか
第20回　説得のコミュニケーション(２)：説得の技術
第21回　説得のコミュニケーション(３)：プレゼンテーションの技法
第22回　メディア・コミュニケーション(１)：「千の丘ラジオ」と大量虐殺
第23回　メディア・コミュニケーション(２)：匿名性・仮想現実
第24回　異文化間コミュニケーション(１)：文化コンテクストとコミュニケーション
第25回　異文化間コミュニケーション(２)：クリティカル・インシデントによるトレーニング
第26回　異文化間コミュニケーション(３)：国際プロトコールと交渉術
第27回　実践コミュニケーション(１)：コミュニケーション能力とは？
第28回　実践コミュニケーション(２)：効果的なコミュニケーションとは？
第29回　学期末テストに向けての総復習
第30回　学期末テスト

【成績評価の方法】

出席　10％
(１)授業期間内に実施する「復習テスト」(30％)、そして試験期間内に実施する「学期末テスト」(60％) から評価する。
(２)出席(10％)は、授業中の提出物を参考にして総合的に評価する。
(３)シラバスを変更する場合は、授業で通知する。

【教科書】

橋元良明（編著)『コミュニケーション学への招待』大修館書店

【参考文献】

他の参考文献については、授業で紹介する。

【備考】

【準備学習の指示】教科書による予習・復習が必要である。主に教科書の内容に沿って授業を進めるが、毎回の授業に関連する章は授業中に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
コミュニケーション論　＜通期＞	
西　川　一　廉	4単位

【講義概要】

人間は一人では生きてゆけない。複数の人が寄り合ってさまざまな集団，社会を構成し，その中で生きている。人間とはまさに「人と人の関係」の中に生きる存在である。そこで人と人をつなぐもの，それがコミュニケーションである。しかしコミュニケーションについて考えるには，他者より先に，まず自分が自分自身をどのように認知しているかが問題になる。その上で，他者との関係が浮上する。またコミュニケーションはことばに限らない。「目は口ほどにものをいい」などといわれるが，身振り，手振りから始まって顔面表情や視線など，いわゆるノンバーバル・コミュニケーションの方がよく用いられる。沈黙が語るところは奥深い。さらに話すこともさることながら，聞くことの重要性を知らなければならない。また態度変容と説得、ストレスとコミュニケーションなども重要テーマである。当講義では，授業計画にあるような内容について、日常の具体的出来事を取り上げながら，また各種実習によって自己理解をはかりながら進める。

【学習目標】

当講義は個人，対人文脈，そして集団文脈でのコミュニケーションについて，さらに説得のコミュニケーション、ストレス・健康とコミュニケーションについて心理学の立場から考える。したがって心理学的コミュニケーション論，あるいは社会心理学的コミュニケーション論である。あくまでも心理学に軸足をおいたコミュニケーション論あるいは人間関係論の学習が目標である。

【講義計画】

第1回　コミュニケーションとは
第2回　コミュニケーション・モデル
第3回　知覚とコミュニケーション
第4回　コミュニケーションの基礎（自己、過去経験、他者、理性、情緒）
第5回　スピーキングとリスニング(1) 知覚とリスニング
第6回　スピーキングとリスニング(2) リスニング・エラー、スピーキング・エラー
第7回　ノンバーバル・コミュニケーション(1) ノンバーバル・コミュニケーションの用途・分類
第8回　ノンバーバル・コミュニケーション(2) 動作学①
第9回　ノンバーバル・コミュニケーション(3) 動作学②
第10回　ノンバーバル・コミュニケーション(4) 近接学①
第11回　ノンバーバル・コミュニケーション(5) 近接学②
第12回　ノンバーバル・コミュニケーション(6) パラ言語、人工品
第13回　対人文脈におけるコミュニケーション(1) 社会的役割、社会的対人相互作用の循環過程
第14回　対人文脈におけるコミュニケーション(2) 自己理解と他者理解
第15回　対人文脈におけるコミュニケーション(3) 交流分析
第16回　対人文脈におけるコミュニケーション(4) 共感的理解
第17回　対人文脈におけるコミュニケーション(5) 対人魅力
第18回　説得とコミュニケーション(1) 態度の構造、態度変容
第19回　説得とコミュニケーション(2) 説得効果の要因
第20回　説得とコミュニケーション(3) 説得の過程、説得への抵抗
第21回　説得とコミュニケーション(4) 説得のテクニック
第22回　集団文脈におけるコミュニケーション(1) 集団とは、集団の形成
第23回　集団文脈におけるコミュニケーション(2) 集団の特質
第24回　集団文脈におけるコミュニケーション(3) 集団におけるコミュニケーション構造
第25回　集団文脈におけるコミュニケーション(4) 集団の意思決定
第26回　集団文脈におけるコミュニケーション(5) 集団の葛藤とその解消
第27回　ストレス・健康とコミュニケーション(1) ストレッサーとしてのコミュニケーション、調整要因としてのコミュニケーション
第28回　ストレス・健康とコミュニケーション(2)ソーシャル・サポート、孤独感、バーンアウト

【成績評価の方法】

試験　100％
成績評価は期末試験による。

【教科書】

西川一廉・小牧一裕 コミュニケーションプロセス 二瓶社

【参考文献】

随時、指示する。

【備考】

準備学習の指示：できれば授業開始までに心理学の概論書を読んでおくことが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
コンピュータ会計　01＜春＞ コンピュータ会計　02＜春＞	
池之本　欣　哉	2単位

【講義概要】

企業，会計事務所では，経理作業にコンピュータを利用する事は，欠かせないものとなっております。

この講義では，経理ソフト「弥生会計」を使用しパソコンによる経理実務を学習します。簿記検定3級程度の知識を必要と致します。

なお，平易な説明を心がけますが，理解して頂きます内容が多岐に渡りますので，受講者の前向きな対応を希望致します。

【学習目標】

まずは，受講者が経理ソフトを抵抗なく操作できる事を目指します。次に，経理ソフトの仕組みを説明しながら，簿記の知識を深めていきます。最終的には，簡単な経理実務ができる事を目指します。可能であれば，コンピュータ会計の検定試験を目指したいと思います。

【講義計画】

第1回　企業活動と経営情報
第2回　商取引と企業の業務
第3回　コンピュータの基礎知識
第4回　会計ソフトの基礎知識
第5回　帳簿組織と伝票制度
第6回　企業業務と会計処理①
第7回　企業業務と会計処理②
第8回　月次決算業務と会計処理①
第9回　月次決算業務と会計処理②
第10回　年次決算業務と会計処理
第11回　税金と会計処理①
第12回　税金と会計処理②
第13回　会計データの入力処理と集計
第14回　まとめ
第15回　期末テスト

【成績評価の方法】

期末試験（100点）＋出席点・レポートなど（50点予定）

【教科書】

弥生株式会社 コンピュータ会計　基本　平成22年度版 実教出版株式会社
平成22年度版を使用する予定です（現時点では販売されておりません）。
上記テキストで足りない箇所は，プリント配布を予定しております。

【備考】

【準備学習の指示】

(1)実社会で行われている作業を取り上げ，授業を行います。その為，事前に初歩的な簿記知識の習得をお願いしたい。そうすれば，理解が早まり，楽しく授業を聞いていただけると思います。

(2)第1回目の授業時に次の事をお聞きしますので，考えておいて下さい。
自分で会社を興すならどのような商売，どのような会社名をつけますか。
自分のしたい事，将来の夢を念頭に置きながら，考えておいて下さい。

科目名　クラス　講義区分	
コンピュータ利用Ⅰ　01<春> コンピュータ利用Ⅰ　32<秋>	
榎　本　光　世	２単位

【講義概要】
代表的なソフトウェアの基本的な利用スキルを実習形式で学習する。

【学習目標】
PCの初歩的な扱い方からはじめ、Windows、Internet Explorer、Word、Excel、PowerPointなどの代表的なソフトウェアの基本的な利用スキルを習得する。

【講義計画】
第１回　講義概要の説明とパソコンの仕組み
第２回　Windowsの使い方
第３回　インターネットの利用（その１）
第４回　インターネットの利用（その２）
第５回　Wordの基本（その１）
第６回　Wordの基本（その２）
第７回　Wordの基本（その３）
第８回　Wordの基本（その４）
第９回　Excelの基本（その１）
第10回　Excelの基本（その２）
第11回　Excelの基本（その３）
第12回　Excelの基本（その４）
第13回　PowerPointの基本（その１）
第14回　PowerPointの基本（その２）
第15回　予備時間　（第１回～第15回までの内容は変更されることがある）

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　30％　出席　70％
試験の代わりにレポートの提出を課す予定。出席率を重視する。

【教科書】
本年度版の「ユーザーズガイド」を用いる。

【参考文献】
実習中に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
コンピュータ利用Ⅰ　02<春> コンピュータ利用Ⅰ　03<春> コンピュータ利用Ⅰ　33<秋> コンピュータ利用Ⅰ　34<秋>	
小　林　利　臣	２単位

【講義概要】
大学においては、卒業論文を書くにも、講義のレポートを作成するにも、コンピュータの利用が不可欠である。図書館をうまく利用しなければ効果的な学習ができないのと同様に、コンピュータをうまく使いこなせないと実のある大学生活を送ることができない。
就職後も企業においては新入社員はコンピュータは使えると想定している。
未来の社会は（現在も既に）情報化社会であり、コンピュータを使えないと生活にも支障が出てくる。

本講義では、これらの「基礎（情報リテラシ）を形成」すべく講義（座学）に加えて、インターネットの閲覧・電子メールの送受信・表計算・文書作成などができるよう実習も行う。

「講義と実習の比率＝50：50」を予定しています（もっと実習が多い方がよいという人は、他の講座か、町のPCショップでお願いします）。
IT(ツール)の実習も総花的でなく、重要Point中心に進めます。

【学習目標】
「情報リテラシ（情報処理作法）」が身に付く。具体的には、インターネットの閲覧・電子メールの送受信・表計算・文書作成などができるようになる。

【講義計画】
第１回　Windowsの基礎、日本語入力(IME)
第２回　Windowsのファイルシステム
第３回　Internetの仕組み、WWWを閲覧する
第４回　電子メールの仕組み、Webメールで送受信する
第５回　ネチケット、メールを転送する
第６回　表計算(Excel)の基本的な事項、集計表を作成する
第７回　Excelで複数表・グラフを作成する
第８回　Excelのいろいろな機能を使う
第９回　Excelでデータベースを作成する
第10回　文書作成(Word)の基本的な事項、レポートを作成する
第11回　Wordで大きな文書を作成する
第12回　PowerPointでプレゼンテーションを作成する
第13回　PowerPointでプレゼンテーションを実行する
第14回　総合演習
第15回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　40％　レポート　60％　出席　０％
講義時の課題レポートおよび期末試験で、評価する。
上記比率配分は目安です。詳細は講義内で説明します。

【教科書】
桃山学院大学情報センター編 ユーザーズガイド

【参考文献】
特になし。

【備考】
【準備学習の指示】
キーボードによる文字入力練習などは、時間外（または事前）に自習室で行ってください。

科目名　クラス　講義区分	
コンピュータ利用Ⅰ　04<春> コンピュータ利用Ⅰ　05<春> コンピュータ利用Ⅰ　06<春> コンピュータ利用Ⅰ　20<秋> コンピュータ利用Ⅰ　21<秋> コンピュータ利用Ⅰ　22<秋>	
竹　岡　志　朗	２単位

【講義概要】
現在、職場から日常生活、そして趣味や娯楽の場面まで、いたる所でPCが利用されている。
そしてPCの利用場面が拡張するにしたがって、使えることが当然のものとされ、必要とされるスキルの幅は広がりつづけている。
この講義では、その中でも必須のものとされているオフィスアプリケーションの操作について説明と実習を行う。

【学習目標】
本講では、オフィスアプリケーションの操作に慣れ、中級レベルのスキルを身につけることを目的とする。

【講義計画】
第１回　講義概要と授業計画の説明
第２回　インターネットとEメール
第３回　Word①
第４回　Word②
第５回　Excel①
第６回　Excel②
第７回　Excel③
第８回　Excel④
第９回　Excel応用
第10回　Power Point
第11回　オフィスアプリケーション応用①
第12回　オフィスアプリケーション応用②
第13回　オフィスアプリケーション応用③
第14回　オフィスアプリケーション応用④

【成績評価の方法】
試験　20%　レポート　50%　出席　30%

【教科書】
テキストは桃山学院ユーザーズガイドを使用する

【参考文献】
コンピュータを使わない情報教育　アンプラグドコンピュータサイエンス
Bell, t. 著　兼宗 進 監訳
イーテキスト研究所

【備考】
【準備学習の指示】
本講義はオフィスアプリケーションの操作に関する実習を中心とするため、パソコン操作に必須であるタッチタイプを練習する時間をとることができない。多くの学生がタッチタイプには不慣れであると思うので、学内のパソコンを利用するなどして、自主的にタッチタイプを習得することが望まれる。

科目名　クラス　講義区分	
コンピュータ利用Ⅰ　07<春> コンピュータ利用Ⅰ　08<春> コンピュータ利用Ⅰ　09<春> コンピュータ利用Ⅰ　23<秋> コンピュータ利用Ⅰ　24<秋> コンピュータ利用Ⅰ　25<秋>	
武　本　和　広	２単位

【講義概要】
近年のWindows搭載コンピュータを中心とした低価格化，そしてインターネット環境の普及は著しい物があります．情報の取得・加工・提示のための道具としてのコンピュータは，「一部の人が手にする便利な小道具」から「誰もが持っていて当たり前の日用品」へ変貌したと言えるでしょう．この変化は大げさに言えば，文字の発明・活版印刷の発明に匹敵し，「知のあり方」について人類が初めて体験する転換なのかもしれません．その変化についていけない・変化を享受できない人達の存在に因る“デジタルデバイド”という問題も起こり始めています．また、このような状況下で初等教育を受け変化の恩恵を受けた“デジタルネイティブ”な人達と，そうでない人達との間の世代間格差に因る問題も生じています．
この講義は，初学者が，情報の取得・加工・提示のために「最低限必要な」知識とスキルを取得する準備を整え，上記の問題に因る不利益を軽減するための物です．その過程で出会うであろう用語・話題についても，それらの概念・起源について逐次説明してゆきます．
なお，この授業は「これまでコンピュータを利用した経験のほとんど無い」学生を対象としています．コンピュータ利用に長けた学生さんの受講は，退屈極まる物になるかと思いますのでご遠慮ください．

【学習目標】
（1）コンピュータを使い他者とコミュニケーションを取れるようになる，
（2）講義レポート作成に関わる知識とスキルを得る，
（3）コンピュータを使用し遭遇するであろう問題を何らかの方法で解決できるようになる，
を目指します．
具体的には，コンピュータの構成・概念とその基礎的操作を理解し，情報の取得・電子メールの送受信，取得した情報の処理と可視化，第三者へ提示する為の情報の加工を，実行できるようにする事を目標とします．これらのための道具であるオフィススイート（文書作成・表計算・プレゼンテーション）をはじめとする，幾つかのカテゴリのソフトウェアについての「基礎的な操作」を知って貰います．
なお，特定の製品の操作法について深く掘り下げるわけではありません．可能な限り，そのカテゴリのソフトウェアに共通した一般的な事項を扱ってゆく予定です．

【講義計画】
第１回　０．<ガイダンス>（この講義について）
　　　　１．<コンピュータ操作の基礎>
第２回　２．<コンピュータの概念・構成>
第３回　３．<電子メール>
第４回　４．<WWW の閲覧>
第５回　５．<表計算ソフト>－１
第６回　５．<表計算ソフト>－２
第７回　５．<表計算ソフト>－３
第８回　６．<プレゼンテーションソフト>－１
第９回　６．<プレゼンテーションソフト>－２
第10回　６．<プレゼンテーションソフト>－３
第11回　７．<文書作成ソフト>－１
第12回　７．<文書作成ソフト>－２
第13回　８．<インターネットとの付き合い方>
　　　　９．<その他の話題>
第14回　予備日

【成績評価の方法】
レポート　40%　出席　60%
学生側からの要望がない限り，試験を実施する予定はない．
レポートの評価・出席点の算出方法については，講義中に説明する．

【参考文献】
・ユーザーズガイド 2010

・その他，必要に応じ講義中に紹介する事がある

【備考】
・コンピュータ利用の入門者・未経験者を対象としていますので，初心者以上の方の受講は，ご遠慮ください．
・基本的にユーザーズガイド 2010の記載事項に準じます．
・第一回の講義では，この講義についての説明をしますので，必ず出席してください．

【準備学習について】
・第一回の講義までに，各自のPIN コード・ログインパスワード・メールパスワードを確認しておいて下さい．
・講義の最後にユーザーズガイドでの該当箇所を示す事があるので，次回の講義までに復習しておいて下さい．

科目名　クラス　講義区分	
コンピュータ利用Ⅰ　10<春> コンピュータ利用Ⅰ　11<春> コンピュータ利用Ⅰ　12<春> コンピュータ利用Ⅰ　13<春> コンピュータ利用Ⅰ　14<春> コンピュータ利用Ⅰ　26<秋> コンピュータ利用Ⅰ　27<秋> コンピュータ利用Ⅰ　28<秋> コンピュータ利用Ⅰ　29<秋> コンピュータ利用Ⅰ　30<秋>	
田　村　　剛	2単位

【講義概要】
一昔前であれば、ビジネスなどにおいて、コンピュータを利用できる人間はある程度重宝されたものであるが、最近ではコンピュータの発達に伴い、利用できて当たり前であり、逆にできなければ困るという状況になってきている。
本講義では、インターネット、電子メール、ワード、エクセル、パワーポイントなどの基本操作について学習する。

【学習目標】
本講義では、レベルアップを図るとともに、特にコンピュータをほとんど使った経験のない初心者を対象として、コンピュータの基礎を身につけることを目標とする。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　コンピューターの基本操作とキーボードの使い方
第３回　入力の練習
第４回　インターネットのネチケットとセキュリティ
第５回　インターネットによる情報検索
第６回　電子メールの利用
第７回　ワープロソフト（Word）の基本操作１（文章作成・編集など）
第８回　ワープロソフト（Word）の基本操作２（文章作成・編集など）
第９回　ワープロソフト（Word）の基本操作３（練習問題）
第10回　表計算ソフト（Excel）の基本操作１（データ入力と編集）
第11回　表計算ソフト（Excel）の基本操作２（図表の作成）
第12回　表計算ソフト（Excel）の基本操作３（データの検索と並び替え）
第13回　表計算ソフト（Excel）の基本操作４（練習問題）
第14回　プレゼンテーションソフト（Power Point）の基本操作１（スライド作成）
第15回　プレゼンテーションソフト（Power Point）の基本操作２（練習問題）

【成績評価の方法】
レポート　50％　出席　50％
出席状況や課題の出来具合等を考慮して総合的に評価する

【教科書】
桃山学院大学情報センター編『ユーザーズガイド』

【参考文献】
特になし

【備考】
【準備学習の指示】
１、二回生以上の受講生は、必ず事前に情報センターにて、桃山学院大学情報センター編『ユーザーズガイド』をもらっておくこと。
２、授業では、作業が中心となりますので、あらかじめ『ユーザーズガイド』を読んでおくこと。

科目名　クラス　講義区分	
コンピュータ利用Ｉ　15<春> コンピュータ利用Ｉ　16<春> コンピュータ利用Ｉ　31<秋>	
初　瀬　慎　一	２単位

【講義概要】
情報化社会は非常に速いテンポで進化し、われわれの生活にさまざまな影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化とインターネットの著しい発展に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会において基礎的な技能として要求されている。
　授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的とし、パソコン実習を通じ、オフィスにおいての必須ツールである表計算やワープロ、プレゼンテーション、インターネットの利用等を学習する。

【学習目標】
　パソコン実習を通じ、３層構造の情報リテラシーのうち 情報基礎リテラシー 、PCリテラシー（PC活用能力）について理解を深める。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
　　　　情報リテラシーとメディアリテラシー
第２回　インターネットとセキュリティ
第３回　オフィスソフト　表計算
第４回　オフィスソフト　表計算
第５回　オフィスソフト　表計算
第６回　オフィスソフト　関数　基本
第７回　オフィスソフト　関数　応用
第８回　オフィスソフト　データベース機能
第９回　オフィスソフト　データベース機能
第10回　オフィスソフト　ワープロ
第11回　オフィスソフト　ワープロ
第12回　オフィスソフト　ワープロ
第13回　オフィスソフト　ワープロ
第14回　オフィスソフト　プレゼンテーション
第15回　まとめ　試験・課題演習

【成績評価の方法】
試験　30％　レポート　30％　出席　40％

【参考文献】
情報センター利用ガイド

【備考】
【準備学習の指示】参考文献を熟読しておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
コンピュータ利用Ｉ　17<春> コンピュータ利用Ｉ　18<春> コンピュータ利用Ｉ　19<春> コンピュータ利用Ｉ　35<秋> コンピュータ利用Ｉ　36<秋> コンピュータ利用Ｉ　37<秋>	
萩　原　良　也	２単位

【講義概要】
本講義では、タイピング、文書作成、表計算やグラフ作成、プレゼンテーション、インターネット、メールを用いたコミュニケーションと情報収集・発信、コンピュータ社会に関わる諸問題など幅広く学びます。

【学習目標】
本講義では、日常生活でコンピュータやインターネットを利用して課題を解決するための基礎的な知識や技能を学びます。単に文字入力や基本的な操作方法、データや情報の処理方法を学ぶだけではなく、やがては職業人になろうとする皆さんが知っておくべき基本的な資料作成技能の習得をめざします。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　Windowsの基本操作、文字入力
第３回　ファイルの管理、メールの取り扱い方
第４回　インターネット（情報検索）
第５回　エクセル（基本操作）
第６回　エクセル　関数の利用（合計、平均、条件）
第７回　エクセル　関数の利用（ランク、最大、最小、絶対参照など）
第８回　エクセル　並び替え、グラフ、オートフィルタ、練習
第９回　ワード　（基本操作）
第10回　ワード　タイピングテスト、案内文作成
第11回　ワード　ビジネス文書作成
第12回　パワーポイント（基本操作）
第13回　パワーポイント　練習
第14回　総合課題
第15回　最終課題

【成績評価の方法】
試験　30％　レポート　30％　出席　40％
出席状況・授業時の演習と各回の課題・期末課題などとします。
実習がメインとなる講義ですので出席は必ずしてください。

【教科書】
桃山学院大学情報センターユーザーズガイド

【参考文献】
富士通エフ・オー・エム株式会社,「新入生に役立つWord&Excel&PowerPoint」【2007対応】,FOM出版
西上原　裕明,「もう迷わない！Wordで作る長文ドキュメント」【2007/2003/2002対応】,技術評論社
富士通エフ・オー・エム株式会社,「よくわかるMicrosoft Office Word2003&Microsoft Office Excel2003ビジネス実践スキルアップ問題集」【2003対応】,FOM出版

【備考】
この講義は大学入学までコンピュータを利用する機会が殆どなかった初心者の学生を対象としています。コンピュータの基本操作をある程度心得ている学生にとっては、授業は退屈なだけで得るものはないかもしれません。したがって、経験者はなるべく履修を避けて他の授業を受講してください。
テキストは上記記載のものの他にはプリントを適宜配布します。

科目名　クラス　講義区分	
コンピュータ利用Ⅱ　＜秋集＞	
初　瀬　慎　一	4単位

【講義概要】

HTML、Java言語を中心とした実習を通して、インターネット時代のコンピュータ利用技術を身につける。

【学習目標】

本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。単純に現在何ができるかを伝授するだけではなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察をも行う。

履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい：

・情報センターの施設を用いた講義と実習が主体となる。

・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピューターにある程度慣れていないとハードな講義となる。

・少なくない自習課題を課す予定である。ある程度コンピュータに慣れているものに面白く感じられるような課題にする予定であるが、言い換えると初心者にはしんどい課題の連続となることも意味する。

・基本的には連絡は電子メールで行う。

【講義計画】

第1回　オリエンテーション
（具体的な計画は下欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。）
第2回　インターネットの歴史1
第3回　インターネットの歴史2　暗号化技術
第4回　情報検索
第5回　HTML 1
第6回　HTML 2
第7回　HTML 3
第8回　HTMLとCSS 1
第9回　HTMLとCSS 2
第10回　Javaとは何
第11回　Java概要
第12回　10日でわかるJava　第1日
第13回　10日でわかるJava　第2日
第14回　10日でわかるJava　第3日
第15回　10日でわかるJava　第4日
第16回　10日でわかるJava　第5日の1
第17回　10日でわかるJava　第5日の2
第18回　10日でわかるJava　第6日　GUI 1
第19回　10日でわかるJava　第7日　GUI 2
第20回　10日でわかるJava　第8日　GUI 3
第21回　10日でわかるJava　第8日　GUI 4
第22回　10日でわかるJava　第9日
第23回　10日でわかるJava　第10日　アプレット1
第24回　10日でわかるJava　第10日　アプレット2
第25回　まとめ
第26回　まとめ
第27回　総合演習
第28回　総合演習
第29回　課題作成
第30回　課題作成

【成績評価の方法】

レポート　60%　出席　40%

実習の提出物を中心に総合的（技術的評価、コンテンツの完成度）に評価する。

出席は授業日数の3分の2以上であること。

【教科書】

丸の内とら 10日でおぼえるJava入門教室　第二版 翔泳社

【参考文献】

●ユニバーサルHTML/XHTML、神崎正英著、毎日コミュニケーションズ

●改訂新版　初体験Java 丸の内とら著　技術評論社

【備考】

【準備学習の指示】コンピュータの操作（テキストエディタ、コマンドプロンプト）に慣れておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
コンピュータ論　＜秋集＞	
藤　間　　真	4単位

【講義概要】

今日のコンピュータは、「計算」を直接的に目的とはしない用途でますます利用されており、計算する道具からデータ処理の道具、そして情報を引き出し整理し分析した上でその結果を分かりやすく提示する道具になりつつある。

何故コンピュータは今日のような展開ができたのであろうか。このことをコンピュータの発達の歴史、ハードウエア装置の構成と仕組み、そしてソフトウェアの現状と可能性を理解することで、明らかにし、より社会生活に役立つコンピュータの将来をどのように展望すべきかを考える。

なお、秋学期配当科目であることも手伝い、講義計画入稿段階（2009年12月）では未定の部分がある。決定し次第担当者のwebサイト（http://rio.andrew.ac.jp/~tohma/）にて公示する予定であるから、受講を検討している諸君には、そちらをも確認することを望む。

【学習目標】

本講の目的は、教科「情報」の教職免許状取得希望者を中心に、経済学部　経済と情報コースの学生に、コンピュータに関する幅広い知識を伝授すると共に、深い考察のきっかけを与えることである。

【講義計画】

第1回　第一回にオリエンテーションを行います。
第一回及び第二回で、講義の内容に関する重要なことを扱いますので、欠席した場合の不利益はかなり大きなものとなります。受講を検討している諸君は必ず出席してください。
なお、高校での教科『情報』の教育が多様化していることを受け、受講生の理解度を頻繁に測り、内容及び進度の調整を行います。その結果、下記の予定に変更がある可能性は高いです。詳細は、講義中にアナウンスします。
第2回　オリエンテーション・思考と機械
第3回　思考と機械
第4回　ハードウエア装置の構成と仕組み
第5回　ハードウエア装置の構成と仕組み
第6回　ハードウエア装置の構成と仕組み
第7回　ハードウエア装置の構成と仕組み
第8回　ハードウエア装置の構成と仕組み
第9回　ハードウエア装置の構成と仕組み
第10回　中間まとめ
第11回　ソフトウェアの構成と仕組み
第12回　ソフトウェアの構成と仕組み
第13回　ソフトウェアの構成と仕組み
第14回　ソフトウェアの構成と仕組み
第15回　ソフトウェアの構成と仕組み
第16回　中間まとめ
第17回　コンピュータの発達の歴史
第18回　コンピュータの発達の歴史
第19回　コンピュータの発達の歴史
第20回　コンピュータの発達の歴史
第21回　コンピュータの発達の歴史
第22回　中間まとめ
第23回　社会におけるコンピュータ
第24回　社会におけるコンピュータ
第25回　社会におけるコンピュータ
第26回　社会におけるコンピュータ
第27回　社会におけるコンピュータ
第28回　総まとめ
第29回　総まとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】

いくつかの課題に関して、試験及びレポートを課します。

試験であることの補正を行った上で、各課題毎の点数の高い方を使って評価します。

詳細は、オリエンテーション時に説明します。

【備考】

【準備学習】

復習のための宿題を頻繁に課す関係上、予習は特に要求しません。

科目名　クラス　講義区分	
財政学　＜春集＞	
竹　原　憲　雄	４単位

【講義概要】

2009年の流行語大賞は「政権交代」、これは新政権の登場が世の中に大きなインパクトを与えたためですが、同時に政権交代は日本の財政に対する注目度を異様に高めています。その理由は財政が新政権に伴う政治の変化や今の経済社会の姿を映し出す鏡だからです。

サブプライムローン後の欧米経済や日本経済の停滞のなかで、日本の財政赤字はさらにその深刻さを増してきています。2009年度末の国債残高は過去最大の592兆円、これは国の税収の13年分、国民１人当りの負担は464万円。この借金の山を前に事業仕分けが行われ、所得税の増税が準備されています。

同時に、少子高齢化や経済格差の拡大のなかで、社会的なセーフティネットのほころびをつくろうために、子供手当てをはじめ福祉や雇用、景気対策への財政出動が求められています。さらに食糧やエネルギーを確保し、地球環境の改善のためには、発展途上国に対する政府開発援助も考えなければいけません。

もっともこうした日本の財政が単なる興味の対象に終わってしまうならば、その本当の姿は分かりません。財政のしくみや経済活動との関係などについて、順序だてて考えてみる必要があります。

そのために2010年度の予算を手がかりにしながら、現在の財政がかかえている問題点、国民生活への影響、そして今後のあり方など日本財政の実体に迫ってみようというのが、この講義のねらいです。

【学習目標】

財政の基本的な理論と日本財政の概要・特質や問題点の把握・修得を通して、財政の社会経済的な意義や役割、日本の税財政政策や改革論議に対する理解力・批判力を高めることを目標にしています。

【講義計画】

第１回　ガイダンス
第２回　１．2010年度予算の内容と問題点
　　　　予算の意義と予算制度（１）
第３回　予算の意義と予算制度（２）
第４回　2010年度予算の政治経済環境・概要・特質（１）
第５回　2010年度予算の政治経済環境・概要・特質（２）
第６回　財政赤字の問題点と欧米諸国の財政事情
第７回　２．現代財政の理論と機能
　　　　財政の意義と規模
第８回　現代財政の機能と問題点（１）
第９回　現代財政の機能と問題点（２）
第10回　現代の財政理論の概要と評価（１）
第11回　現代の財政理論の概要と評価（２）
第12回　３．日本財政の経費構造と主要経費の実態
　　　　経費の基礎理論
第13回　経費の経済効果
第14回　日本財政の経費の内容と課題（１）
第15回　日本財政の経費の内容と課題（２）
第16回　社会保障費と年金制度（１）
第17回　社会保障費と年金制度（２）
第18回　公共事業費の実態
第19回　政府開発援助の現状
第20回　４．税金の意義としくみ
　　　　税金の特質・根拠・負担（１）
第21回　税金の特質・根拠・負担（２）
第22回　所得税のしくみと問題点
第23回　消費税の特質・課題・改革構想
第24回　５．国債の現状と課題
　　　　国債の意義・発行・消化と減債制度（１）
第25回　国債の意義・発行・消化と減債制度（２）
第26回　国債の膨張と問題点
第27回　６．財政投融資の機能と新たな展開
　　　　財政投融資の構造
第28回　財政投融資改革の評価
第29回　試験

【成績評価の方法】

試験　75％　レポート　20％　出席　５％

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

講義のなかで紹介する。

【備考】

講義内容については、新たなテーマを加えるなど必要に応じて変更する場合がある。
次回講義内容に関する疑問点、自らの見解、予備知識等を持って出席のこと。

科目名　クラス　講義区分	
財務諸表論　＜春集＞	
全　在　紋	４単位

【講義概要】

企業はその社会的性格のゆえに、自己の財政状態および経営成績を世間に公表する責任をもっています。貸借対照表や損益計算書をはじめとする財務諸表は、そのために作成される企業の「証言」と言えましょう。この講義を真剣に受講すれば、企業が作成するところの財務諸表の意味を「読み解く」力が養われます。

【学習目標】

（１）１年次における「商業簿記」および「会計学基礎」の学習内容を前提にして、３年次以降に履修する経営学部専門諸科目の内容が理解できるよう、財務会計における損益計算書・貸借対照表・キャッシュ・フロー計算書のポイントを学習します。
（２）「企業の言語」としての〈会計〉の特性を学習します。

【講義計画】

第１回　この科目のオリエンテーション
第２回　会計の意義と分類：その①
第３回　会計の意義と分類：その②
第４回　株式会社の決算法：その①
第５回　株式会社の決算法：その②
第６回　３種基本財務諸表：その①
第７回　３種基本財務諸表：その②
第８回　３種基本財務諸表：その③
第９回　３種基本財務諸表：その④
第10回　収益性の経営分析：その①
第11回　収益性の経営分析：その②
第12回　収益性の経営分析：その③
第13回　収益性の経営分析：その④
第14回　成長性の経営分析：その①
第15回　成長性の経営分析：その②
第16回　安全性の経営分析：その①
第17回　安全性の経営分析：その②
第18回　安全性の経営分析：その③
第19回　中間試験
第20回　資金面の経営分析：その①
第21回　資金面の経営分析：その②
第22回　資金面の経営分析：その③
第23回　経営分析のまとめと総復習
第24回　会計は企業の言語：その①
第25回　会計は企業の言語：その②
第26回　国際会計論の解明：その①
第27回　国際会計論の解明：その②
第28回　国際会計論の解明：その③
第29回　この科目のまとめ（総括）
第30回　学期末試験

【成績評価の方法】

試験　100％　レポート　０％　出席　０％
ただし、下記の提出物を、加点評価の対象とする。
①ボーナス・カードの枚数（授業中の質問等に対する正答ごとに一枚支給）
②日本商工会議所簿記検定試験２級・１級合格証のＡ４サイズ・コピー

【参考文献】

全在紋、『会計言語論の基礎』、中央経済社、2004年

【備考】

【準備学習】　予習はともかく、復習は必要です。講義ノートの清書などを通じて、復習してください。一年生の時に履修した「商業簿記」教科書（『ALFA：３級課程・商業簿記』、大原簿記学校）や、「会計学基礎」教科書（『まなびの入門会計学』）の参照を心がければ、この講義の理解は格段に深まることでしょう。なお、この授業は、正当な理由（電車の延着その他）がない場合、開始10分以降の入室を禁じます。

科目名　クラス　講義区分	
産業考古学　＜通期＞	
辻　　洋一郎	４単位

【講義概要】
産業考古学は、産業の歴史のなかで生まれ、活用され、そして消費されていった生産財・消費財を、歴史、文化、経済、地理などの各分野の観点から調べ・考えることでその思想を知る学問です。すなわち、既存の学問（産業史、技術史、経済史など）の方法論に準拠して展開される学際的な分野といえます。また、消えてゆきつつある産業遺産をどのように選別・収集・保存・活用するか、という実務的な問題も重要な論点で、博物館学の方法論や知識を駆使する必要があります。本講義では、実際の産業遺産を概観しながら、歴史的な意味や役割について考察してゆきます。

【学習目標】
今年度の講義では、前半で産業考古学の目的と現状を解説した後、産業考古学を理解するために必要不可欠な周辺の学問分野を概観します。後半では、産業遺産保護の現状と問題点に焦点を当てて解説します。
下記の授業計画は、順不同で行います。また、この内容以外にも、受講生に必要と思われる事項について適宜教授します。

【講義計画】
第１回　産業考古学の目的と定義
第２回　産業発展の歴史－明治期以前
第３回　産業発展の歴史－明治期
第４回　産業発展の歴史－大正～昭和
第５回　産業構造と産業の進歩
第６回　技術進歩と産業の発展
第７回　産業遺産の俯瞰－その１
第８回　産業遺産の俯瞰－その２
第９回　産業遺産の俯瞰－その３
第10回　産業遺産の俯瞰－その４
第11回　産業遺産の俯瞰－その５
第12回　産業遺産の俯瞰－その６
第13回　産業遺産の俯瞰－その７
第14回　中間まとめ
第15回　産業遺産の俯瞰－その８
第16回　産業遺産の俯瞰－その９
第17回　産業遺産の俯瞰－その10
第18回　産業遺産の俯瞰－その11
第19回　産業遺産の俯瞰－その12
第20回　産業遺産保護の目的と現状
第21回　周辺学問分野の概要
第22回　周辺学問分野と産業考古学のかかわり
第23回　日本の産業遺産保護の現状－その１
第24回　日本の産業遺産保護の現状－その２
第25回　産業考古学の将来と問題点
第26回　各国の産業遺産保護の現状１
第27回　各国の産業遺産保護の現状２
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
原則、成績には出席は考慮せず、平常点＋レポート点を主とし、場合によっては試験を行います。
成績評価の詳細は初回に提示します。また教務課掲示板に一定期間掲示する他、Sドライブ(ytsuji//産業考古学/成績評価の方法)で閲覧できます。

【参考文献】
適時指示します。

尚、本講義の予習は必要ありませんが、毎回、その日のうちに復習しておくことをお奨めします。方法は、講義中に示します。

科目名　クラス　講義区分	
産業構造論Ⅰ　＜春＞	
義　永　忠　一	２単位

【講義概要】
現代日本の産業を各期のテーマに沿って、各産業分野の「現場」で活躍されている経営者やそれに近い方々、もしくは「現場」に関して造詣の深い方々から講義をしていただきます。
産業構造論Ⅰは、「産業構造の変化と大阪経済の現状」というテーマで、各産業の視点より講義をしていただきます。

【学習目標】
講義を通して見えてくる各産業の現状と課題を理解し、受講生が解決の方向性を考え始めるきっかけとなることを、学習の目標とします。

【講義計画】
第１回　2009年度　講義実施内容（2010年度に変更の可能性あり）
　　　　オリエンテーション・この講義の狙い
　　　　「産業構造の変化と大阪経済の現状」
第２回　産業構造論とは
第３回　地方行・財政の現状
第４回　地方行・財政と公営交通事業
第５回　関西におけるホテル・観光業
第６回　環境問題とフードマイレージ
第７回　関西における外食産業の現状
第８回　関西の食文化
第９回　シンクタンク・ビジネス
第10回　新産業創出の為の試み
第11回　新産業創出の現状　大阪市のロボット産業
第12回　新産業創出の現状　東大阪の場合
第13回　新産業創出の動き　都市型農業のイメージ
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　100％
講義期間を数期に分け、各期最低１つ、各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらいます。それらを総合して評価します。

【参考文献】
その都度指示します。

【備考】
準備学習の指示
第１回目に、講義に関する説明をします。講義参加者は、必ず出席すること。
毎回講義に臨む際、あらかじめ当該産業分野についてWebや新聞などにより情報を調べておくことが望ましい。また講義における質疑応答の際は、どんな内容でも構わないので、積極的に質問をすることを期待します。その後、各自で調査・研究することを望みます。
・インテグレーション科目
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
産業構造論Ⅱ　＜秋＞	
義　永　忠　一	2単位

【講義概要】
現代日本の産業を各期のテーマに沿って、各産業分野の「現場」で活躍されている経営者やそれに近い方々、もしくは「現場」に関して造詣の深い方々から講義をしていただきます。
産業構造論Ⅱは、「グローバリゼーションと産業構造の変化」というテーマで、各産業の視点より講義をしていただきます。

【学習目標】
講義を通して見えてくる各産業の現状と課題を理解し、受講生が解決の方向性を考え始めるきっかけとなることを、学習の目標とします。

【講義計画】
第１回　2009年度　講義実施内容（2010年度に変更の可能性あり）
　　　　グローバリゼーションと産業構造の変化
第２回　エネルギー自由化（ガス）
第３回　エネルギー自由化（電力）
第４回　日本における貿易の現状
第５回　知的財産権
第６回　繊維産業の現状
第７回　自動車産業の現状
第８回　情報産業
第９回　金型産業の現状と課題１
第10回　金型産業の現状と課題２
第11回　環境に対する視点
第12回　経済環境激変化における二次電池業界
第13回　産業構造の変化とサブカルチャー
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　100％
講義期間を数期に分け、各期最低１つ、各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらいます。それらを総合して評価します。

【参考文献】
その都度指示します。

【備考】
準備学習の指示
第１回目に、講義に関する説明をします。講義参加者は、必ず出席すること。
毎回講義に臨む際、あらかじめ当該産業分野についてWebや新聞などにより情報を調べておくことが望ましい。また講義における質疑応答の際は、どんな内容でも構わないので、積極的に質問をすることを期待します。その後、各自で調査・研究することを望みます。
・インテグレーション科目
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
産業社会学　＜春集＞	
上　田　　修	4単位

【講義概要】
私たちの暮らしを支える経済社会、なかでもその中心に位置する雇用のあり方は、近年、大きく変化しています。それを象徴するのが、非正規労働や派遣の増加に見られる雇用の不安定化です。この点を念頭におき、授業では学習目標に示すように講義内容を企業と社会をめぐる問題というように大きく２つのパートに分け、それぞれの問題について考えます。

【学習目標】
講義概要で述べたようにこの授業では授業内容を大きく２つのパートに分け、以下の点について理解を図ります。最初のパートでは、まず①企業というものを組織という視点から捉え、次いで②企業活動の基底にある労働の管理、モチベイションといった労働をめぐるミクロの問題がこれまでどのように処理、理解されてきたのかを取りあげ、それをふまえた上で、③日本企業における人々の働き方、管理の特徴を学びます。２つ目のパートでは、視点を社会へと大きく広げ、産業社会の問題として④競争、平等、格差をキーワードとして、日本社会が抱える問題を考察し、最後に⑤働く者の権利擁護に関して労働組合を取りあげます。

【講義計画】
第１回　はじめに　授業計画と課題について
第２回　企業とは何か
第３回　日本企業の諸相
第４回　日本企業の組織的特徴
第５回　管理論の史的形成
第６回　自己実現的人間観と行動科学
第７回　リーダーシップ
第８回　戦前型年功制度の形成
第９回　戦後型年功制とその修正
第10回　職能資格制度
第11回　成果主義(１)
第12回　成果主義(２)
第13回　日本的生産システムとチーム労働(１)
第14回　日本的生産システムとチーム労働(２)
第15回　過度労働と長時間労働
第16回　過労死問題
第17回　競争社会の断面(１)　理論的検討
第18回　競争社会の断面(２)　日本企業の競争構造
第19回　階級論と階層論　SSM調査を中心として
第20回　平等社会日本とその変容
第21回　非正規雇用の増大と若者の受難(１)
第22回　非正規雇用の増大と若者の受難(２)
第23回　働く女性の増大と格差問題(１)
第24回　働く女性の増大と格差問題(２)
第25回　日本の労働組合の特徴
第26回　日本の現状と労使関係の将来
第27回　雇用の変容と働く者の将来
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　80％　レポート　10％　出席　10％
成績は、学期末テスト（80％)、出席および授業時に課すレポート（20％）で評価します。

【教科書】
テキストは使用しません。ただし、講義内容の概略（レジュメ）を配布します。

【参考文献】
レジュメにて指示します。

【備考】
準備学習の指示
各項目毎に配布するレジュメに記された事項をできるだけ参考文献によって予習し、復習してください。

科目名　クラス　講義区分	
産業心理学　＜通期＞	
西　川　一　廉	４単位

【講義概要】
バブル経済崩壊後，産業社会，特に働く人々にとっての職場環境は大きく変わった。それはその後の景気回復傾向においても同様であった。それどころか先年突然に発生した世界規模の経済異変によって職場環境は一層の悪化傾向にある。不安定雇用をはじめ、多様化した労働形態など勤労者を取り巻く環境は見通しのつかない状況が続いている。
そこで働く人々は何を目的に働くのか。何を喜びとして働くのか。好むと好まざるとにかかわらず，勤労者の生活は職場（会社）を中心に営まれる。しかしそこで起こるさまざまな出来事は，働く人々とその家族に大きく影響する。激変する産業社会の中での仕事，職場の人間関係，技術革新と能力開発，人事制度と処遇，労働時間，パートタイマーやフリーターあるいは派遣労働者などのいわゆる非正規雇用，職場のストレスとメンタルヘルス等々，職場生活は多様な問題を抱えている。人はこうした会社組織の中でどのように生きようとしているのか。女性の労働力化が進む中で，仕事と家族のバランスはどのようにとられるのか。さらに高齢化が進む中で，職場環境はどのように改善されなければならないのか。法的整備だけで事足りるのか。心の問題はそれほど簡単ではない。当講義では各種調査結果や今日的出来事を例示しながら、心理学的側面から考える。

【学習目標】
当講義では，講義概要に述べたようにダイナミックに変化する労働環境と，そこで働く人々について心理学の立場から考える。すなわち，いわゆる産業・組織心理学的諸問題についての学習が目標である。

【講義計画】
第１回　産業心理学とは
第２回　産業心理学の誕生
第３回　産業心理学の発展とその展開（科学的管理法、ホーソン研究）
第４回　勤労者の生きがい・働きがい（１）豊かさと労働意識の変化
第５回　勤労者の生きがい・働きがい（２）職務満足と生活の満足
第６回　勤労者の生きがい・働きがい（３）勤労者のライフスタイル
第７回　労働時間構造の変化と労働意識（１）労働時間の現状
第８回　労働時間構造の変化と労働意識（２）労働と余暇
第９回　労働時間構造の変化と労働意識（３）労働時間短縮と労働意識
第10回　女性労働・家族・企業社会（１）女性労働の特徴
第11回　女性労働・家族・企業社会（２）女性と管理職昇進
第12回　女性労働・家族・企業社会（３）生活時間に見る家族
第13回　働く意欲と職務満足（１）ワークモチベーション理論の歴史的発展
第14回　働く意欲と職務満足（２）ワークモチベーション理論①
第15回　働く意欲と職務満足（３）ワークモチベーション理論②
第16回　働く意欲と職務満足（４）行動科学的管理論①
第17回　働く意欲と職務満足（５）行動科学的管理論②
第18回　働く意欲と職務満足（６）行動科学的管理論③
第19回　人事管理と能力開発（１）人事管理制度の変遷
第20回　人事管理と能力開発（２）キャリア発達
第21回　職場の中の人間関係（１）職場集団の形成、集団規範、同調と逸脱
第22回　職場の中の人間関係（２）小集団の病理
第23回　職場の中の人間関係（３）対人葛藤
第24回　職場の中の人間関係（４）リーダーとフォロアー
第25回　職場の中の人間関係（５）リーダーシップ理論①
第26回　職場の中の人間関係（６）リーダーシップ理論②
第27回　産業ストレスとメンタルヘルス（１）産業ストレスの現状
第28回　産業ストレスとメンタルヘルス（２）産業ストレスの要因と理論

【成績評価の方法】
試験　100％
成績評価は期末試験による。

【教科書】
NIP研究会（編）仕事とライフスタイルの心理学 福村出版

【参考文献】
随時，指示する。

【備考】
準備学習の指示：できれば授業開始までに心理学の概論書を読んでおくことが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
CBCC特講－HSKトレーニング　＜集中＞	
陳　　梅　隠	２単位

【講義概要】
秋のHSK（漢語水平考試）受験に向けてリスニングのトレーニング及び文献講義と練習を中心として行う。

【学習目標】
講義と大量な練習を通じて、中国語文献読解能力のレベルアップを目指す。

【講義計画】
第１回　リスニング（講義）
第２回　リスニング（練習）
第３回　リスニング（説明）
第４回　文法（講義）
第５回　文法（練習）
第６回　文法（説明）
第７回　読解（講義）
第８回　読解（練習）
第９回　読解（説明）
第10回　総合（講義）
第11回　総合（練習）
第12回　総合（説明）
第13回　模擬試験
第14回　模擬試験回答合わせ＆説明

【成績評価の方法】
試験　70％　レポート　20％　出席　10％

【教科書】
授業の際指示する

【備考】
【準備学習の指示】指示に従って、必ず予習すること。そして毎回、予習と復習をチェックして点数をつけ、成績評価と結びつける。
・06～07CBCC生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
CBCC特講－応用中国語Ａ　＜春＞	
神　道　美映子	２単位

【講義概要】
初級程度の中国語を習得した学生を対象とする。最新の時事情報を扱ったテキストを読みながら、現代中国に関する知識を深めるとともに、読解力とコミュニケーション能力の向上を目指す。

【学習目標】
自分の考えを中国語で表現できる能力の習得を目標とする。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　中国人2009新年愿望：不折腾
第３回　让中国人走上T型台
第４回　两个故宫博物院
第５回　世博花絮
第６回　“家电下乡”政策的是是非非
第７回　简体字与网络语言之争
第８回　中国企业进军日本
第９回　魅力丽江，万种风景
第10回　明天的工作在哪里？
第11回　震后北川的首次集体婚礼
第12回　饮食挑战中国人的健康
第13回　全球唯一的汽车牛市
第14回　四不像重回故里记
第15回　《新闻联播》和“国嘴”罗京

【成績評価の方法】
レポート　50％　出席　50％
最新の時事用語をキーワードとして、レポートの作成を課す。

【教科書】
三潴正道　他 2010年度版　時事中国語の教科書　保八 朝日出版社
準備学習の指示：各自習得していない語句については、事前に辞書で意味・用法を調べておくこと。

【備考】
・06～07CBCC生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
CBCC特講－応用中国語Ｂ　＜秋＞	
徐　　羽　厚	２単位

【講義概要】
中国近現代史の内容を中心にしたと同時に、中国語中級レベルの学習を進める授業です。

【学習目標】
日中関係は経済を中心にますます密接になり、人的な交流も増えてます。この中で、丁度中国３ヶ月留学終わってから帰って来た中国ビジネス専門の三年生に、更なる中級以上の中国語特講授業を開設するのは、学生たちの中国語能力向上させせだけではなく、今まで学んだ中国語と留学の経験を生かして、中国の経済現状及び歴史、社会などを深く理解し、より流暢な会話能力ができた上、中国ビジネス専門を巡って、色々な話題ができるようと目標をしています。

【講義計画】
第１回　中華民国の成立
第２回　抗日戦争
第３回　新中国の成立
第４回　大躍進運動期
第５回　文化大革命
第６回　文革期の終焉
第７回　改革開放のスタート
第８回　天安門事件と南巡講話
第９回　朱熔基と三大改革
第10回　WTO加盟と胡温体制
第11回　現代中国ウォッチング（その１）
第12回　現代中国ウォッチング（その２）
第13回　現代中国ウォッチング（その３）
第14回　授業のまとめ、テスト

【成績評価の方法】
試験　20％　レポート　70％　出席　10％
事前予習の有無、関係資料の調べ、授業中の様子などを平常点の元にし、期末テストの代わりに、レポートの提出を求める

【教科書】
三潴正道　　松田徹 現代中国の軌跡 金星堂
準備学習の指示
本書は中国近現代史を扱った中国語の中級レベル教科書です。中国ビジネスキャリアを専攻にした学生に、今後中国ビジネスに携わる人間として、是非最低限の中国についての社会、歴史などの基礎知識を身につけてもらいたい。この授業の目標を達成するために、授業を受け止めのほかに、普段の中国についての新聞や雑誌などの読むことが大事です。

【備考】
・06～07CBCC生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
CBCC特講－中国語で読み語る看る中国事情　＜春＞	
馬　　桂 芸	２単位

【講義概要】
本講義は初級中国語能力を有する学生を対象とする。主に「聴く，話す，読む」という３つのポイントを重視し，中国語のニュースや抜粋の小文章を使って，中国語を勉強しながら，現代中国の諸事情を紹介する。　講義と予習・復習を通じて，受講者の中国語の会話と読解能力を高める。また，毎回の授業で中国社会の変化が反映される新語・流行語を紹介し，中国に関するホットな話題を提供する。

【学習目標】
本講義は現代中国における政治・経済・文化などの様々な分野のことを中国語で理解する能力を養成し，中国語の実践能力の向上を目標とする。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　政治・国際交流
第３回　経済(その１)
第４回　経済(その２)
第５回　文化(その１)
第６回　文化(その２)
第７回　観光(その１)
第８回　観光(その２)
第９回　社会(その１)
第10回　社会(その２)
第11回　芸能
第12回　スポーツ
第13回　料理
第14回　総復習
第15回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　20%　出席　20%

【参考文献】
１．中国地理便覧－中国地理常識
出版社：外語教学與研究出版社
発売年月：2007年３月
２．『人民中国』，『中国語世界』，『聴く中国語』などの雑誌。
３．日中辞典，中日辞典

【備考】
中国語能力を高めるためには，授業中の限られた時間ではもちろん足りません。そのため，授業後のまじめな復習と大量の練習は必要不可欠です。
・06～07CBCC生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
ジェンダー論　＜春集＞	
村　上　あかね	４単位

【講義概要】
生物学的な性のあり方（セックス）に対して、社会的・文化的・心理的な性のあり方をジェンダーとよぶ。ジェンダー論を学ぶことは、グローバル化する社会の「世界市民」にとって基本的な教養といえる。この授業では、ジェンダーが社会的に構築されていること、ジェンダーが社会に影響を与えていることを学ぶ。自分が当たり前だと思っている「男らしさ」や「女らしさ」を見直すことに挑戦し、「自分らしさ」とはなにかを考える手がかりとすることで社会の見方が変わるだろう。講義が中心となるが、コメントペーパーの提出やエクササイズを取り入れた双方向型の授業を行う。

【学習目標】
この講義の目標は、以下の３点である。(１)学校・家庭・職場に焦点をあてて、私たちの生き方がジェンダーと関係がある現実を知り、その背後にあるメカニズムを理解する。(２)ジェンダーの問題を理解するために必要な用語やものの見方を学び、自分でも使えるようになる。(３)性別役割分業体制が根強い日本では、女性だけではなく男性も困難な状況におかれていることを理解し、性別にかかわらず一人ひとりの違いを尊重できる社会を築くためにはどうすればよいか、問題を解決するための視点を養う。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　ステレオタイプとジェンダー(１)ジェンダー・ステレオタイプの形成
第３回　ステレオタイプとジェンダー(２)身近なメディアとジェンダー・ステレオタイプ
第４回　ステレオタイプとジェンダー(３)ジェンダー・ステレオタイプの変化
第５回　発達・教育とジェンダー(１)子供のしつけ
第６回　発達・教育とジェンダー(２)学校における隠れたカリキュラム
第７回　発達・教育とジェンダー(３)大学進学率と専攻分野のバイアス
第８回　恋愛・結婚とジェンダー(１)恋人・配偶者からの暴力
第９回　恋愛・結婚とジェンダー(２)結婚の「条件」
第10回　恋愛・結婚とジェンダー(３)アンペイドワークとしての家事
第11回　恋愛・結婚とジェンダー(４)母性神話を疑う
第12回　恋愛・結婚とジェンダー(５)男性の子育て
第13回　恋愛・結婚とジェンダー(６)女性の就業と少子化
第14回　恋愛・結婚とジェンダー(７)離婚とひとり親家庭
第15回　恋愛・結婚とジェンダー(８)高齢期の暮らし
第16回　家計とジェンダー(１)女性の貧困
第17回　家計とジェンダー(２)家計管理と意思決定
第18回　家計とジェンダー(３)女性と資産形成
第19回　仕事とジェンダー(１)フリーターとジェンダー
第20回　仕事とジェンダー(２)専業主婦の誕生
第21回　仕事とジェンダー(３)日本型企業社会の成立と変容
第22回　仕事とジェンダー(４)男女雇用機会均等法の制定
第23回　仕事とジェンダー(５)セクシュアル・ハラスメント
第24回　仕事とジェンダー(６)ワーク・ライフ・バランスを阻むもの
第25回　仕事とジェンダー(７)男女間賃金格差の実情
第26回　仕事とジェンダー(８)　社会保障制度と女性の働き方
第27回　リプロダクティブ・ヘルスライツ
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　10%　出席　10%
レポートの代わりに、毎回の授業でコメントペーパーを書く。私語が多い場合には減点の対象となるので、くれぐれも注意すること。

【参考文献】
アン・オークレー, 1980,『家事の社会学』松籟社
伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子, 2002,『女性学・男性学――ジェンダー論入門』有斐閣
井上輝子・江原由美子編, 2005,『女性のデータブック[第４版]』有斐閣
エリザベート・バタンデール（鈴木晶訳）, 1998,『母性という神話』筑摩書房

さ
行

川口章, 2008, 『ジェンダー経済格差』勁草書房
木村涼子, 1999, 『学校文化とジェンダー』勁草書房
斎藤美奈子, 2001, 『紅一点論』ちくま書房
鈴木淳子・柏木惠子, 2006, 『ジェンダーの心理学』培風館
ナンシー・チョドロウ, 1981, 『母親業の再生産』新曜社
バリー・レビィ（山口のり子・小野りか訳）, 2009, 『恋するまえに――デートDVしない・されない10代のためのガイドブック』梨の木舎
藤井治枝, 1995, 『日本型企業社会と女子労働』ミネルヴァ書房
山口一男, 2008, 『ダイバーシティ――生きる力を学ぶ物語 豊かな個性は価値創出の泉』東洋経済新報社
The World Bank, 2009 , The Little Data Book on Gender, Washington, D. C.: The World Bank

【備考】
特定のテキストは指定しない。適宜プリントを配布する。
・02～09生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
資格英語－長期留学準備講座TOEFL　1A　＜春＞	
福屋義則	1単位

【講義概要】
This course is intended to prepare students for the Reading and Listening sections of the TOEFL iBT. This class will address skills to cope with various types of reading questions (e.g., Negative factual information, inference, rhetorical purpose) and listening questions (e.g., gist, details, speaker' s stance, reference). This class will also assist students in expanding their repertoire of vocabulary (including the terminology of diverse academic topics) and phrases via tests and assignments.

【学習目標】
By the end of this semester, students will have improved their:
- reading skills, as measured by the Reading section of the TOEFL iBT;
- listening capacity to comprehend conversations and academic lectures, as measured by the Listening section of the TOEFL iBT;
- test-taking strategies for the Reading and Listening sections;
- repertoire of vocabulary and phrases;
- schema (i.e., a stock of background knowledge) of natural and social sciences, such as biology and philosophy, by reading and listening to passages.

In general, students will aim at TOEFL iBT 80.

【講義計画】
第1回　Course Introduction
Reading and listening (Content Words and Structure Words: Thought Groups and Chunking: The Structure of TOEFL Reading Passages)
第2回　Reading (Vocabulary Questions)
Listening (Gist Questions)
第3回　Reading (Factual Information Questions)
Listening (Questions about Details)
第4回　Reading (Negative Factual Information Questions)
Listening (Questions about Speaker' s Purpose)
第5回　Reading (Inference Questions)
Listening (Questions about Speaker' s Stance)
第6回　Reading (Rhetorical Purpose Questions)
Listening (Organization Questions)
第7回　Reading (Reference Questions)
Listening (Relationship Questions)
第8回　Reading (Sentence Simplification Questions)
Listening (Note-Taking)
第9回　Reading (Insert Text Questions)
Listening (Note-Taking)
第10回　Reading (Prose Summary Questions)
Listening (Note-Taking)
第11回　Reading (Fill in a Table Questions)
第12回　Listening (The Topic of a Passage: Philosophy)
第13回　Reading (The Topic of a Passage: Astronomy)
第14回　Listening (The Topic of a Passage: Cinematography)
第15回　No final exam

【成績評価の方法】
Vocabulary tests 30%: Assignments 70%; Students are expected to do all the assignments and turn them in on time. A delayed submission will result in partial credit: Attendance 0%; If students are absent more than three times, they will not earn 1 credit of this course.

【教科書】
Z会編集部 受験英語からのTOEFL Test: iBT Reading (2008) Z会
Z会編集部 受験英語からのTOEFL Test: iBT Listening (2008) Z会 CD-ROM付き

【備考】
【授業時間以外での準備学習と課題】
Prepare for vocabulary tests. Do some reading and listening assignments.
・02～09L生対象

主として英語特待生留学に参加し、長期留学を希望する英語コミュニケーション専修生対象（その他の専修でも長期留学を希望する場合は履修可）
・１：Reading／Listening　２：Writing／Speaking
・１、２はペアで履修することが望ましい
※①２年次英語コミュニケーション専修で春学期に英語特待生留学へ応募することを考えている学生は、資格英語ではなく英語留学準備講座（中級：５～６A）を履修すること
　②英語コミュニケーション専修以外の専修で、英語特訓留学への応募を考えている学生は、英語留学準備講座（１～２、７～12）を履修すること
・02～07L生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
資格英語－長期留学準備講座TOEFL　1B　＜秋＞	
福　屋　義　則	１単位

【講義概要】
This course is the continuance of長期留学準備講座〈Spring〉. It is intended to prepare students for the Reading and Listening sections of the TOEFL iBT. Instead of dealing with the reading and listening skills that students have presumably acquired in the spring session, this course is designed to help students answer TOEFL questions quickly.

【学習目標】
By the end of this semester, students will have improved their:
- reading skills, as measured by the Reading section of the TOEFL iBT;
- listening capacity to comprehend conversations and academic lectures, as measured by the Listening section of the TOEFL iBT;
- test-taking strategies for the Reading and Listening sections;
- repertoire of vocabulary and phrases ;
- schema (i.e., a stock of background knowledge) of natural and social sciences, such as biology and philosophy, by reading and listening to passages.

In general, students will aim at TOEFL iBT 80.

【講義計画】
第１回　Course Introduction
　　　　Reading (The Topic of a Passage: Agriculture)
第２回　Listening (Journalism)
第３回　Reading (Psychology)
第４回　Listening (Meteorology and economics)
第５回　Reading (Literature)
第６回　Listening (Linguistics and history)
第７回　Reading (Industry)
第８回　Listening (Chemistry and computer science)
第９回　Reading (Economics)
第10回　Listening (Biology and education)
第11回　Reading (Politics)
第12回　Listening (Business and art)
第13回　Reading (Sociology)
第14回　Listening (Medical science and linguistics)
第15回　No final exam

【成績評価の方法】
Vocabulary tests 30%: Assignments 70%; Students are expected to do all the assignments and turn them in on time. A delayed submission will result in partial credit: Attendance 0%; If students are absent more than three times, they will not earn 1 credit of this course.

【教科書】
Z会編集部 受験英語からのTOEFL Test: iBT Reading (2008) Z会
Z会編集部 受験英語からのTOEFL Test: iBT Listening (2008) Z会 CD-ROM付き

【備考】
【授業時間以外での準備学習と課題】
Prepare for vocabulary tests. Do some reading and listening assignments.
・02～09L生対象
主として英語特待生留学に参加し、長期留学を希望する英語コミュニケーション専修生対象（その他の専修でも長期留学を希望する場合は履修可）
・１：Reading／Listening　２：Writing／Speaking
・１、２はペアで履修することが望ましい
※①２年次英語コミュニケーション専修で春学期に英語特待生留学へ応募することを考えている学生は、資格英語ではなく英語留学準備講座（中級：５～６A）を履修すること
　②英語コミュニケーション専修以外の専修で、英語特訓留学への応募を考えている学生は、英語留学準備講座（１～２、７～12）を履修すること
・02～07L生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
資格英語－長期留学準備講座TOEFL　2Ａ　＜春＞ 資格英語－長期留学準備講座TOEFL　2Ｂ　＜秋＞	
Arthur Frederick Lauritsen	1単位

【講義概要】
This course is designed to familiarize students with the speaking and listening sections of the TOEFL test. The listening section measures your ability to understand spoken English from North America and other English-speaking parts of the world. In academic environments students need to listen to lectures and conversations. The speaking section includes speaking about familiar topics, and answering questions about reading passages and lectures. This introductory class is designed to help students whose current TOEFL test score ranges approximately from 380 to 400 on the TOEFL PBT or 26-32 on the TOEFL iBT.

【学習目標】
At the end of this course students will:
Be familiar with the format and language of the TOEFL speaking and listening sections.
Understand the discrete skills necessary to fully utilize their English knowledge during the test.
Have improved their English through practice during and outside of class.

【講義計画】
第１回　Course intro (The course schedule is tentative and may be revised)
第２回　Plan free-choice response; Understanding the Gist
第３回　Make free-choice response; Understanding the Gist
第４回　Plan paired-choice response; Understand the details
第５回　Make paired-choice response; Understand the details
第６回　Note the main point as you read; Understand the function
第７回　Note the main point as you listen; Understand the function
第８回　Plan before you speak; Understand the speaker' s stance
第９回　Make the response; Understand the speaker' s stance
第10回　Note the main point as your; Understand the organization
第11回　Note the main point as you listen; Understand the relationships
第12回　Plan before you speak; Understand the relationships
第13回　Make the response; Listening
第14回　Final exam

【成績評価の方法】
Grades will be based on in-class participation, homework, homework quizzes, and a final exam.

【教科書】
Phillips, Deborah Longman Introductory Course for the TOEFL iBT Pearson Longman

【備考】
・02～09L生対象
主として英語特待生留学に参加し、長期留学を希望する英語コミュニケーション専修生対象（その他の専修でも長期留学を希望する場合は履修可）
・１：Reading／Listening　２：Writing／Speaking
・１、２はペアで履修することが望ましい
※①２年次英語コミュニケーション専修で春学期に英語特待生留学へ応募することを考えている学生は、資格英語ではなく英語留学準備講座（中級：５～６A）を履修すること
②英語コミュニケーション専修以外の専修で、英語特訓留学への応募を考えている学生は、英語留学準備講座（１～２、７～12）を履修すること
・02～07L生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
資格英語－TOEIC １Ａ　＜春＞	
片　渕　悦　久	１単位

【講義概要】
TOEIC テストPart ５、６(文法・語彙問題)、およびPart７(読解問題)対策のための基本文法事項の確認を行う。実践的な問題演習も実施して、スコアアップに必要な英語読解力を養成する。

【学習目標】
基礎英文法事項の総復習とTOEICテストスコア・アップに必要な文法、リーディング問題中心の実践的問題演習による読解力の養成。

【講義計画】
第１回　Introduction (授業概要の説明)
第２回　Unit 1 & 2 (単純現在、現在進行形)
第３回　Unit 3 (単純過去&過去進行形)
第４回　Unit 4 & 5 (現在完了、いろいろな完了形)
第５回　Unit 6 & 7 (助動詞、いろいろな助動詞)
第６回　Unit 8 & 9 (受動態、いろいろな受動態)
第７回　Unit 10 & 11 (仮定法、仮定法現在)
第８回　Unit 12 & 13 (動名詞　１・２)
第９回　Unit 14 & 15 (不定詞　１・２)
第10回　Unit 16, 17 & 18 (形容詞と副詞、比較１・２)
第11回　Unit 19 & 20 (関係詞　１・２)
第12回　Unit 21 (Reading Comprehension １)
第13回　Unit 22 (Reading Comprehension ２)
第14回　Unit 23 (Reading Comprehension ３)
第15回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　30%　出席　20%
「出席」には具体的な授業参加の評価を含む。「レポート」は当面「小テスト」とする。

【教科書】
川口淑子、メイス・高安みよ子、田口悦男、Meredith Hinton
TOEICテストに挑戦―リーディングセクション基礎から応用まで 開文社

【備考】
１と２、３と４はそれぞれペアで履修することが望ましい。
【準備学習の指示】予習箇所の問題演習。学習した単語(熟語)等をリストに整理する。学期中に最低一回はTOEICテストを受験する(最新スコアの自己確認)。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
資格英語－TOEIC 1B　＜秋＞	
片　渕　悦　久	1単位

【講義概要】
TOEIC Part 7(読解問題)対策を射程に入れ、頻出する英文法事項の確認を行う。合わせて問題演習も実施し、長文読解力を養成する。

【学習目標】
TOEICテストに頻出する重要英文法事項の確認と、Part 7(読解問題)スコアアップのための速読力の英文解釈力の養成。

【講義計画】
第1回　Introduction(授業概要説明)
第2回　TOEIC Part 7とは
第3回　主語の判別(1)
第4回　主語の判別(2)
第5回　不定詞、分詞構文、仮定法
第6回　関係代名詞、分詞
第7回　倒置
第8回　ショート・パラグラフ速読(1)
第9回　ショート・パラグラフ速読(2)
第10回　応用編：シングル・パッセージ(1)
第11回　シングル・パッセージ(2)
第12回　ダブル・パッセージ(1)
第13回　ダブル・パッセージ(2)
第14回　予備
第15回　最終試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　30%　出席　20%
「出席」には具体的な授業参加の評価を含む。「レポート」は当面「小テスト」とする。

【教科書】
Aaron Calcote、先川　暢郎、岩崎　光一 スピード・リーディング―新TOEICテストPart 7対策― 朝日出版社

【備考】
1と2、3と4はそれぞれペアで履修することが望ましい。
【準備学習の指示】予習箇所の問題演習。学習した単語(熟語)等をリストに整理する。学期中最低一回はTOEICテストを受験する(最新スコアの自己確認)。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
資格英語－TOEIC 2A　＜春＞	
松　田　雄　治	1単位

【講義概要】
職場での人事考課にも採用されているTOEICテスト。このテストの模擬問題を練習しながら、理解できるまで反復します。まず自宅等でつぎの授業内容を必ず予習し、判らない部分に「気づいて」ください。授業（演習）では特にこの部分の疑問を解消し、教室外で必ず、復習してください。復習にはCDの音声を聞きながら音読して下さい。

【学習目標】
TOEICテストの高スコア獲得が“絶対”目標です。このためには教室外での準備学習が欠かせません。この時もテキストとCDを活用して下さい。授業（演習）では同時通訳者の訓練技法のシャドーイングを何度も行い、リスニング能力とスピーキング能力を涵養します。

【講義計画】
第1回　授業のオリエンテーションの後、すぐに授業に入ります。
　　　　Chapter 1. Listening Section Part: 1/Part 3
第2回　Chapter 1. Reading Section Part: 5/Part 7
第3回　Chapter 2. Listening Section Part: 2/Part 4
第4回　Chapter 2. Reading Section: Part 5/Part 6
第5回　Chapter 3. Listening Section: Part 3
第6回　Chapter 3. Reading Section: Part 5/Part 7
第7回　Chapter 4. Listening Section: Part 2/Part 4
第8回　Chapter 4. Reading Section: Part 7
第9回　Chapter 5. Listening Section: Part 1/Part 3
第10回　Chapter 5. Reading Section: Part 5/Part 7
第11回　Chapter 6. Listening Section: Part 2/Part 4
第12回　Chapter 6. Reading Section: Part 5/Part 6
第13回　Chapter 7. Listening Section: Part 3
第14回　Chapter 7. Reading Section: Part 5/Part 7
第15回　定期試験（TOEIC模擬テスト）

【成績評価の方法】
試験　20%　レポート　30%　出席　50%
なによりも講義（演習）への出席が肝要です。レポート等は締切を守って下さい。

【教科書】
松岡 昇 An Intensive Approach to the TOEIC Test（株）金星堂

【参考文献】
開講時に紹介します。

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
資格英語－TOEIC 2B ＜秋＞	
松　田　雄　治	1単位

【講義概要】
職場での人事考課にも採用されているTOEICテスト。このテストの模擬問題を練習しながら、理解できるまで反復します。まず自宅等でつぎの授業内容を必ず予習し、判らない部分に「気づいて」ください。授業（演習）では特にこの部分の疑問を解消し、教室外で必ず、復習してください。復習にはCDの音声を聞きながら音読して下さい。

【学習目標】
TOEICテストの高スコア獲得が“絶対”目標です。このためには教室外での準備学習が欠かせません。この時もテキストとCDを活用して下さい。授業（演習）では同時通訳者の訓練技法のシャドーイングを何度も行い、リスニング能力とスピーキング能力を涵養します。

【講義計画】
第１回　Chapter 8. Listening Section: Part 2/Part 4
第２回　Chapter 8. Reading Section: Part 7
第３回　Chapter 9. Listening Section: Part 1/Part 3
第４回　Chapter 9. Reading Section: Part 5/Part 7
第５回　Chapter 10. Listening Section: Part 2/Part 4
第６回　Chapter 10. Reading Section: Part 5/Part 6
第７回　Chapter 11. Listening Section: Part 3
第８回　Chapter 11. Reading Section: Part 5/Part 7
第９回　Chapter 12. Listening Section: Part 2/Part 4
第10回　Chapter 12. Reading Section: Part 7
第11回　Chapter 13. Listening Section: Part 1/Part 3
第12回　Chapter 13. Reading Section: Part 5/Part 7
第13回　Chapter 14. Listening Section: Part 2/Part 4
第14回　Chapter 14. Reading Section: Part 5/Part 7
第15回　定期試験（TOEIC模擬テスト）

【成績評価の方法】
試験　20%　レポート　30%　出席　50%
なによりも講義（演習）への出席が肝要です。レポート等は締切を守って下さい。

【教科書】
松岡 昇 An Intensive Approach to the TOEIC Test （株）金星堂

【参考文献】
開講時に紹介します。

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
資格英語－TOEIC 3A ＜春＞	
片　渕　悦　久	1単位

【講義概要】
TOEIC テスト文法・語彙問題(Part 5、6)、および読解問題(Part 7)対策のため文法頻出項目の総復習を行う。合わせて問題演習を実施し、総合的な英語読解力を養成する。

【学習目標】
文法・語彙頻出事項の総復習と実践問題演習によるTOEICテストスコア・アップに必要な文法、リーディング力の養成。

【講義計画】
第１回　Introduction（授業概要の説明）
第２回　品詞・前置詞
第３回　接続詞・代名詞
第４回　受動態・分詞・時制
第５回　If節、動名詞と不定詞・その他の動詞
第６回　比較・可算、不加算名詞
第７回　関係代名詞・副詞の使い分け
第８回　主語と動詞の一致・長文穴埋め・その他
第９回　読解問題の解き方(以下、問題別)
第10回　手紙、E-mail、ファックス、メモ
第11回　新聞記事、ウェブ・ページ
第12回　通知、公示、説明書
第13回　広告・申込用紙
第14回　スケジュール・地図・ダブルパッセージ
第15回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　30%　出席　20%
「出席」には具体的な授業参加の評価を含む。「レポート」は当面「小テスト」とする。

【教科書】
西谷敦子、ジェイムズ・G・ウォン 新TOEICテスト文法・読解問題頻出ポイント 朝日出版社

【備考】
１と２、３と４はそれぞれペアで履修することが望ましい。
【準備学習の指示】予習箇所の問題演習。学習した単語(熟語)等をリストに整理する。学期中最低一回はTOEICテストを受験する(最新スコアの自己確認)。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
資格英語－TOEIC 3B　＜秋＞	
片　渕　悦　久	1単位

【講義概要】
TOEIC Part 7(読解問題)対策を射程に入れ、頻出する英文法事項の確認を行う。合わせて、より実践的な問題演習を実施し、リーディング・セクションにおいて高得点を狙える英文読解力を養成する。

【学習目標】
TOEICテストに頻出する重要英文法事項の確認と、Part 7(読解問題)スコアアップのための速読力を駆使した英文情報処理能力と解釈力の養成。

【講義計画】
第1回　Introduction(授業概要説明)
第2回　文法問題解法パターン
第3回　長文読解問題解法テクニック
第4回　実践問題(1)
第5回　実践問題(2)
第6回　実践問題(3)
第7回　実践問題(4)
第8回　実践問題(5)
第9回　実践問題(6)
第10回　実践問題(7)
第11回　実践問題(8)
第12回　実践問題(9)
第13回　実践問題(10)
第14回　実践問題(11)・(12)
第15回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　30%　出席　20%
「出席」には具体的な授業参加の評価を含む。「レポート」は当面「小テスト」とする。

【教科書】
安藤裕介、Rory Britto、市川郢康、松田敦司 文法・読解で高得点をねらう新TOEIC Test 松柏社

【備考】
1と2、3と4はそれぞれペアで履修することが望ましい。
【準備学習の指示】予習箇所の問題演習。学習した単語(熟語)等をリストに整理する。学期中最低一回はTOEICテストを受験する(最新スコアの自己確認)。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
資格英語－TOEIC 4A　＜春＞	
森　岡　裕　一	1単位

【講義概要】
TOEIC得点力アップのための実践演習を行う。

【学習目標】
TOEICのとくにリスニング力を上げるためのポイントを習得する。

【講義計画】
第1回　ガイダンス、実力チェックテスト
第2回　Lesson 1,2
第3回　Lesson 3,4
第4回　Lesson 5,6
第5回　Lesson 7,8
第6回　Lesson 9,10
第7回　Lesson 11,12
第8回　Lesson 13,14
第9回　Lesson 15,16
第10回　Lesson 17,18
第11回　Lesson 19,20
第12回　Lesson 21,22
第13回　Lesson 23,24
第14回　復讐テスト
第15回　総合実力チェック

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　0%　出席　50%
毎回の授業でのできをチェックして試験に替える。

【教科書】
Jim Knudsen 新TOEICテスト：ポイント攻略 南雲堂

【備考】
【準備学習の指針】既習部分について付属CDを活用して徹底的に復讐すること。予習より復讐が力をつける最善の策である。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
資格英語－TOEIC ４B　＜秋＞	
森　岡　裕　一	１単位

【講義概要】
TOEIC得点力アップのための実践演習を行う。

【学習目標】
TOEICのとくにリスニング力アップのためのポイントを知り得点力増加につなげる。

【講義計画】
第１回　ガイダンス、実力チェックテスト
第２回　Unit　1
第３回　〃　2
第４回　〃　3
第５回　〃　4
第６回　〃　5
第７回　〃　6
第８回　〃　7
第９回　〃　8
第10回　〃　9
第11回　〃　10
第12回　〃　11
第13回　〃　12
第14回　〃　13
第15回　〃　14

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　０%　出席　50%

【教科書】
光富省吾 はじめての新TOEIC TEST 朝日出版社
大賀リエ TOEIC TEST: On Target Book 1 南雲堂

【備考】
【準備学習の指針】既習部分の徹底的な復讐が力をつける最善の策である。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
自然科学－基礎数学　＜通期＞	
川　畑　洋　昭	４単位

【講義概要】
本講義では、専門課程や社会で必要となる数学の基礎を学ぶことを目的としています。微分、積分、線形代数を基本に、教養課程で必修と思われる標準的な数学を学習するとともに、毎回、高等学校で学んだ数学の復習を兼ねて公務員試験（大学・短大卒程度）の中より実践問題を解説します。小・中・高で学習した数学とのつながりを常に意識した講義を目指すことにより真の数学的思考能力を養成します。

【学習目標】
大学の教養課程の数学を修了するにふさわしい数学の素養を身に着けることを最終の学習目標としますが、各自の専門分野を問わず、数学的素養を大学卒業後も向上させていきたいというモチベーションを強く意識に残すことを最大の学習目標ともしています。数学における重要な概念の理解とそれら相互間の関係の理解など、数学の持つ純粋で奥深い魅力の理解と具体的問題の解決能力の向上を目指します。

【講義計画】
第１回　オリエンテーションを兼ねて、数個の数の概念から始まり、自然数、整数、有理数、無理数、実数、複素数へとたどり着いた数の概念の発展過程の解説を行う。また、極座標表示による演算が複素数演算において重要となることを解説する。
第２回　行列と行列式、公務員試験問題解説
第３回　逆行列、公務員試験問題解説
第４回　行列による連立方程式の解法、公務員試験問題解説
第５回　固有値と固有ベクトル、小テスト
第６回　微分と積分の概念、公務員試験問題解説
第７回　関数の微分、公務員試験問題解説
第８回　関数の積分、公務員試験問題解説
第９回　指数関数、対数関数の微分、小テスト
第10回　三角関数の性質、公務員試験問題解説
第11回　三角関数の定理の導出１、公務員試験問題解説
第12回　三角関数の定理の導出２、公務員試験問題解説
第13回　ベクトル空間と内積、公務員試験問題解説
第14回　フーリエ級数、公務員試験問題解説
第15回　中間テスト
第16回　論理の基礎事項、公務員試験問題解説
第17回　組合せ、公務員試験問題解説
第18回　確率の定理１、公務員試験問題解説
第19回　確率の定理２、小テスト
第20回　定積分の応用１、公務員試験問題解説
第21回　定積分の応用２、公務員試験問題解説
第22回　定積分の応用３、公務員試験問題解説
第23回　微分方程式１、公務員試験問題解説
第24回　微分方程式２、公務員試験問題解説
第25回　微分方程式３、公務員試験問題解説
第26回　総合問題１
第27回　総合問題２
第28回　総合問題３
第29回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%

【教科書】
特に使用しない。毎回、配布資料により講義を進める。

【参考文献】
江川博康　大学１・２年生のためのすぐわかる数学　東京図書

【備考】
［準備学習指示］
　高等学校で用いた数学の教科書で、微分、積分の復習をしておくこと。
高等学校で微分、積分を学習していない人は、もっとも簡単と思われる参考書にて学習しておいてください。
　微積分についての知識のない人ももちろん履修可能です。

科目名　クラス　講義区分	
自然科学－数理の目で世界を見る　<秋集>	
藤　間　　真	4単位

【講義概要】

多くの人に取っての数学のイメージは、「無味乾燥で現実とは遊離している学問」というものでしょう。また、色々な理由から、嫌いになった人も多いと思われます。

しかし、数学の源流をたどると、現実を描写するための学問、他者とコミュニケーションをとるための学問から出発したことがわかります。この講義の目的の一つは、そのような、「世界を見る視座としての数学」に触れてもらうことです。もっとも、その様な視点から見るにしても、数学の基礎的な技能が不要になるわけではありません。そこで、このような技能の復習も扱います。

具体的には、世界を見るための道具としての数学を扱う曜日と基礎的技能の整理の曜日に分けて講義を行います。さらに、パソコンを用いた自習システムを援用する予定です。(自習システムについては説明する時間を設けます)

なお、頻繁に習熟度を確認して、速度調整を行うので、下記に示した予定から変更がある可能性は大です。

詳細は第一回に示しますので、受講を検討する学生諸君は、必ず出席してください。

【学習目標】

この講義の目指す点は二つです。

その一つは、世界を見る視座としての数理科学に触れてもらうことです。

もう一つは、世界を見る視座としての数理科学に必要な中学高校レベルの数学を身につけることです。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション
第２回　自習システムについての説明《情報センターの予定》
第３回　ずるい算術―文字と式による表現
第４回　中学数学の見直し
第５回　ずるい算術―文字と式による表現
第６回　中学数学の見直し
第７回　グラフによる現象の表現
第８回　中学数学の見直し
第９回　グラフによる現象の表現
第10回　中学数学の見直し
第11回　ざっくり把握するための道具―記述統計
第12回　中学数学の見直し
第13回　ざっくり把握するための道具―記述統計
第14回　中間まとめ
第15回　部分から全体を予測するための道具―推計統計
第16回　高校数学の見直し
第17回　部分から全体を予測するための道具―推計統計
第18回　高校数学の見直し
第19回　論理の力で常識を超える―無限の世界
第20回　高校数学の見直し
第21回　論理の力で常識を超える―無限の世界
第22回　高校数学の見直し
第23回　微分の目で社会現象を見る
第24回　高校数学の見直し
第25回　微分の目で社会現象を見る
第26回　高校数学の見直し
第27回　数学へのコンピュータの応用
第28回　数学へのコンピュータの応用
第29回　そうまとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】

講義で扱った各分野について、提出物、演習問題、期末試験、期末レポートの点数の最大のものをその分野の得点として、それらの合計で評価します。

なお、本講義の評価時に、出席点は加味することはありませんが、きちんと出席していれば、単位認定できるように講義運営する予定です。

詳細は、オリエンテーション時に示します。

【参考文献】

遠山啓著、『数学入門』、岩波新書、1959-1960
これ以外については、適宜指示します。

【備考】

【準備学習】

復習のための自習課題を頻繁に課しますので、予習は不要です。

科目名　クラス　講義区分	
自然科学－生物学Ⅰ　<春集>	
巖　　圭　介	4単位

【講義概要】

バイオテクノロジーの台頭と環境問題への注目により、生物学は21世紀の社会でよくも悪くも中心的な位置を占めることになる。遺伝子や生態系に関する正しい理解がなければ、さまざまな社会問題に正しく対応し判断をくだすことは難しい。この時代に対応するためにも、生物というものの基本を正しく理解しておいてほしい。

生物の基本、それはすべての生物が37億年にわたる生命の進化の産物であるということ。進化という現象を抜きにして生物のいかなる側面も語ることはできない。にもかかわらず、現在の高校までの理科教育では進化をまともに扱うことがなく、結果として進化を正しく理解している者はきわめて少ない。

この授業では、進化を軸にして生命現象のいくつかの重要な側面について概説する。

【学習目標】

生物の進化とそのメカニズムの正しい理解を目標とする。

【講義計画】

第１回　イントロダクション
第２回　生命の起源
第３回　生命の分化と共生
第４回　進化の大爆発
第５回　第１回イン・クラス・レポート
第６回　DNA１
第７回　DNA２
第８回　進化のメカニズム
第９回　自然選択
第10回　進化と突然変異
第11回　偶然と必然
第12回　第２回イン・クラス・レポート
第13回　遺伝子組み換え
第14回　性の進化１
第15回　性の進化２
第16回　性差の進化
第17回　性比の進化
第18回　第３回イン・クラス・レポート
第19回　近親交配
第20回　血縁選択
第21回　真社会性の進化
第22回　雌雄の対立、親子の対立
第23回　生物多様性保全１
第24回　生物多様性保全２
第25回　生物多様性保全３
第26回　第４回イン・クラス・レポート
第27回　人類の進化１
第28回　人類の進化２
第29回　人類のこれから
第30回　総復習

【成績評価の方法】

試験　50%　レポート　50%　出席　0％

イン・クラス・レポートとは、授業時間中に出題して、その場で書き上げて提出してもらうレポートで、その時点まで数回分の講義内容を振り返りまとめてもらうのが目的である。レポートをすべて提出した上で、試験で６割程度得点すれば単位を与える。

【参考文献】

酒井、高田、近「生き物の進化ゲーム」共立出版 1999
桑村哲生　『生命の意味』 裳華房　2001年
長谷川眞理子『進化とはなんだろうか』岩波ジュニア新書　1999年
ワイナー『フィンチの嘴』早川書房　2001年
長谷川眞理子『クジャクの雄はなぜ美しい？』紀伊國屋書店　1992年
ドーキンス『利己的な遺伝子』紀伊國屋書店　1991年
他、適宜紹介する。

【備考】

【準備学習の指示】

日常目にする生物関係のニュースなどをチェックし、常に情報をとりいれておくこと。授業では板書の負担を軽減するため資料を配付するが、その穴を埋めるだけで済むわけではない。ノートをとり、配付資料の内容と授業後に統合して整理することで、はじめて十分な理解ができるはずなので、次の授業までにきちんと復習をすること。

科目名　クラス　講義区分	
自然科学－脳科学のリテラシー　＜秋集＞	
本　間　栄　男	4単位

【講義概要】
脳について知ることは単なる流行ではなく、これからの社会を生き抜く必須の知識になるだろう。この講義では、脳の基本的知識と脳科学の語られ方を学ぶ。

【学習目標】
自然科学について充分な知見を得るというよりも、脳科学の話題についてだいたいの判断ができるようになる最低限のリテラシーを獲得すること。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　科学とは
第３回　科学の歴史(１)
第４回　科学の歴史(２)
第５回　脳の解剖学(１)
第６回　脳の解剖学(２)
第７回　脳研究の歴史(１)
第８回　脳研究の歴史(２)
第９回　ニューロン(１)
第10回　ニューロン(２)
第11回　視覚と錯覚
第12回　視覚の脳科学(１)
第13回　視覚の脳科学(２)
第14回　言語と脳(１)
第15回　言語と脳(２)
第16回　左脳・右脳
第17回　脳と性差
第18回　前頭葉(１)
第19回　前頭葉(２)
第20回　睡眠と脳(１)
第21回　睡眠と脳(２)
第22回　情動と脳(１)
第23回　情動と脳(１)
第24回　社会的脳(１)
第25回　社会的脳(２)
第26回　さまざまな障害と脳(１)
第27回　さまざまな障害と脳(１)
第28回　自己と脳
第29回　まとめ
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100％

【参考文献】
竹内薫・茂木健一郎『脳のからくり』新潮文庫　2006

【備考】
【準備学習の指示】
脳科学のみならず、自然科学一般についての知見を広めるために、TVの科学番組を積極的に視聴する。

科目名　クラス　講義区分	
思想－旧約聖書を読む　＜秋集＞	
滝　澤　武　人	4単位

【講義概要】
キリスト教の正典である『聖書』は、『旧約聖書』と『新約聖書』からなっています。旧約聖書には、古代ユダヤ民族の1000年以上にわたるさまざまな時代に書かれた、歴史・宗教・思想・文学などの39冊の文書が含まれています。それはユダヤ教・キリスト教・イスラム教の「聖書」であると同時に、現代においても人類全体の重要な知的遺産であり、世界の古典中の古典です。この旧約聖書をできるだけ広く深く「読む」こと、それがこの講義の概要です。

【学習目標】
旧約聖書にはさまざまな「人間」のさまざまな「人生」が見いだされます。それを自分自身の「生きかた」と重ね合わせながら、できるだけ広く多く読むことが目標です。「信仰」の有無とはまったく関係なく、誰でも受講することができます。「世界の市民」の教養として、ぜひ旧約聖書にチャレンジしてほしいと思います。熱心で真面目な学生諸君のねばり強い受講を期待しています。

【講義計画】
第１回　「旧約聖書」とは？
第２回　天地創造物語
第３回　エデンの園の物語
第４回　カインとアベル
第５回　ノアの箱船
第６回　アブラハム(１)
第７回　　〃　　(２)
第８回　イサク
第９回　ヤコブ(１)
第10回　〃　(２)
第11回　ヨセフ(１)
第12回　〃　(２)
第13回　ビデオ(１)
第14回　モーセ(１)
第15回　〃　(２)
第16回　ダビデ(１)
第17回　〃　(２)
第18回　預言書（１）
第19回　〃　（２）
第20回　〃　（３）
第21回　(クリスマス物語)
第22回　文学書（１）
第23回　〃　（２）
第24回　〃　（３）
第25回　〃　（４）
第26回　〃　（５）
第27回　まとめ
第28回　ビデオ(２)

【成績評価の方法】
試験　85％　レポート　15％
最初の授業で説明しますので、必ず出席してください。

【教科書】
新共同訳 聖書（旧約聖書続編つき）日本聖書協会
3000円以上する高い本ですが、きっと生涯の同伴者となるでしょう。どんな聖書でもよいので、毎時間必ず持参してください。

【参考文献】
AERA Mook『旧約聖書がわかる。』朝日新聞社
阿刀田　高『旧約聖書を知っていますか』新潮文庫
三浦　綾子『旧約聖書入門』光文社文庫

【備考】
【準備学習の指示】余りなじみのないテーマなので、予習・復習が必要である。テキストとして指定した『聖書』の該当部分を必ず読んでおいてほしい。

科目名　クラス　講義区分	
思想－中国思想から今を読む　<秋集>	
串　田　久　治	4単位

【学習目標】

　中国古代の諸思想を通して、今を読み解く講義です。
中国の古代思想は広く東アジアに根を下ろし、人々の物の見方や考え方を形成する上で大きな影響を与えました。そして、その多くが書物となって今に伝えられています。

　本講義は、中国の知的遺産を解きほぐしながら、今日の我々が抱えるさまざまな問題を見つめ、現実の世界に目を開いて考え直し、一人ひとりの思考を深化させる場とします。

　したがって、本講義はただ聞いているだけの講義ではなく、学生諸君の積極的なアプローチと深い思索が要求されます。具体的には、数名ごとのグループに分かれ、グループで討議したことを発表し、全員でディスカッションし、その後に各自が自分の考えをまとめてレポートして提出することとなります。

【講義計画】

第一部　発想の転換
　1　不満と満足
　2　バランス感覚
　3　無用と有用
第二部　真実を見抜く
　1　プロフェッショナルとは何か？
　2　法治国家とは何か？
　3　銅臭とは何か？
第三部　国家の責務
　1　政治家の条件
　2　天災
　3　棄民
第四部　平和への希求
　1　テロリスト群像
　2　戦争請負業
　3　イソップ「戦争と傲慢」
第五部　人間の魅力
　1　飲酒のススメ
　2　昼寝のススメ
　3　軟弱のススメ

【成績評価の方法】

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

【教科書】

串田久治 無用の用 研文出版
初回講義時に販売

【参考文献】

林語堂著『支那のユーモア』(岩波新書)
林語堂著『中国＝文化と思想』(講談社学術文庫)
宮崎市定著『中国に学ぶ』(中公文庫)
串田久治著『王朝滅亡の予言歌－古代中国の童謡』(大修館)
串田久治著『儒教の知恵－矛盾の中に生きる』(中公新書)
串田久治著『中国古代の「謡」と「予言」』(創文社)
串田久治著『天安門落書』(講談社現代新書)
KUSHIDA'S WEB SITE
　　http://www1.odn.ne.jp/kushida

科目名　クラス　講義区分	
思想－法思想史　<秋集>	
早　川　のぞみ	4単位

【講義概要】

　この講義では，法と正義の問題について考えていく。地域社会や国際社会の変貌とともに生じる困難な社会問題に直面したとき，対立する利害関係を的確に分析し，その最善の解決について考える必要性に迫られる。そうしたとき，人と社会と法のあり方について，法と正義という哲学的基礎に遡ることによって，どのような解決策を提示することができるのか，現代正義論の歴史的展開のなかで探求していく。

　講義では，英米（特にアメリカ）の法思想に焦点を当てる。ジョン・ロールズの正義論をはじめ，主要な現代正義論をいくつか取り上げ，それぞれの理論の基本的特徴を分析し，その問題点について検討していく。また，それぞれの正義論が，どのような時代背景の中で提唱されたのか，アメリカ社会の法および法思想の歴史的展開を追う。さらに，現代における具体的な社会問題，制度上の問題を取り上げる。本年は，権利をめぐる問題，積極的格差是正措置，生命倫理と法を取り上げる予定である。それぞれの問題の所在を突き止め，正義の問題との関連において考えていく。

【学習目標】

　現代の代表的な論者たちが，人と社会を規律する法・制度について，どのように考えたのかを辿る。法と正義についての歴史的思想を展望することによって，現代社会における法・制度が抱える問題の在り処を明らかにし，その展望について多角的な観点から考えていく手掛かりの１つを修得することを目指す。

【講義計画】

第１回　ガイダンス―講義の目的・概要・評価等について
第２回　法の目的と正義
第３回　正義の多様性
第４回　現代の諸問題（１）権利の問題①
第５回　現代の諸問題（２）権利の問題②
第６回　現代の諸問題（３）積極的格差是正措置
第７回　現代の諸問題（４）生命倫理と法①
第８回　現代の諸問題（５）生命倫理と法②
第９回　古典的正義論（１）
第10回　古典的正義論（２）
第11回　イギリス功利主義（１）
第12回　イギリス功利主義（２）
第13回　アメリカの法形成と法思想の展開（１）
第14回　アメリカの法形成と法思想の展開（２）
第15回　アメリカの法形成と法思想の展開（３）
第16回　アメリカの法形成と法思想の展開（４）
第17回　アメリカの法形成と法思想の展開（５）
第18回　現代正義論（１）価値相対主義と功利主義
第19回　現代正義論（２）ロールズの正義論①
第20回　現代正義論（３）ロールズの正義論②
第21回　現代正義論（４）ドゥオーキンの権利基底的平等主義
第22回　現代正義論（５）リバタリアニズム
第23回　現代正義論（６）共同体主義
第24回　現代正義論（７）多文化主義
第25回　現代正義論（８）フェミニズム
第26回　現代正義論（９）対話的正義論
第27回　課題と展望（１）
第28回　課題と展望（２）

【成績評価の方法】

期末試験により評価する。

【教科書】

平井亮輔編『正義 ： 現代社会の公共哲学を求めて』嵯峨野書院
田中成明，竹下賢，深田三徳，亀本洋，平野仁彦『法思想史（第２版）』有斐閣
深田三徳，濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』ミネルヴァ書房
上記のいずれか１冊をテキストとして購入すること。

【参考文献】

授業の中で，適宜，紹介する。

【備考】

授業進度に合わせてレジュメ・資料を配布する。授業の内容については変更することがあり得る。
テキストについては『正義 ： 現代社会の公共哲学を求めて』『法思想史（第２版）』『よくわかる法哲学・法思想』の内，いずれか１冊を教科書として選ぶこと。詳細は第１回の講義で説明する。
【準備学習の指示】授業の進度にあわせて教科書の指定箇所を予習・復習すること。

科目名　クラス　講義区分	
視聴覚教育　＜秋＞	
冷　水　啓　子	2単位

【講義概要】
・テーマ：視聴覚教育及び視聴覚教育メディアの利用について

・授業の概要：この授業では、「視聴覚教育とメディア」に焦点を絞り、視聴覚教育メディアの発展と特徴、それらを活用した学習支援の方法を検討する。さらに、それらの利用に際する問題点及びその教育的可能性と限界について考察を行う。具体的には、はじめに講義中心の授業を行い、つぎにコンピュータ実習（インターネット利用及びパワーポイントによるプレゼンテーション作品の企画・制作）を行う。

【学習目標】
・授業の到達目標：視聴覚教育及び視聴覚教育メディアについての理解を深めたうえで、視聴覚メディアを活用した教育実践を概観する。さらに、コンピュータ実習やプレゼンテーション作品の制作を通じて、情報を適切に理解し、利用し、産出する能力やスキル（マルチメディア・リテラシー、情報活用能力、情報倫理など）の習得をめざす。

【講義計画】
第1回　授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）
第2回　視聴覚教育及び視聴覚教育メディアとは何か
第3回　活字・印刷物の利用(1)：教科書・絵本・児童書の特徴
第4回　活字・印刷物の利用(2)：マンガの特徴と挿絵の効果
第5回　活字・印刷物の利用(3)：新聞とNIE
第6回　テレビとビデオの利用(1)：その利用形態と社会・教育的影響
第7回　テレビとビデオの利用(2)：幼児教育番組
第8回　テレビとビデオの利用(3)：字幕や手話通訳つき番組と文字情報保障
第9回　コンピュータ・ゲームの利用：子どもの発達と学習への影響
第10回　コンピュータの教育利用と諸問題：光と影
第11回　プレゼンテーション作品の制作(1)：パワーポイントの使い方
第12回　プレゼンテーション作品の制作(2)：企画と資料収集
第13回　プレゼンテーション作品の制作(3)：制作作業
第14回　プレゼンテーション作品の制作(4)：作品の完成
第15回　作品の発表と講評

【成績評価の方法】
主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。授業時に必要に応じてコメント・カードの提出を求める。学期中にレポート課題を与え、学期末には制作したプレゼンテーション作品の提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】
テキストは使わないが、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ、印刷物などを通じて資料を提供する。

【参考文献】
・井上智義（編）『視聴覚メディアと教育方法 Ver. 2』(北大路書房)
・桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』(2010年度版)
・坂元　章『テレビゲームと子どもの心―子どもたちは凶暴化していくのか―』(メタモル出版)
・坂元　昂（監）『メディア心理学入門』(学文社)

【備考】
【準備学習の指示】
共用のネットワークドライブ「″Nile 1″のLesson(S:)」上にある「kshimizu」フォルダー内で公開している教材スライドや授業情報は、授業の前後で必ず確認し、予習・復習や自習のために役立てること。

科目名　クラス　講義区分	
実務英語　01＜春集＞	
三　宅　　亨	4単位

【講義概要】
Globalizationの進む中で外国人とのコミュニケーションがますます必要になってきている。外国人との接触の機会は、かつてのように短期間の訪問者への対応だけでなく、今では同僚・隣人・友人として、あるいは仕事上の付き合いなど、日常的な生活の一部となりつつある。また、出張や旅行などでの短期海外訪問・滞在や転勤などで長期海外生活を送る日本人が珍しくない時代になってきた。
この講義では、海外へ出かけたり、外国人とのビジネス（社交面を含む）を円滑に進めるうえで最小限必要とされる英語(English for Business)の諸相を取り上げる。
毎回多量の英文を素早く読み取る練習、口頭および筆記による課題を与えるので、その覚悟で履修すること。
受講生は積極的にTOEICを受験してもらいたい。

【学習目標】
外国人とのコミュニケーションに最低限必要な英語力（TOEIC 500点程度）の習得を目指す。以下の授業計画に示すように、英語実用文の理解力を要請することを中心にする。

【講義計画】
第1回　講義の概要
英語の基礎学力測定
（第1回目の授業は必ず出席すること）
第2回　人物紹介、自己紹介と自己PR
第3回　パーティの席での英語とマナー
第4回　数字表現と度量衡
第5回　電話のかけ方(1)
第6回　電話のかけ方(2)
第7回　電話のかけ方(3)
第8回　英字新聞の読み方(1)
第9回　英字新聞の読み方(2)
第10回　英字新聞の読み方(3)
第11回　英字新聞の読み方(4)
第12回　看板・掲示文の読み方(1)
第13回　看板・掲示文の読み方(2)
第14回　看板・掲示文の読み方(3)
第15回　復習
第16回　ラベル・注意書・説明書の読み方(1)
第17回　ラベル・注意書・説明書の読み方(2)
第18回　ラベル・注意書・説明書の読み方(3)
第19回　道路標識の見方(1)
第20回　道路標識の見方(2)
第21回　道路標識の見方(3)
第22回　世界の食文化
第23回　メニューの読み方(1)
第24回　メニューの読み方(2)
第25回　レストランでの英語
第26回　ビジネス英語の基礎(1)
第27回　ビジネス英語の基礎(2)
第28回　ビジネス英語の基礎(3)
第29回　英文履歴書の書き方
第30回　復習

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　10%　出席　10%
学期末試験は行わない。毎回の小試験と、出席と授業への参加度により評価する。この講義は社会人になる準備をする実践的内容を扱うので、遅刻・欠席には厳しく対処する。正当な理由なくして6回以上欠席した学生には、それ以降の授業参加を認めない。

【教科書】
教室では、できるだけ最新の教材・内容を取り上げたいので、教科書は使用しない。その都度、プリント(handouts)を配布する。

【参考文献】
授業中に、その都度指示する。

科目名　クラス　講義区分	
実務英語　02＜秋集＞	
三　宅　　　亨	4単位

【講義概要】

この科目は将来英語を使って仕事をしたいと希望する学生を対象とする。

この講義では、従来の貿易通信文という枠を超えて、企業の社交通信文や電子メールなどを含めて、実社会で必要な実用英文を書くことに重点を置く。また、貿易通信文については、貿易実務に必要な基礎的必要知識も同時にあわせて扱う。

毎回相当量の英文を書くことという課題を与えるので、十分な復習と予習をして授業に臨むこと。

受講生は積極的にTOEICの受験をしてもらいたい。

【学習目標】

ビジネスに必要な英文文書の基礎を習得する。併せて、貿易実務の基礎を理解する。

【講義計画】

第1回　講義の概要
　　　　ビジネスレターとは
第2回　ビジネスレターの構成
第3回　ビジネスレターの構成要素(1)
第4回　ビジネスレターの構成要素(2)
第5回　ビジネスレターの構成要素(3)
第6回　社内メモ(1)
第7回　社内メモ(2)
第8回　電子メール
第9回　ビジネス通信文の本文
第10回　社交通信文（～第19回まで）
　　　　面会の申し込み
第11回　ホテルの予約
第12回　礼状
第13回　紹介状
第14回　招待状
第15回　復習
第16回　昇進祝い
第17回　お悔やみ
第18回　人事異動
第19回　会議の招集状
第20回　貿易通信文（～第29回まで）
　　　　取引先の選定
第21回　信用照会
第22回　取引の申し込み
第23回　取引条件協定書の締結
第24回　引き合い
第25回　オファーと契約成立
第26回　売買契約の履行
第27回　信用状
第28回　船積み
第29回　英文履歴書の書き方
第30回　復習

【成績評価の方法】

試験　90%　出席　10%
期末試験は実施しないが、毎回の小テストで評価する。また、正当な理由なしに6回以上欠席した場合、それ以後の出席を認めない。

【教科書】

田中武雄『初めて学ぶビジネス英語』成美堂

【参考文献】

授業中に、その都度指示する。

科目名　クラス　講義区分	
児童英語　＜通期＞	
福　智　佳代子	4単位

【講義概要】

2011年度より全国の小学校で、『義務教育』として英語活動が始まる。本講義では、児童英語教育に効果的な教授法として、チャンツ・TPR・歌・タスクなど児童の特性を活かした活動が、実際どのような形で行われているかをワークショップ形式で体験し、実践に生かしていくことを目指す。

【学習目標】

授業では、

1．発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方を踏まえ
2．「コミュニケーション能力の素地を養う」ための児童英語教育に効果的な指導法とはいかなるものか、
3．幼稚園児・小学生に見合った「言語や文化にふれる活動」を考えた授業創りとはどんなものであるかを、総合的に学習する。

【講義計画】

第1回　ガイダンス、国際理解につながる児童英語教育のあり方
第2回　世界の言語政策事情と日本の小学校英語活動の現状
第3回　年齢と言語習得　『臨界期：子供はことばをどう獲得するか』
第4回　児童期における第2言語教育『イマージョン・プログラムとバイリンガル教育』
第5回　児童の特性を活かした授業法(1)『歌』
第6回　児童の特性を活かした授業法(2)『チャンツ』
第7回　児童の特性を活かした授業法(3)『ライム・マザーグース』
第8回　ワークショップ
第9回　児童の特性を活かした授業法(4)『TPR：Total Physical Response』
第10回　児童の特性を活かした授業法(5)『タスク』
第11回　ワークショップ
第12回　児童が楽しむ英語活動(1)　　『絵本・物語』が育むことばの力
第13回　児童が楽しむ英語活動(2)　　『ゲーム』を活用した授業法の意義と留意点
第14回　児童が楽しむ英語活動(3)『スキット、ロールプレイング、ごっこ遊び』を楽しむ活動
第15回　まとめ プレゼンテーション
第16回　ビデオによる授業観察　授業案作成と授業運営のポイント
第17回　クラスルーム・イングリッシュ　　表現と語彙
第18回　フォニックス　　表現と語彙
第19回　幼稚園児対象授業案作成（1）　　教具作成
第20回　幼稚園児対象授業案作成（2）　　教具作成
第21回　低学年対象授業案作成（1）　　授業案テンプレート
第22回　低学年対象授業案作成（2）　　ワークシート作成
第23回　ワークショップ
第24回　「英語ノート1」を使った高学年対象授業案作成　デジタル教材研究(1)
第25回　「英語ノート1」を使った高学年対象授業案作成　デジタル教材研究(2)
第26回　「英語ノート2」を使った高学年対象授業案作成　ICT教材研究(1)
第27回　「英語ノート2」を使った高学年対象授業案作成　ICT教材研究(2)
第28回　プレゼンテーション　『模擬授業』
第29回　児童英語教育のゴール『年間カリキュラム作成』
第30回　まとめと評価　　『ポートフォリオ』ふりかえりカード

【成績評価の方法】

試験　30%　レポート　40%　出席　30%
模擬授業、プレゼンテーションを試験の代わりとする。

【教科書】

岡秀夫・金森強　共著「小学校英語教育の進め方」成美堂

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
児童サービス論　＜春＞	
清　水　昭　治	2単位

【講義概要】
この科目は、図書館における「児童サービス論」です。図書館、特に、公立図書館では、中学生までのサービスを児童サービスと考えられており、赤ちゃん・幼児向きの絵本から、小学生・中学生向きまでの幅広い本が準備されています。子供達の成長にとって、読書がいかに大切か、その読書を支える児童サービスの重要性を考えます。

【学習目標】
生涯教育が叫ばれる中で、図書館の必要性は、ますます増大します。その時、図書館利用が習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が図書館における児童サービスなのです。その習慣化は、どのようにしたら、可能になるか、それを学びましょう。

【講義計画】
第1回　1．オリエンテーション
第2回　児童・子供のための図書館はどこにある？
第3回　児童・子供のための図書館には何がある？
第4回　児童・子供とは何なのか？
第5回　本を読むということは？
第6回　児童・子供図書館とは？
第7回　児童・子供図書館員とは？
第8回　児童・子供図書館の仕事　1
第9回　児童・子供図書館の仕事　2
第10回　児童・子供図書館の仕事　3
第11回　児童・子供の発達と図書館　1
第12回　児童・子供の発達と図書館　2
第13回　児童・子供の発達と図書館　3
第14回　これからの児童・子供図書館
第15回　試験

【成績評価の方法】
レポート、又は、試験に加えて、出席状況なども重視して、総合的に判断・評価します。

【教科書】
テキストは使用しません。講義と共に、多彩に出版されている子供の本を具体的に、実際に紹介しながら、又、「絵本読み」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義を進めます。

【参考文献】
講義の中で、お知らせします。しかし、もっとも大事な参考文献は、実際の図書館です。特に、皆さんの近くの公立図書館の児童室、児童コーナーを体験しておいてください。

【備考】
準備学習の指示

出来るだけ多くの図書館を体験してください。そして、児童室、児童コーナーを体験し、図書館における児童サービスを体験しておいてください。

科目名　クラス　講義区分	
社会運動論　＜秋集＞	
上　野　淳　子	4単位

【講義概要】
社会運動や市民活動は社会に何をもたらすのか？講義の前半では、社会運動や市民活動団体、NPOなど市民社会を支える様々な組織をとりあげ、組織の発生から展開、終焉までの過程を追いながら、それらの組織を社会学的に分析するための方法を学ぶ。後半では、NPO法の成立と市民参加・協働の制度の広がり、グローバル化が市民社会に与えた影響を検証し、今後の市民社会を展望する。

【学習目標】
社会運動など市民社会を構成する組織を社会学的に理解・分析できるようになることを目指す。まず、基本的な分析概念とアプローチを理解した上で、現代社会において社会運動やNPOが果たす役割を考えていきたい。

【講義計画】
第1回　社会運動と市民社会
第2回　市民社会を支える様々な組織
第3回　人はなぜ運動／活動をするか—不満と集合行動①
第4回　人はなぜ運動／活動をするか—不満と集合行動②
第5回　人はなぜ運動／活動をするか—合理的選択①
第6回　人はなぜ運動／活動をするか—合理的選択②
第7回　どのように組織を維持するか—資源とネットワーク①
第8回　どのように組織を維持するか—資源とネットワーク②
第9回　どのように組織を維持するか—参加とアイデンティティ①
第10回　どのように組織を維持するか—参加とアイデンティティ②
第11回　いつ、どこで活動するか—政治的機会構造①
第12回　いつ、どこで活動するか—政治的機会構造②
第13回　いつ、どこで活動するか—運動が終わるとき
第14回　NPO法成立をめざして
第15回　法人化する組織、しない組織
第16回　社会運動とNPO法人①断絶
第17回　社会運動とNPO法人②継承
第18回　広がる市民参加／協働の制度
第19回　行政との関係①抗議から提案へ
第20回　行政との関係②抗議も提案も
第21回　議会との関係①
第22回　議会との関係②
第23回　グローバル化と環境問題
第24回　グローバル化と経済格差
第25回　グローバル化と反戦運動
第26回　地域住民組織との関係①
第27回　地域住民組織との関係②
第28回　市民が市民を支える
第29回　市民社会の展望

【成績評価の方法】
授業中に提出する課題と最終試験によって評価します。

【教科書】
授業中に適宜、プリントを配布します。

【参考文献】
大畑裕嗣ほか編『社会運動の社会学』有斐閣、2004年.
ニック・クロスリー著『社会運動とは何か』新泉社、2009年.
その他、随時紹介します。

【備考】
【準備学習の指示】
授業中に配布されるプリントをもとに復習してください。疑問点があれば、次回の授業時に提示すること。
・02～10SS生対象
・02～09SS生は読替一覧参照
・10SW生対象

科目名　クラス　講義区分	
社会科学入門　<通期>	
熊　谷　次　郎	4単位

【講義概要】
社会科学とは、厳密には、社会諸科学（social sciences）のことであり、経済学、政治学、社会学、法律学、経営学などがそこには包摂されている。したがって、社会科学とは、社会科学系の大学の諸学部の核をなす学問の総称ともいえる。政治・経済・社会に関する学問知識を横断的にとらえ、社会現象を総合的に理解することをめざすのが社会科学という科目の狙いであり、社会科学が相関社会学（interdisciplinary social sciences）ともいわれる所以である。社会科学という科目が、こうした総合的な営為をめざす分野であるために、非力な一個人としては、これが「社会科学である」というような体系的な講義をすることは至難である。経済学の専門家は経済学に偏った、社会学の専門家は社会学に偏った、政治学の専門家は政治学に偏った「社会科学」講義とならざるをえないだろう。この講義は以下のような計画にそってなされるが、さてどう偏っているか、受講者の判断にゆだねたい。人間、社会、国家、資本主義といったようなテーマを人々はどう解釈し理解しようとしたか。こうした点を経済学、政治学、社会学、哲学等におけるこれまでの歴史的知見をもとに考えたみたい。

【学習目標】
この講義を受講することで直接役に立つという実利はまずないだろう。しかし社会に対する見方や考え方の手がかりとして、教養として、あるいはコミュニケーション能力を構成する一要素として、役立つのではないかと信じている。大学で学んだ者がもっと期待される社会に関する常識を身につけることを学習目標としたい。

【講義計画】
第１回　社会科学と何か――この講義のガイダンスも兼ねて
第２回　社会科学の形成過程（１）ルネサンスと宗教改革
第３回　（２）科学革命と社会科学の形成
第４回　社会科学の方法
第５回　古代ギリシャ哲学の人間観・社会観
第６回　プラトンにおける人間と社会
第７回　アリストテレスにおける人間と社会
第８回　トマス・アクィナス（中世スコラ学者）における人間と社会
第９回　近代における人間観・社会観の諸相（１）労働と人間
第10回　（２）機械と人間
第11回　（３）理性・生得観念と感覚・経験・行動
第12回　（４）プラグマティズム
第13回　（５）功利主義
第14回　（６）遊びと人間
第15回　前期試験
第16回　（７）シンボルと人間
第17回　国家とは何か
第18回　政治の発見――マキアヴェッリ
第19回　社会契約論の諸相（１）ホッブス
第20回　（２）ロック
第21回　（３）ルソー
第22回　階級的国家論
第23回　資本主義とは何か（１）生誕期の資本主義観――敬虔・勤勉・節欲と冒険・欲望・奢侈
第24回　（２）アダム・スミス――利己心・目えざる手・自動調整的市場機構
第25回　（３）マルクス――資本主義の矛盾の解剖
第26回　（４）レーニン――資本主義と帝国主義
第27回　（５）ケインズ――自由放任の終焉と国家の役割
第28回　（６）シュンペーター――起業者による創造的破壊と経済発展
第29回　まとめ
第30回　後期試験

【成績評価の方法】
試験　100％
前期と後期の２回の試験の総合点（平均点）でもって評価。平均60点以上をもって合格とする。

【参考文献】
テーマごとの参考文献をその都度指示する。

【備考】
【準備学習の指示】
毎回の講義の終わりに、次の講義において重要な意味をもつ、語句・キーワード・概念などを下調べしておくように指示する。
【講義資料の配布】
毎回講義内容を書いた資料を配付する予定。この資料だけを取って出て行くというような破廉恥な行為をしない矜持だけはもとう。

科目名　クラス　講義区分	
社会学　01<春集>	
竹　内　真　澄	4単位

【講義概要】
近代社会の構造と進化のあり方を考える。近代社会の類型を考えていくと、人間が個人および集団として尊重されるような社会的条件をしっかりもつ社会をつくったかどうか、人間が自分および自己の所属する集団のために、どの程度闘ったかをめぐる種差が近代社会を分岐させ、日本、アメリカ、ヨーロッパの現代的違いをもたらす。こうした点を考えていく。

【学習目標】
若い人々は、たとえ経験の量が少なくても、そこに含まれている社会の存在に気づくことはできる。自分の外には社会があり、社会は、また、自分の中へ入ってくる。社会と自分との往復をつうじて、社会の行く末が自分の行く末と重なってくることがわかってくれればいいだろう。我々が生きている社会が、どこから来たのか、またどこへ行く可能性があるのか、学習してほしい。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　社会と個人
第３回　近代社会の流動性
第４回　近代社会の神経症
第５回　階級社会と市民社会
第６回　才能は売買される
第７回　学校と社会
第８回　生理学的性差と社会的性差
第９回　近代の二元的構造
第10回　自然法則と社会法則
第11回　中流社会と格差社会
第12回　民間でできることは民間でやったほうがよいか？
第13回　家族の歴史性
第14回　市場の歴史性
第15回　国家の歴史性
第16回　資本主義は放置すると人生を破壊する
第17回　社会問題の歴史的展開
第18回　革命から人権へ
第19回　アメリカ
第20回　なぜアメリカの福祉はだめか
第21回　アメリカという貧困大国
第22回　ヨーロッパ社会をどう見るか
第23回　日米の＜私的豊かさ＞VS北欧の＜公的豊かさ＞
第24回　北欧の男女平等
第25回　戦後日本社会の３つの可能性
第26回　日本の企業中心社会の形成
第27回　日本の新自由主義
第28回　総括

【成績評価の方法】
試験　80％　レポート　20％
試験で８割、レポートが残りの２割とする。ただし、レポートを課さない場合は、試験のみで評価する。

【参考文献】
福沢諭吉『学問のすすめ』岩波文庫
夏目漱石『漱石文明論集』岩波文庫
阿部謹也『日本人の歴史意識』岩波新書
高木八尺他編『人権宣言集』岩波文庫
カール・マルクス『資本論』岩波文庫
T・H・マーシャル『シティズンシップと社会的階級』法律文化社
水田珠枝『女性解放思想の歩み』岩波文庫
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書
竹内章郎『哲学塾　新自由主義の嘘』岩波書店
渡辺雅男『市民社会と福祉国家』昭和堂
竹内真澄『福祉国家と社会権』晃洋書房
後藤道夫他『格差社会とたたかう』青木書店
堤未果『ルポ貧困大国アメリカ』岩波新書
宮島喬『ヨーロッパ市民の誕生』岩波新書

【備考】
予習・復習をすること。社会学は、ともすれば内省優先になりがちな、文学タイプの人には、もっと外を見よと促すが、ぎゃくにうわべしか見ない現世的なタイプには、もっと内部を覗き込めと言うだろう。君がどちらでもでもないタダの人ならば、内外の葛藤を、ともに重視するように進言する。わがなすことは我のみぞ知る。今は、誰にもわかってもらわなくてもよい、でもこれがいいなあと、思えるものを、情報の洪水の中から、できれば参考文献の中から、さがそう。
・SW生は履修不可

科目名　クラス　講義区分	
社会学　02＜春集＞	
宮　本　孝　二	4単位

【講義概要】

社会学は家族から世界社会までの多種多様な社会的な場と、そこに生じるあらゆる問題や現象を対象とする。すでに200年近い歴史を持つ社会学には、これまでの大量な知識が蓄積されており、さらには現在も日々新たな認識が生産され表現され社会学的知識として流通している。それらの大量な情報のなかから、この講義ではまず社会理論と社会システムという大きな枠組みを設定し、次に社会学史に登場する多様な社会理論を社会学者と関連づけつつ順次紹介し、その後に、現代社会の諸相についての社会学的達成点を解説し、現代社会のシステムの全体像を明らかにする。

【学習目標】

この講義は共通教養としての社会学の基礎知識を習得していただくことを目的としているが、同時に社会福祉士・精神保健福祉士資格の取得に必要な社会学科目としても提供される。社会学は家族から国際社会に至る種々の社会生活の場、そこに生じる諸問題、多様な文化現象などを対象としており、社会学を学ぶことによって、知識と視野を広げ多角的な視点を獲得しつつ、問題解決や意味解読の力を身につけることが可能となろう。講義は、社会福祉士・精神保健福祉士資格の国家試験の社会学出題基準に対応して進める。

【講義計画】

第１回　社会理論と社会システム
第２回　社会理論の諸相（１）コントからマルクスまで
第３回　社会理論の諸相（２）テンニースとウェーバー
第４回　社会理論の諸相（３）デュルケムとジンメル
第５回　社会理論の諸相（４）ドイツ社会学の展開
第６回　社会理論の諸相（５）フランス社会学の展開
第７回　社会理論の諸相（６）アメリカ社会学の展開
第８回　社会理論の諸相（７）パーソンズの登場
第９回　社会理論の諸相（８）現代の社会理論
第10回　現代社会の理解（１）文化と規範・法
第11回　現代社会の理解（２）産業・職業・労働
第12回　現代社会の理解（３）階級と階層
第13回　現代社会の理解（４）近代化・産業化・民主化
第14回　現代社会の理解（５）人口構造と人口変動
第15回　現代社会の理解（６）地域社会
第16回　現代社会の理解（７）集団・組織
第17回　現代社会の理解（８）現代社会の諸相
第18回　生活の理解（１）家族
第19回　生活の理解（２）生活（ライフ）の諸相
第20回　人と社会の関係（１）行為・相互行為・関係
第21回　人と社会の関係（２）地位と役割
第22回　人と社会の関係（３）社会関係資本
第23回　人と社会の関係（４）社会的ジレンマ
第24回　社会問題の理解（１）逸脱と病理
第25回　社会問題の理解（２）犯罪と非行
第26回　社会問題の理解（３）差別・貧困・失業
第27回　社会問題の理解（４）自殺と社会的排除
第28回　社会問題の理解（５）公害と環境破壊
第29回　まとめと補足（１）
第30回　まとめと補足（２）

【成績評価の方法】

試験　100％
学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論述問題）の結果によって評価する。

【教科書】

特に使用しない。配布資料によって講義を進める。

【備考】

準備学習の指示：当然ながら予習・復習が不可欠である。社会福祉実習室に完備されている社会福祉士試験の過去の問題集（市販のものもあるが、ネットにも掲載されている場合がある）を予習・復習に活用すれば一層効果的である。
・SW生は02クラスのみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
社会学　03＜秋集＞	
鈴　木　富　久	4単位

【講義概要】

政治や法律は、「社会」から生まれているものであり、「社会」から捉えなければ深くは理解されえない。近-現代社会は、経済の動きに激しく揺さぶられるが、経済といえども「社会」のなかにある。この「社会」とは何か。社会学は、「社会」をどのように捉えるのか。そもそも「社会学」とは何か。なぜ学ぶ必要があるのか。こうした一連の問いに答えるために、第Ⅰ部で社会学の学説の歴史をかんたんに講じた後、第Ⅱ部で現代日本社会の現実を取り上げて、その社会学的な分析や考察を試みる。

【学習目標】

上にのべた「社会」と「社会学」に関する一連の問いに接近し、社会学という学問への関心を喚起して、受講者が今後必要に応じて社会学を自ら学ぶ契機あるいは基礎を得ることを、学習目標とする。

【講義計画】

第１回　序．社会学とは何か
第２回　第Ⅰ部　主な社会学説の流れ
　　　　§１．学説史の諸潮流
第３回　§２．コントとマルクス
第４回　§３．デュルケムとウェーバー
第５回　§４．パーソンズとルーマン
第６回　§５．ハバーマスとグラムシ
第７回　第Ⅰ部のまとめ
第８回　第Ⅱ部　日本社会の現状と問題
　　　　§１．社会の量と質
第９回　§２．労働①日本的労使関係の激変と持続
第10回　労働②雇用問題の深刻化
第11回　労働③非正規労働者の増大
第12回　労働④職場の変貌
第13回　労働⑤労働組合運動の現状
第14回　§３．家族①日本の性・家族の歴史と現在
第15回　家族②少子化と晩婚化
第16回　家族③海外の少子化対策
第17回　家族④家庭内暴力（DV）
第18回　§４．社会保障①福祉国家の概念と３類型
第19回　社会保障②社会保険
第20回　社会保障③公的扶助
第21回　社会保障④社会福祉（対人サービス）
第22回　社会保障⑤権利と負担
第23回　§５．教育①日本の学校教育の歴史と現在
第24回　教育②生徒の世界
第25回　教育③教師の世界
第26回　§６．日本社会①戦前と戦後、鳩山政権登場の意味
第27回　日本社会②「企業社会」から「格差社会」へ
第28回　日本社会③平和・市民運動の展開
第29回　第Ⅱ部のまとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】

試験の成績による。
あらかじめ警告しておきたいことは、やむを得ない場合を除いて常時出席することが、本講義の場合、その内容理解のためには必要であることである。

【参考文献】

講義中にレジメあるいは口頭で紹介する。

【備考】

テキストは使用しないが、講義でレジメや資料を配布する。
【準備学習の指示】
毎回、事前にレジメを一読しておくこと。
・SW生は履修不可

科目名　クラス　講義区分	
社会学　04<秋集>	
石　田　あゆう	4単位

【講義概要】
講義前半では、社会学という学問についての基礎的な知識（専門用語や代表的社会学者たち）や、その学問誕生から発展にいたる歴史的経緯について講義を行い、社会学的思考力を養う。
　講義後半では、具体的に「日本における通信教育」をテーマとして設定し、その歴史的展開過程を紹介するが、一見特殊なこの教育形態が社会（主に日本）に与えた影響について、社会学的分析枠組みを使って理解することを試みる。

【学習目標】
社会学という学問で形成されてきた「世の中の見方」を学習し、身近な人間関係をはじめ、普段はあまり意識されない日常生活のなかの社会文化現象を、「私」（＝個人）と社会との関わりあいのなかで理解できるようになることを目標とする。
　自分なりに世の中や社会について思考できる力を養い、「社会」とは何か、どういったメカニズムに支えられているのかを積極的に＜疑問に思うこと、不思議に思うこと＞ができるようになってもらいたい。

【講義計画】
第１回　「社会学」を学ぶこと
第２回　「個人」と「社会」の関係について
第３回　集団で暮らす
第４回　社会のルールの考え方
第５回　自殺は「異常」な社会現象か
第６回　犯罪は「異常」な社会現象か
第７回　社会学的思考
第８回　社会学の歴史概略
第９回　社会学の発展
第10回　近代の集団・組織
第11回　近代社会の問題点
第12回　「流行」とは何か
第13回　「流行」のメカニズム
第14回　日常生活と社会
第15回　社会学
第16回　通信教育からみる日本社会
第17回　明治期の立身出世と講義録
第18回　明治期通信教育の社会的機能
第19回　ジェンダーからみた社会通信教育
第20回　敗戦後の民主化政策と家政教育
第21回　教育メディアとしてのラジオ・テレビ
第22回　勤労青年たちを救う通信教育
第23回　通信教育の宗教的救済機能
第24回　資格取得を目指す通信教育のゆくえ
第25回　戦後大衆社会における受験教育と通信
第26回　市場における通信教育のこれから
第27回　英国のオープン大学の歴史と伝統
第28回　米国のホーム・スクールとヴァーチャル・スクール
第29回　eラーニングの登場とその可能性
第30回　社会学で考える通信教育論

【成績評価の方法】
試験　95%　出席　５%
学期末試験以外に中間試験を行う。

【教科書】
佐藤卓己・井上義和編 ラーニング・アロン：通信教育のメディア学 新曜社

【備考】
・SW生は履修不可

科目名　クラス　講義区分	
社会学基礎講義　01<春集>	
木　島　由　晶	4単位

【講義概要】
大きく３つの手順をふむ。まず、人間を社会的存在としてとらえるという社会学の基本的な観点について説明しながら、「文化」や「集団」や「制度」と人間との深いかかわりについて考える。つぎに、現代の社会学の基礎を築いた二人の偉大な社会学者、E.デュルケームとM.ヴェーバーの考え方を主としてとりあげ、彼らの理論的遺産との関連で、フロムやマートンらの考えにもふれる。最後に、ゴフマンやアリエス、ブルデューらの考えを紹介しながら、都市・家族・犯罪と非行など、私たちの社会生活のいくつかの重要な側面について考える。

【学習目標】
目標は、各自が社会学の根本的発想に親しみ、かつ、それをみずからの生活に引きつけて考えることである。そこで各テーマを２回に分け、前半（表）をオーソドックスな社会学知識の習得に、後半（裏）を具体的な事例への適用に充てた。学びはそれ自体が快楽である。劇作家の野田秀樹によれば、面白がり、面白がらせるという「がりがらせる心」がなければ、どんな舞台も響いてこない。講義もひとつの舞台であり、あるいはライブ会場である。放電したいので、感電してほしい。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　１回の表：鏡に映る自己
第３回　１回の裏：「男らしさ」とヴィジュアル系
第４回　２回の表：準拠集団とモデル＝ライバル
第５回　２回の裏：ジャニーズ・ファンの自発的集団
第６回　３回の表：文化と価値
第７回　３回の裏：年中行事化するロック・フェス
第８回　４回の表：システムと生活世界
第９回　４回の裏：テクノポップの哀しみ
第10回　５回の表：集合意識とアノミー
第11回　５回の裏：「リア充」と希望の格差
第12回　６回の表：世俗内的禁欲
第13回　６回の裏：ヒップホップの正統性
第14回　７回の表：自由からの逃走
第15回　７回の裏：コンサートにおけるノリの学習
第16回　８回の表：潜在的機能と予言の自己実現
第17回　８回の裏：「それでも宇宙人はいる」
第18回　９回の表：印象操作と相互作用儀礼
第19回　９回の裏：ホストクラブのジェンダー・ディスプレイ
第20回　10回の表：核家族化と「子供の誕生」
第21回　10回の裏：愛の成就とコンフルエント・ラブ
第22回　11回の表：ストレンジャー・インタラクション
第23回　11回の裏：都市生活の見えない規範をめぐって
第24回　12回の表：階層移動と学歴
第25回　12回の裏：ワーキングクラス・ヒーローへの道
第26回　13回の表：逸脱と社会変動
第27回　13回の裏：オタクと多元的現実
第28回　クロージング：あらためて、社会学とは何ぞや？

【成績評価の方法】
試験　44%　レポート　56%
詳細は初回の授業時にアナウンスする。

【教科書】
教科書の代わりに、毎回プリントを配布する。なお、原則としてプリントは再配布しない。

【参考文献】
講義中に適宜指示する。

【備考】
【準備学習の指示】
詳細は講義中に指示するが、社会学への理解を深めるための予習・復習に努めること。

科目名　クラス　講義区分	
社会学基礎講義　02<春集>	
北　川　紀　男	4単位

【講義概要】

この科目は、これから社会学を学ぼうとする学生を対象にした講義である。社会学とは、何を、どのように研究する学問なのかをできるだけ平易に話すつもりである。我々が生活している社会の中に、社会学的にみて如何に興味ある課題が隠されているかを具体的な問題を取り上げて考察し、社会学に対する関心を啓発したい。社会学にはどのような研究領域があり、どのような問題を扱っているのか、またその研究方法にはどのようなものがあるのかについて解説する。

【学習目標】

先ず社会学が提唱された社会的背景とその問題意識を理解して、社会学の学問的特徴を学び取って欲しい。このことは諸君が社会学を学ぶ態度を決定づける重要な課題である。また、社会学にはどのような研究領域があり、どのような研究事例があるのか、さらにその研究方法、基礎概念、専門用語などこの学問を学ぶための基礎知識の習得が必要不可欠である。

「基礎講義」という科目名称からも明らかなように、この講義は４年間の学部教育を左右する重要なものであるから、心して真剣に受講して欲しい。

【講義計画】

第１回　(１)イントロダクション
第２回　(２)社会学の成立
第３回　(３)<社会学の方法>　社会学とは如何なる学問なのか
第４回　(４)<社会学の方法>　現代社会をキャッチする
第５回　(５)<弧人化する社会と親密性の罠>　氾濫する親密性
第６回　(６)<弧人化する社会と親密性の罠>　親密性の本性、そしてその行くへは？
第７回　(７)<学校から職業へ>　生き方のイメージ
第８回　(８)<学校から職業へ>　大衆教育社会と自己実現
第９回　(９)<非行文化を喪失した少年犯罪>　脱集団化する少年犯罪
第10回　(10)<非行文化を喪失した少年犯罪>　脆弱化する自己肯定感
第11回　(11)<地域社会の崩壊と再生の模索>　岐路に立つ地域社会
第12回　(12)<地域社会の崩壊と再生の模索>　地域社会の社会学的分析
第13回　(13)<豊かな社会の格差と不平等>　総中流社会から格差・不平等社会へ
第14回　(14)<豊かな社会の格差と不平等>　現代の社会階層
第15回　(15)<社会変動と文化現象>　みんなが軽くなった
第16回　(16)<社会変動と文化現象>　出版動向の変容とその問題点
第17回　(17)<ジェンダー・フリーの行方>　ジェンダー視点で近現代日本社会をみる
第18回　(18)<ジェンダー・フリーの行方>　ジェンダー・フリーの行方
第19回　(19)<ネオリベラリズムと福祉国家>　ネオリベラリズムの台頭と福祉国家
第20回　(20)<ネオリベラリズムと福祉国家>　21世紀の福祉レジーム
第21回　(21)<リスク社会の克服>　リスク化する社会
第22回　(22)<リスク社会の克服>　社会学はリスク社会をどう見ているか
第23回　(23)<21世紀社会と人類の幸福>　人類の不幸としての「圧倒的な非対称性」
第24回　(24)<21世紀社会と人類の幸福>　グローバル化の悪夢
第25回　(25)<グローバル化と文明の共生>　グローバル化の功罪
第26回　(26)<グローバル化と文明の共生>　文明の共生のために
第27回　(27)<補足的解説>　基礎用語、基礎概念、基礎文献
第28回　(28)まとめ

【成績評価の方法】

学期末試験を中心に評価するが、学習状況をみてリポートを課して加味することもある。また、基礎的な重要科目であり、出席状況も加味する。

【教科書】

友枝敏雄・山田真茂留(編) Do！　ソシオロジー　～現代日本を社会学で診る～ 有斐閣

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

【備考】

【準備学習の指示】

次回の講義内容を予告し、少なくとも事前にテキストの関連箇所に目を通しておかせる。また、授業中に紹介する参考文献や資料について、学期中に複数回のリポートを提出させる。学部にとって基礎的な重要科目であり、出席状況を厳しく管理したい。

科目名　クラス　講義区分	
社会学基礎講義　03<春集> 社会学基礎講義　06<秋集>	
鈴　木　富　久	4単位

【講義概要】

社会学の問題は、各人の生活の中にすでにある。このことが分かると、その分各人の生活観が拡がり、自己の生活、他者とのつながりがより重要な意味を持つようになる。本講は、このことを原点にして、社会学部の専門教育への最初の導入として、社会学の勉学に最小限必要と思われる知識を教授する。
下記の「計画」にあるように、２部構成をとり、理論的･概念的な事柄からはじめて、現代日本社会に関する実際的な諸問題の認識へと進むことにする。

【学習目標】

社会学の理論・概念を習得することが重要であることを理解するとともに、現実社会の諸事象への生きた関心を喚起すること、この両面を学習目標とする。

【講義計画】

第１回　序．社会学とは何か
第２回　Ⅰ．社会学の基礎概念
　　　§１．社会と世間
第３回　§２．組織と集団①
第４回　　　組織と集団②
第５回　§３．文化と社会規範
第６回　§４．社会化①
第７回　　　社会化②
第８回　第Ⅰ部のまとめ
第９回　Ⅱ．日本社会の現状と問題
　　　§１．社会の量と質
第10回　§２．労働①日本的労使関係の激変と持続
第11回　　　労働②雇用問題の深刻化
第12回　　　労働③非正規労働者の増大
第13回　　　労働④職場の変貌
第14回　　　労働⑤労働組合運動の現状
第15回　§３．家族①日本の性・家族の歴史と現在
第16回　　　家族②少子化と晩婚化
第17回　　　家族③海外の少子化対策
第18回　　　家族④家庭内暴力（DV）
第19回　§４．社会保障①福祉国家の概念と３類型
第20回　　　社会保障②社会保険
第21回　　　社会保障③公的扶助
第22回　　　社会保障④社会福祉（対人サービス）
第23回　　　社会保障⑤権利と負担
第24回　§５．教育①日本の学校教育の歴史と現在
第25回　　　教育②生徒の世界
第26回　　　教育③教師の世界
第27回　§６．日本社会①戦前と戦後、鳩山政権登場の意味
第28回　　　日本社会②「企業社会」から「格差社会」へ
第29回　　　日本社会③平和・市民運動の展開　／第Ⅱ部のまとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】

試験の成績を基本とし、出席点を加味する。
必修科目であるため、講義では毎回出欠確認をする。やむを得ない場合を除いて毎回出席すること。

【参考文献】

講義中にレジメあるいは口頭で紹介する。
各人が、社会学中辞典を購入することは、専門の勉学では必須である。

【備考】

講義では、講義内容および関係資料等のプリントを配布する。
【準備学習の指示】
毎回、事前にレジメを一読しておくこと。
高校教科書ないし同程度の世界史と日本史の近現代部分を履修前に読んでおくことが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
社会学基礎講義　04＜春集＞	
竹　内　真　澄	4単位

【講義概要】
社会学の視点や基礎概念を使って、近・現代社会の仕組み、成り立ちやその変化を考える。それとともに人間的な現象の歴史性、多様性、面白さについて皆さんと一緒に考えていきたい。

【学習目標】
いままで見えなかったところが見えるようになったり、いままで無問題としか見えなかった事柄が実は重大な問題をはらんでいると思えるようになったり、驚嘆できたり、それまでは気付くことのなかった価値や反価値に自己をむすびつけることができるようになること、つまりは社会学的理解力、説明力、分析力、診断力を身につけていくことを目標にする。

【講義計画】
第１回　社会学基礎講義序論
第２回　社会のなかの個人、個人のなかの社会
第３回　福沢諭吉と近代社会
第４回　夏目漱石と近代社会
第５回　階級と市民
第６回　労働力の商品化
第７回　学校の二つの機能
第８回　＜男性・女性＞と社会
第９回　＜社会と国家＞という近代の構造
第10回　社会に法則はあるか
第11回　中流社会と格差社会
第12回　医療の市場化をどう考えるか
第13回　家族を考える
第14回　市場を考える
第15回　国家を考える
第16回　資本主義と社会問題
第17回　社会問題の歴史的展開と環境問題
第18回　人権の拡張と資本主義社会の発展
第19回　アメリカをどう見るか
第20回　＜いやいやながらの福祉国家＞アメリカ
第21回　アメリカ＜帝国＞の貧困
第22回　ヨーロッパをどう見るか
第23回　北欧的豊かさの歴史的形成
第24回　北欧福祉国家と男女平等
第25回　戦後日本社会の３つの可能性
第26回　日本の企業中心社会の形成
第27回　日本の新自由主義
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　10%　出席　20%
試験で７割、レポートで１割、残り出席を２割とする。

【参考文献】
福沢諭吉『学問のすゝめ』岩波文庫
夏目漱石『漱石文明論集』岩波文庫
阿部謹也『日本人の歴史意識』岩波新書
高木八尺他編『人権宣言集』岩波文庫
カール・マルクス『資本論』岩波文庫
T・H・マーシャル『シティズンシップと社会的階級』法律文化社
水田珠枝『女性解放思想の歩み』岩波文庫
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書
竹内章郎『哲学塾　新自由主義の嘘』岩波書店
渡辺雅男『市民社会と福祉国家』昭和堂
竹内真澄『福祉国家と社会権』晃洋書房
後藤道夫他『格差社会とたたかう』青木書店
堤未果『ルポ貧困大国アメリカ』岩波新書
宮島喬『ヨーロッパ市民の誕生』岩波新書

【備考】
予習、復習をすること。近くの同世代から学ぶことは非常に大切だ。同時に、遠くの人や昔の人（教師では必ずしもないが）を、「あたかも近しい同世代の者」であるかのように親密に感じ、畏怖し、尊重することができるようなら、そのときにこそ、自分の世界ができてくる。遠くの、過去の者を大切に思える人は、近くの現在の人を、素晴らしい者として発見できる。その手ごたえを、大学の最初の年に持てれば、学ぶことはとても楽しくなる。

科目名　クラス　講義区分	
社会学基礎講義　05＜春集＞	
上　野　淳　子	4単位

【講義概要】
私たちの社会はどのような仕組みで成り立ち、社会学はそれをどのように分析することができるのか？この講義では、社会学の視点と方法を用いて、現代の日本社会において①人々を「つなぐ」仕組みと②つながりを維持する仕組みを捉えていく。さらに、グローバル化や格差拡大など現代日本を特徴づける現象をとりあげ、現代社会の変化の方向を考える。

【学習目標】
社会学の用語や概念など基本的な知識を習得すること、また、社会学の考え方を身につけ、自分の経験や身近に起こる出来事を社会との関わりのなかで理解できるようになることを目指す。

【講義計画】
第１回　はじめに—社会学とは？
第２回　「社会」の発見
第３回　相互行為①私とあなた
第４回　相互行為②「私」って何？
第５回　組織とネットワーク①群衆、集団、組織
第６回　組織とネットワーク②ネットワーク
第７回　メディアとコミュニケーション①
第８回　メディアとコミュニケーション②
第９回　規範と制度①ジェンダー
第10回　規範と制度②家族
第11回　規範と制度③規範から制度へ
第12回　社会秩序①秩序の生成
第13回　社会秩序②権力と紛争
第14回　イデオロギー
第15回　文化と再生産①
第16回　文化と再生産②
第17回　中間まとめ
第18回　近代化と都市化①
第19回　近代化と都市化②
第20回　格差と階層化①
第21回　格差と階層化②
第22回　グローバル化①
第23回　グローバル化②
第24回　縮小する社会①限界集落
第25回　縮小する社会②郊外の衰退
第26回　縮小する社会③都市の縮小
第27回　社会運動と社会構想
第28回　全体のまとめ

【成績評価の方法】
授業中に提出する課題（45%）と最終試験（55%）によって評価する。

【教科書】
授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献】
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志, 2007年,『社会学』有斐閣

【備考】
【準備学習の指示】
授業中に配布されるプリントをもとに復習する。疑問点があれば、次回の授業時に示すこと。

科目名　クラス　講義区分	
社会学原論　<秋集>	
宮　本　孝　二	4単位

【講義概要】

社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性とは何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析、社会学史に登場する多様な社会理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。

また、社会を一般的な理論として解明することは、社会を全体的な視点から把握することに接続していかざるをえない。すなわち、マクロな変動論を媒介にして、社会学原論と現代社会論（近代化というマクロなトレンドのなかで各時点において社会を全体的に把握することをめざすという意味での）とが、統一的に把握されることになるのである。したがって、近代化に含まれる諸トレンドや現代社会の全体的構成についても解説する。

【学習目標】

社会学は専門分化が高度化し、個別の分野では大量の知識が生産されているが、それを学ぶだけでは、個別具体的な知識を超えた一般化する力や、部分的な特殊な知識を全体的な視野でまとめあげたり適切に位置づけたりする力は修得困難である。この講義の学習目標は、個別具体的な部分的な特殊な現象を超えて、あらゆる現象に見出せる一般的な概念とその体系、そしてあらゆる現象を包括している全体的な視点について学ぶことによって、まさに一般化する力と全体化する力を獲得するところにある。

【講義計画】

第１回　社会学原論とは何か：社会理論の全体像
第２回　人間の特性（１）意味づけ
第３回　人間の特性（２）資源動員
第４回　社会の形成（１）動物的群れから人間社会へ
第５回　社会の形成（２）国家の形成、伝統的国家、近代化
第６回　社会理論における相互行為論の位置
第７回　コミュニケーションの社会理論（１）
第８回　コミュニケーションの社会理論（２）
第９回　サンクションの社会理論（１）
第10回　サンクションの社会理論（２）
第11回　エクスチェンジの社会理論（１）
第12回　エクスチェンジの社会理論（２）
第13回　コンフリクトの社会理論（１）
第14回　コンフリクトの社会理論（２）
第15回　構造という視点
第16回　構造主義とポスト構造主義
第17回　国民国家の構造とエリート論
第18回　階級・階層構造と変動
第19回　場と全体
第20回　近代化と現代社会論
第21回　戦後日本社会と現代社会論
第22回　1970年代以降の世界（１）
第23回　1970年代以降の世界（２）
第24回　近代の社会理論家たち（１）
第25回　近代の社会理論家たち（２）
第26回　現代の社会理論家たち（１）
第27回　現代の社会理論家たち（２）
第28回　まとめと補足（１）
第29回　まとめと補足（２）
第30回　試験

【成績評価の方法】

試験　100％　レポート　０％　出席　０％
学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論論述問題）の結果によって評価する。

【教科書】

宮本孝二 社会理論25講 八千代出版

【参考文献】

その都度指定する

【備考】

準備学習の指示：当然ながら予習・復習が不可欠。授業計画に記載した教科書の該当箇所（25講分を教科書には記載）を予習で一読、講義を聴講した後、復習で一読すれば一層効果的である。

科目名　クラス　講義区分	
社会学史　<秋集>	
竹　内　真　澄	4単位

【講義概要】

社会学の歴史を扱う。社会学は、社会の総体を<市民社会>に焦点を当てて分析する学問である。社会学は、19世紀の中ごろに、18世紀思想が直面したのとは違った社会的現実に直面し、これを自覚することから生まれ、広がった。社会学は、それ以来、世界資本主義の先端部分の新しい社会問題に対処するために次々にかたちを変えていった。社会学という学問が、①古典的市民社会、②自由放任的資本主義、③国家介入的資本主義、そして④多国籍企業的資本主義の各段階に対応して、何を問題として提出しながら、現代へ到達したかを検討する。

【学習目標】

一般的に言えば、人間の抱く観念は彼／彼女を取り巻く社会状況の変化に従って変貌する。このことは、当然、社会学者たちについても、同様に妥当する。近代社会の発展の諸段階に応じて、社会学者の抱く学説が変貌していく軌跡を理解することが学習目標となる。社会学者たちの観念の変遷は、けっきょく、普通の市民たちの意識の変化を濃縮し、反映し、またそこへ作用する。受講生は、自己の意識の内部にある錯綜と変化を、学者たちの攻防の中に再確認していただきたい。

【講義計画】

第１回　社会学史の課題と方法・・・世界資本主義とのかかわりで
第２回　古典近代の社会認識の三つの立場・・・スミス・ルソー・カント
第３回　カントの<自立した個人>概念
第４回　自己調整的な<市民社会>の発見・・・社会科学への道を切り開いたスミス
第５回　Ａ・コントの社会学の基本構造・・・支配思想の革新
第６回　自由放任的資本主義の擁護・・・ネオ・リベラリズムの先駆者Ｈ・スペンサー
第７回　国家介入的資本主義の到来とスペンサーの社会学
第８回　近代ブルジョア社会止揚の論理・・Ｋ・マルクスの社会理論①
第９回　資本主義と<労働力の商品化>・・・マルクスの社会理論②
第10回　未来社会と<個体的所有の再建>・・・マルクスの社会理論③
第11回　福沢諭吉と日本近代化
第12回　日本近代における３回の<社会>の発見
第13回　Ｌ・Ｔ・ホブハウスと<社会的自由主義>の社会学
第14回　生存競争から市民的生存へ・・・Ｌ・Ｔ・ホブハウスの社会学
第15回　Ｅ．デュルケムの社会学の基本構想　<社会>による経済の制御
第16回　<交換者>から<結社的人間>へ・・・デュルケム社会学と中間集団論
第17回　デュルケムにおける福祉国家と帝国主義
第18回　Ｍ・ウェーバーの社会学と３つの現代社会像
第19回　Ｍ・ウェーバーの理解社会学と国家介入的資本主義との対峙
第20回　福祉国家とＭ・ウェーバー
第21回　戦中と戦後における「市民社会」概念の転回・・・丸山眞男と大塚久雄
第22回　シティズンシップと福祉国家・・・Ｔ・Ｈ・マーシャル
第23回　公共圏と福祉国家・・・Ｊ・ハーバーマスの社会学的課題設定
第24回　コミュニケーション的行為論と福祉国家のゆくえ・・・ハーバーマスの現代像
第25回　福祉国家と脱商品化・・・Ｇ・エスピン＝アンデルセン
第26回　南北問題と近代世界システム・・・Ｉ・ウォーラーステイン
第27回　ネオ・リベラリズムの社会学・・・Ｎ・ルーマンと世界資本主義の再編成
第28回　現代社会学の展望・・・Ｎ・ルーマンからＪ・ガルトゥングへ
第29回　まとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】

試験　90％　レポート　10％

試験９割、レポートを１割とする。ただし、レポートを課さない場合は、すべて試験で決める。

【参考文献】

T・パーソンズ『社会的行為の構造』木鐸社
J・ハーバーマス『コミュニケイション的行為の理論』未来社
内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書
アクセル・ホネット、竹内他訳『正義の他者』法政大学出版局
ハワード・ジン、竹内訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房
J・J・ルソー『人間不平等起源論』岩波文庫
J・J・ルソー『社会契約論』岩波文庫
A・スミス『道徳感情の理論』岩波文庫
A・スミス『国富論』岩波文庫
I・カント『啓蒙とは何か』岩波文庫
I・カント『人倫の形而上学』岩波書店
I・カント『永遠平和のために』岩波文庫
A・コント『社会再組織の科学的基礎』岩波文庫
『世界の名著　コント　スペンサー』中央公論新社
マルクス『ユダヤ人問題によせて』、『経済学批判』岩波文庫
マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫
マルクス／エンゲルス『ドイツ・イデオロギー』岩波文庫
マルクス『資本論』岩波文庫
福沢諭吉『学問のすゝめ』岩波文庫
福沢諭吉『文明論之概略』岩波文庫
吉野作造『吉野作造評論集』岩波文庫
長谷川如是閑『長谷川如是閑評論集』岩波文庫
高田保馬『社会と国家』岩波書店
E・デュルケム『社会分業論』青木書店
E・デュルケム『自殺論』中公文庫
M・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の＜精神＞』岩波文庫
M・ウェーバー『理解社会学のカテゴリー』岩波文庫
M・ウェーバー『社会学の根本概念』岩波文庫
M・ウェーバー『法社会学』創文社
丸山真男『現代政治の思想と行動』未来社
丸山真男『戦中と戦後の間』みすず書房
大塚久雄『近代化の人間的基礎』筑摩書房
T・H・マーシャル『シティズンシップと社会的階級』法律文化社
J・ハーバーマス『公共性の構造転換』未来社
G・エスピン=アンデルセン『福祉資本主義の３つの世界』ミネルヴァ書房
I・ウォーラーステイン『史的システムとしての資本主義』岩波書店
N・ルーマン『法社会学』岩波書店
N・ルーマン『福祉国家における政治理論』勁草書房
J・ガルトゥング『構造的暴力と平和』中央大学出版部

【備考】

予習復習をすること。ついこのまえ、海のかなたから、一通の手紙をもらった。外国の大学院へ、30代半ばになって挑戦する、かつての教え子からだった。かれは、大学時代に読んだ古典をふたたび読んで、心を養っていると書いてきた。彼と古典のことを語り合ったことはなかった。読んでいたんだなあと、感心した。いま、実在の社会そのものが本格的に混乱している。こういうときには、古典に帰る必要がある。それが社会の混沌から自我を守る人間防衛の唯一の戦略だから。古典を一行でも多く読もう。

科目名　クラス　講義区分	
社会学特講－JAPANESE FILM 1　＜春＞	
Raoul　Cervantes	２単位

【講義概要】

This course will explore contemporary Japanese culture through the eyes of Japanese film. During the spring semester the films will focus on Japanese society and outsiders in film. Cultural practices and society norms will be examined as they are represented by the characters and stories in Japanese films. All films are in Japanese with English subtitles. All lectures and work will be in English.

【学習目標】

The goals of the course are to (1) understand the underlying concepts expressed in the films and (2) discover social trends in Japan today.

【講義計画】

第１回　Introduction
第２回　Japanese youth as outsiders
第３回　Japanese youth as outsiders
第４回　Japanese youth as outsiders
第５回　Japanese youth as outsiders
第６回　Men as outsiders
第７回　Men as outsiders
第８回　Men as outsiders
第９回　Men as outsiders
第10回　Women as outsiders
第11回　Women as outsiders
第12回　Women as outsiders
第13回　Women as outsiders
第14回　Women as outsiders
第15回　Women as outsiders

【成績評価の方法】

試験　40%　出席　60%

【備考】

Preparation for classes － Students should be prepared to participate in English discussions and write reports in English. Also, students should be prepared to attend every class.
・英語による講義

科目名　クラス　講義区分	
社会学特講－JAPANESE FILM 2　＜秋＞	
Raoul　Cervantes	2単位

【講義概要】
This course will explore contemporary Japanese culture through the eyes of Japanese film. During the spring semester the films will focus on Japanese society and personal relationships in film. Cultural practices and society norms will be examined as they are represented by the characters and stories in Japanese films. All films are in Japanese with English subtitles. All lectures and work will be in English.

【学習目標】
The goals of the course are to (1) understand the underlying concepts expressed in the films and (2) discover social trends in Japan today.

【講義計画】
第１回　Introduction
第２回　Japanese families
第３回　Japanese families
第４回　Japanese families
第５回　Japanese families
第６回　Friendships in Japan
第７回　Friendships in Japan
第８回　Friendships in Japan
第９回　Friendships in Japan
第10回　Love and romance in Japan
第11回　Love and romance in Japan
第12回　Love and romance in Japan
第13回　Love and romance in Japan
第14回　Society and the individual
第15回　Society and the individual

【成績評価の方法】
試験　40％　出席　60％

【備考】
Preparation for classes - Students should be prepared to participate in English discussions and write reports in English. Also, students should be prepared to attend every class.
・英語による講義

科目名　クラス　講義区分	
社会学特講－格差社会を理論的に読み解く　＜春＞	
藤　田　　悟	2単位

【講義概要】
近年、日本において格差社会化が急激に進行しつつある。特に2008年の後半から、論壇だけでなくマスコミ報道などでも大きな話題となった。この講義では、格差社会の実態と格差社会化を推し進める論理を学ぶとともに、格差社会に抗する思想・論理を皆と探っていきたい。

【学習目標】
「格差」とは何だろうか。「貧困」とは何だろうか。こうした基本的な（根本的な）問いに正面から向き合えるようになってほしい。また、「格差社会」について、その歴史的な背景も含めて「理論的に読み解く」視点を獲得してもらえればありがたいと思う。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　格差社会の現状
第３回　格差とは何だろうかⅠ
第４回　格差とは何だろうかⅡ
第５回　貧困とは何だろうかⅠ
第６回　貧困とは何だろうかⅡ
第７回　現代日本における貧困Ⅰ
第８回　現代日本における貧困Ⅱ
第９回　現代日本における貧困Ⅲ
第10回　格差社会のイデオロギーⅠ
第11回　格差社会のイデオロギーⅡ
第12回　格差社会を克服する思想Ⅰ
第13回　格差社会を克服する思想Ⅱ
第14回　まとめ――格差社会を越える道

【成績評価の方法】
基本的にレポートで評価する。出席はとらない。
ただし、毎回提出してもらうコミュニケーションペーパーの内容を、成績に加味する。

【教科書】
講義中にレジュメ・資料を配布する。

【参考文献】
後藤道夫他『格差社会とたたかう――〈努力・チャンス・自立〉論批判』青木書店、2007年。
湯浅誠『反貧困――「すべり台社会」からの脱出』岩波新書、2008年。

科目名　クラス　講義区分	
社会学特講－釜ヶ崎と人権　＜秋＞	
原　口　　剛	２単位

【講義概要】
釜ヶ崎とは、日本最大の「寄せ場」、すなわち日雇労働者の集住地域である。釜ヶ崎の日雇労働者は、建設業など日本の基幹産業に携わってきたが、その労働や生活は、さまざまな面で差別され、人権を奪われてきた。本講義では、さまざまな視点から釜ヶ崎を捉え、考えていく。
　講義のテーマは、以下のとおりである。
①「釜ヶ崎労働者の労働と生活」では、釜ヶ崎において日雇労働者がどのような労働にたずさわり、またどのような日常生活を営んでいるのかを考える。
②「釜ヶ崎の歴史」では、近現代の釜ヶ崎の歴史を紐解きながら、なぜ釜ヶ崎という場所に簡易宿所（どや）が立地するようになったのか、なぜ釜ヶ崎が単身男性日雇労働者のまちになったのか、といったテーマについて学ぶ。
③「釜ヶ崎・野宿の現在」では、1990年代から現在まで、釜ヶ崎がどのように変ったのか（変えられたのか）、そして野宿生活者に対してどのような政策がとり行われているのか、といったテーマについて学ぶ。
④「ホームレスとは誰か」では、①～③で学んだことを踏まえて、「フリーター」「ネットカフェ難民」「ワーキングプア」など、近年社会問題として注目されつつある新たな貧困をどのように捉え、向き合うことができるのかを考える。
⑤最後に講義全体のまとめとして、釜ヶ崎の視点から日本の経済・社会システムの問題点を捉えなおし、社会的排除を食い止めるための道筋を考えていきたい。

【学習目標】
本講義では、さまざまな視点から釜ヶ崎を考えることをつうじて、釜ヶ崎についての正しい知識を習得すると同時に、わたしたちはどのような社会を生きているのかという問いを、受講生ひとりひとりの課題として考えてもらいたい。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　釜ヶ崎労働者の労働と生活①
第３回　釜ヶ崎労働者の労働と生活②
第４回　釜ヶ崎の歴史①：木賃宿街の成立
第５回　釜ヶ崎の歴史②：高度経済成長と釜ヶ崎
第６回　釜ヶ崎の歴史③：万博と釜ヶ崎
第７回　釜ヶ崎・野宿の現在①：労働市場からの排除
第８回　釜ヶ崎・野宿の現在②：自立支援施策の展開と問題点
第９回　釜ヶ崎・野宿の現在③：イベントと野宿者排除
第10回　釜ヶ崎・野宿の現在④：まちづくりと社会的包摂
第11回　ホームレスとは誰か①：フリーターを考える
第12回　ホームレスとは誰か②：ネットカフェ難民を考える
第13回　ホームレスとは誰か③：ワーキング・プアを考える
第14回　講義のまとめ①
第15回　講義のまとめ②

【成績評価の方法】
レポート　80%　出席　20%

【教科書】
特になし

科目名　クラス　講義区分	
社会学特講－キャリアカウンセリング入門　＜通期＞	
西　川　桜　子	２単位

【講義概要】
職業は、毎日の生活の仕方、人間関係、生活環境、時には余暇活動などの仕事以外の活動にも影響を及ぼします。ですから、職業選択は、生き方の選択でもあります。本科目では、“キャリア”を職業や職歴だけでなく、家庭内での仕事、地域・ボランティア活動、趣味活動なども含めた幅広い概念としてとらえ、個人の特性を活かした職業や生き方の選択を支援する“キャリア　カウンセリング”の基礎を解説します。学習したことが”生きた知識””実生活で役立つ知識”として身に付くように、ワークシートやアクティビティーをたくさん取り入れた授業を行います。

【学習目標】
受講生の皆さんが、キャリア　カウンセリングの歴史、（代表的）理論、基本的なプロセス（進め方）、テクニック（技巧）、コミュニケーションスキル、人生設計・職業選択における人間の多様性や人権に関する問題について理解することを目標とします。本科目でキャリアの選択に影響する様々な要因について学習することは、受講生の皆さんが自分自身をていねいに見つめなおし、自己理解を深め、将来の職業や生活全般について考える良い機会になります。

【講義計画】
第１回　授業計画、課題、評価方法の説明
第２回　カウンセリングとは？
　人はなぜ働くのか？　“キャリア“が意味すること
　キャリアカウンセリングとは？　キャリア　カウンセリングの必要性・ニーズ
第３回　キャリアカウンセリングの歴史
　春学期末レポート（課題）とキャリアインタビューレポート(課題)　の説明
第４回　キャリア　カウンセリングの理論　Ｉ　―　特性因子理論、A Needs Approach
第５回　キャリア　カウンセリングの理論　II　―　発達学的理論
第６回　キャリア　カウンセリングの理論　III　―　類型学的理論
第７回　キャリアカウンセリングの理論　IV　―　社会学習理論
第８回　キャリア　カウンセリングのプロセス（進め方）
第９回　第１ステップ　現状把握・自己分析　“Who am I?”
　セルフ　アセスメント　I　―　興味、性格
第10回　セルフ　アセスメント　II　―　価値観
第11回　セルフアセスメント　III　―　態度、動機、使命感
第12回　セルフアセスメント　IV　―　技術・技能、能力
第13回　セルフ　アセスメント　V　―　役割、キャリアジェノグラム（家系図）
第14回　セルフ　アセスメント　VI　―　キャリアの壁
第15回　秋学期の授業計画、課題、評価方法の説明
　キャリアカウンセリングのコミュニケーションスキル　I
　―非言語要素（姿勢、目線、身振り、手振り、表情、声、身体スペース、癖）
第16回　コミュニケーションのレベル
　キャリアカウンセリングのコミュニケーションスキル　II
　―感情反映、言い換え
第17回　“自分について話す・自己を語る”ことの意味
　キャリアカウンセリングのコミュニケーションスキル　III
　―質問、まとめ
第18回　キャリアカウンセリングのコミュニケーションスキル　IV
　―矛盾提示、解釈、情報提供、自己開示
第19回　抵抗するクライエントの理解と対処方法、対話的関係の自己点検
第20回　第２ステップ　目標設定　“Where am I going?”
第21回　第３ステップ　目標達成　“How do I get there?”
　フォローアップ　―　キャリアカウンセリングの評価と関係の終了
第22回　多様性と人権、偏見・差別と“特権”
　これらの事柄が、キャリアプランに与える影響
第23回　偏見・差別のメカニズム、職業差別と就職差別
第24回　性という視点からとらえたキャリアカウンセリング　I
　―男らしさ“”女らしさ”のイメージがキャリア選択・発展にもたらす影響
第25回　性という視点からとらえたキャリアカウンセリング　II
　―女性・男性の（心理的）特徴・問題、あって良い違い？必要のない違い？

第26回　性という視点からとらえたキャリアカウンセリング　III
　　　　―性別役割分業、性の多様性
第27回　キャリアカウンセラーに求められるもの、キャリアカウンセリングの関連資格
　　　　復習、学年末試験の説明
第28回　学年末試験

【成績評価の方法】
試験　25%　レポート　50%　出席　25%
春学期末レポート（“自分発見レポート”　又は　“事例検討レポート”）(25%)
キャリア インタビュー　レポート (25%)
学年末試験 (25%)
授業出席・参加状況 (25%)

【教科書】
宮城まり子 キャリアカウンセリング　21世紀カウンセリング叢書
駿河台出版社

【参考文献】
『カウンセリング　テクニック入門』(大谷彰著)
（有）二瓶社　(ISBN: ４-86108-011-８)

【備考】
毎週授業中にプリントを配布します

科目名　クラス　講義区分	
社会学特講－死生観の社会心理学　＜通期＞	
渡　部　美穂子	４単位

【講義概要】
私たちが日常生活で死について深く考えることはあまりない。その一方で、初等教育の現場でも「命の大切さ」を取り上げる必要性がかまびすしく議論されるほど、青少年による凶悪犯罪やいじめ、自殺問題は深刻であり、さらには脳死臓器移植、終末期医療など、死に関わる社会問題は現代における重要なテーマのひとつである。

【学習目標】
この講義では、受講生のみなさんに「自分自身の死」だけでなく、「近しい大切な他者の死」の問題について考えてもらうことを通して、少子高齢化が進む現代社会が抱えるさまざまな問題についての考察をも深めてもらうことを目的としている。そのため、ドキュメンタリー映像などを用いて死に直面する家族などの姿に接して、その内容についてのグループ討議にも参加してもらう。週に一度、真剣に死について思いをはせる、自分の意見を他者に伝えて討論する、ということを通して、自身の死生観について熟考していただきたい。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業内容の説明など）
　　　　現代における死の問題
第２回　突然の死とグリーフ・ケア(１)
第３回　突然の死とグリーフ・ケア(２)
第４回　突然の死とグリーフ・ケア(３)
第５回　悲嘆の心理(１)
第６回　悲嘆の心理(２)
第７回　グループ討議
第８回　がんの告知問題(１)
第９回　がんの告知問題(２)
第10回　死の受容過程(１)
第11回　死の受容過程(２)
第12回　グループ討議
第13回　ホスピス・ケア(１)
第14回　ホスピス・ケア(２)
第15回　試験実施せず（レポート課題あり）
第16回　脳死臓器移植問題(１)
第17回　脳死臓器移植問題(２)
第18回　脳死臓器移植問題(３)
第19回　グループ討議
第20回　日本人の死生観・遺体観
第21回　日本人の宗教性・来世観
第22回　自殺について(１)
第23回　自殺について(２)
第24回　自殺について(３)
第25回　グループ討議
第26回　高齢者の心理(１)
第27回　高齢者の心理(２)
第28回　自己と他者の死への態度(１)
第29回　自己と他者の死への態度(２)
第30回　試験（予定）

【成績評価の方法】
試験　20%　レポート　30%　出席　50%
ほぼ毎回、小テストや講義内容に関する記述報告をしてもらうことで、出席を確認するとともに、真摯に授業に取り組んでいるかを評価して、それを出席点とする。また、テーマ内容に沿った参考文献を読んで少なくとも１度はレポートを作成してもらう予定である（詳細は講義中に説明する)。
　深刻なテーマであることから、私語などで他の受講生に迷惑をかける行為には厳正に対応する。

【教科書】
使用しない

科目名　クラス　講義区分	
社会学特講－日本人の悩みの変遷　＜秋＞	
池　田　知　加	２単位

【講義概要】
この講義は、新聞や雑誌に掲載された人生相談コラムを資料としながら、一般の人たちが日々の生活の中で、どのような問題に悩み、また、その問題に対してどのような解決や対処方法を考えてきたかについてみていきます。そうした個人が抱える悩みや問題は、裏返せば、一人ひとりにとって「幸せ」の内実を映し出すものでもあります。そのため、本講義では個人的な悩みとその向こうにある幸福の内実とそれらの変化を同時にみていくことになります。そして、その悩みの変化から、戦後日本社会の社会意識の動向や社会のあり方を考察していきます。それは、幸せになりたい、今のこの現状をどうにか変えたいという願いを、社会とつなげて考えてみるということです。

【学習目標】
「人生相談」といった質的資料を分析するための方法をまずは理解したうえで、分析することができる。そして、人の悩みや、悩みへの解決策というのは、個別的なものでありながら、時代の価値観や社会のあり方を大いに反映していることを理解し、説明することができる。つまり、個別的な事柄から、普遍的な何かをとりだしてみること、そしてそれを各自がフィードバックして、自分にあてはめたりしながら、社会のあり方へと思考を広げて、「私」の問題を「社会」のあり方や問題とつなげていくような思考ができる。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　資料への視点①自己開示コミュニケーション
第３回　資料への視点②説得コミュニケーション
第４回　資料への視点③相互作用としてのコミュニケーション
第５回　女性の悩みの変遷①女性にとっての「家庭」
第６回　女性の悩みの変遷②「家庭」と「愛情」の意味変容
第７回　男性の悩みの変遷①男性にとっての「仕事」
第８回　男性の悩みの変遷②「家庭」と「仕事」のはざまで
第９回　若者の悩みの変遷①人生目標の変化
第10回　若者の悩みの変遷②個性主義の教育
第11回　自己決定主義の現在
第12回　個人化と意味喪失
第13回　人生問題を語る空間
第14回　講義の総まとめ：個の問題と社会へとつなぐ
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　100％　レポート　０％
期末試験で評価します。試験は授業の内容を理解しているかを問います。また、授業中に提出するミニレポートを書くことが授業内容の理解につながります。

【参考文献】
池田知加『人生相談「ニッポン人の悩み」 幸せはどこにある?』光文社新書　4334032968

【備考】
準備学習の指示
・毎回配布するレジメを読み直して、自分なりに理解を深めること
・講義で扱ったテーマに関するニュースなどに注目しておくこと

科目名　クラス　講義区分	
社会科・公民科教育法　01＜通期＞	
飯　島　敏　文	４単位

【講義概要】
社会科という教科の成立とその後の展開を概観しながら、社会科や公民科という教科の本質を特に教育課程の意義と特徴の面から明らかにする。包括的理論的な問題を具体的な授業実践と重ねて考察をすすめることで、社会科・公民科の教育課程編成の方法に関する理解を深め、真に公民的資質の形成に資することができるような社会科授業・公民科授業を構想し実践する能力へと導く。

【学習目標】
社会科・公民科の教育課程の意義と特徴を正しく理解し、教育課程編成の方法についての本質的理解を踏まえて、社会科・公民科の学習指導計画の立案と授業の実践ができるようになる。社会科・公民科教育課程の意義を反映した学習目標の設定、生徒理解、教材解釈と学習内容構成、学習活動の組織、及び正しい教育評価ができるような能力を身につける。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等、シラバスを事前に読んでおくこと。）
第２回　社会科教育課程の意義の概説
第３回　社会科教育課程の意義１―学習指導要領から読み取ることができる社会科の特徴
第４回　社会科教育課程の意義２―社会科の理論的枠組みと主要な社会科プラン
第５回　社会科教育課程の意義３―社会科理論の実践への翻訳
第６回　社会科教育課程の意義４－成立から現在までの社会科教育課程の変遷
第７回　社会科教育課程編成の方法の概観
第８回　社会科教育課程編成の方法１―社会科教育課程の意義を反映した社会科教育計画（前）
第９回　社会科教育課程編成の方法２―社会科教育課程の意義を反映した社会科教育計画（後）
第10回　社会科教育課程編成の方法３―教材の選択及び学習活動の構想
第11回　社会科教育課程編成の方法４―学習指導案への具現化
第12回　社会科授業分析の理論
第13回　社会科授業分析のケーススタディ
第14回　公民的資質の概念
第15回　公民的資質の基礎を育てる社会科指導構想
第16回　オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等、シラバスを事前に読んでおくこと。）
第17回　公民科科教育課程の意義の概説
第18回　公民科教育課程の意義１―中学校社会科及び高等学校公民科との関係
第19回　公民科教育課程の意義２―学習指導要領の記述から読み取る公民科の理論的枠組み
第20回　公民科教育課程の意義３―公民科の理論と公民科諸科目の学習指導との関係
第21回　公民科教育課程編成の方法の概観
第22回　公民科教育課程編成の方法１―公民科教育課程の意義を反映した教育計画の立案
第23回　公民科教育課程編成の方法２－生徒及び地域・学校の実態を反映した公民科教育課程編成の方法
第24回　公民科教育課程編成の方法３―教材の選択及び学習活動の構想
第25回　公民科教育課程編成の方法４―学習指導案への具現化
第26回　現代社会の目標及び内容構成と学習指導計画
第27回　政治経済の目標及び内容構成と学習指導計画
第28回　倫理の目標及び内容構成と学習指導計画
第29回　学習指導案の具体的事例
第30回　公民としての資質を育てる公民科授業の要件

【成績評価の方法】
試験　50％　レポート　30％　出席　20％
出席状況、授業内小レポートの内容、及びレポート試験の内容を総合的に評価します。（前期・後期共レポート試験があります）

【教科書】
テキストは指定しませんが、下記図書は必須です。
『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』
『中学校学習指導要領解説　社会編』
『高等学校学習指導要領解説　公民編』

【参考文献】
講義内においてその都度紹介します。必要最低限の文献についてはコピーを配布いたしますが、欠席者への再配布はいたしません。

科目名　クラス　講義区分	
社会科・公民科教育法　02<通期>	
大　野　順　子	４単位

【講義概要】

本講義では、社会科・公民科教育がもつそれぞれの教育課程における意義と特徴を理解するため、授業計画に記載した内容に関連する文献やテキスト、リサーチペーパーなどを多数読んでいく。受講生はグループ（各グループ４名程度）に分かれ、毎時間課題として挙げた資料や文献について要約し、グループごとに授業で発表する。※担当以外の者も毎回文献要約を提出する。

また履修全学生に対して、授業実践・運営能力を身につけるためにも社会科・公民科学習指導案の作成や模擬授業等の実施も積極的に行う。

以上より、受講生には毎時講義への主体的参加や貢献が求められるため、遅刻や欠席、毎回の提出物・発表課題に対しては授業運営上、またそれぞれの所属グループに対しても多大なる迷惑がかかるため厳しく指導する。本講義履修希望の学生にはこれらの点をよく理解し、履修すること。

【学習目標】

現在、子どもたちのなかでは社会と関わる力が弱体化し、社会問題への関心が希薄化している状況にあるといわれている。そうしたなか、子どもたちの社会参加や社会認識を高め、社会問題に対する関心を促す教育課程として、社会科・公民科教育が位置づけられている。ここでは、社会科教師として、社会科教育、及び、公民科教育設立の歴史的経緯をふりかえり、その意義と特徴、重要性を正しく理解しながら、社会科・公民科のカリキュラムの立案（指導案の書き方も含む）と授業実践が行え、正しい教育評価ができる資質と能力を身につける。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション（欠席厳禁、必ず出席すること）
　　　　<重要>欠席者には「特別課題」を与える。
第２回　中学校教育課程の意義について
第３回　社会科教育課程の意義１－日本社会科の設立理念とその変遷
第４回　社会科教育課程の意義２－学習指導要領等の記述から読み取る社会科の理論的枠組み
第５回　社会科教育課程の意義３－社会科諸理論を反映した社会科授業の構想
第６回　社会科教育課程の意義４－社会認識教育としての社会科のあり方
第７回　中学校教育課程編成の方法について
第８回　社会科教育課程編成の方法１－社会科教育課程の意義を活かした社会科教育カリキュラム
第９回　社会科教育課程編成の方法２－地域社会を活用した社会科教育の実践
第10回　社会科教育課程編成の方法３－社会科における教材の選択及び学習活動の構想
第11回　社会科教育課程編成の方法４－海外事例との比較研究
第12回　模擬授業１
第13回　模擬授業２
第14回　模擬授業３
第15回　まとめ
第16回　オリエンテーション
第17回　高等学校教育課程の意義について
第18回　公民科教育課程の意義１－高校公民科：その設立過程と地理歴史科との関係
第19回　公民科教育課程の意義２－学習指導要領等の記述から読み取る公民科の理論的枠組み
第20回　公民科教育課程の意義３－公民科教育に求められる主要なパースペクティブ
第21回　公民科教育課程の意義４－公民的資質・市民的資質の育成
第22回　高等学校教育課程編成の方法について
第23回　公民科教育課程編成の方法１－公民科教育課程の意義を反映したカリキュラムの立案
第24回　公民科教育課程編成の方法２－地域社会を活用した公民科教育の実践
第25回　公民科教育課程編成の方法３－公民科における教材の選択及び学習活動の構想
第26回　公民科教育課程編成の方法４－海外事例との比較研究
第27回　模擬授業１
第28回　模擬授業２
第29回　模擬授業３
第30回　まとめ

【成績評価の方法】

①出席状況（重視、原則遅刻は欠席とみなす）
②毎時間のレポート・課題（毎週課題：15回程度を出しますので期日厳守すること。期日外提出は原則受け付けない）
③授業への参加・貢献度（重視）
④模擬授業の内容（指導案作成も含む）
⑤期末試験等
以上、すべてが評価に等しく関係する。

具体的な内容については第一回目の講義でレジュメを配布します。
尚、下記※印の点についても評価対象となります。
※学習指導案の作成、及び模擬授業の実践も成績評価の一部とする。
※現在、小中高等学校において学習支援ボランティアやスクールサポーターとして活動中の人に関しては成績評価に加点する。

【教科書】

大澤克美「確かな学力」を育む小学校社会科の授業づくり―これからの学習指導に求められる専門性 東洋館出版社
講義前半の主要なテキストとなりますので第２回の講義までに必ず「購入」すること。
『中学校学習指導要領解説　社会編』
テキストは特に指定しませんが、上記図書は授業理解を深めるためにも各自準備すること。
『高等学校学習指導要領解説　公民編』
テキストは特に指定しませんが、上記図書は授業理解を深めるためにも各自準備すること。

【参考文献】

その都度準備します。

【備考】

【準備学習の指示】
本科目を履修するにあたり、テキストにあげた学習指導要領（中学校・高校）について必ず、熟読しておいてください。第一回目の授業時に確認テストを実施予定。
※文部科学省のHP等でも閲覧可